

頁數		行數		誤		正	
六	二八	五	左ヨリ	ノミト々	ノミトス		
同	同	四	若ク	開市日ノ翌日	開市日ノ翌日		
同	同	三	第三節(二號)	第四節(四號)	第四節(四號)		
同	表末行		生天竺布	生天竺布	生天竺布		
二九	其二		第五節商習慣(口)號	第六節商習慣(二)號	第六節商習慣(二)號		
三〇	第二表一行上		價格數量	數量價格	數量價格		
四六	(五)ノ三行		第五節(口)號	第六節(二)號	第六節(二)號		
四九	第一表下段七		内地人へ	内地人へ	内地人へ		
五九	左ヨリ	四	第四節(イ)號	第五節	第五節		
同	同	二	第五節	第六節	第六節		
六五	同	七	同四二十年	同四十二年	同四十二年		
六八	同	三	十萬圓	二十萬圓	二十萬圓		
七四	同	九	翌年九頃	翌年九月頃	翌年九月頃		
同	同	五	鱈ハニ	鱈ハ	鱈ハ		

元山方面商工業調査

朝鮮總督府農商工部

380.951
又5387



국립중앙도서관
1971. 10

目次

第一項	一般情況	一頁
第二項	工業	一九
第一節	總說	一九
第二節	製品及原料品	二四
第三節	製造材料品	三一
第四節	工業ノ經營者及經營方法	三二
第五節	製品販賣	四三
第六節	工業ノ前途	四七
第三項	商業	四八
第一節	總說	四八
第二節	外國貿易	五二
第三節	朝鮮內地商業取引	七二
第四節	市場	七八
第五節	客主居間	八二
第六節	商慣習	八二
第七節	商慶	八五

第八節	度量衡	八七
第九節	金融	九一
第十節	通貨及流通証券	九七
第十一節	保險	一〇三
第十二節	倉庫業	一〇九
第十三節	運送業	一一一
第十四節	契	一一八
第十五節	組合會社其他ノ關係	一二一
第十六節	商工業助長ノ施設	一二四
第四項	各種產業ノ情況	一二五

元山方面商工業調査報告

明治四十三年調

囑託 葭濱忠太郎調

第一項 一般情況

元山港ハ咸鏡南道元山府下ニ在リ本府ハ南道中最少ノ地域ニシテ今ノ元山港元日本專管居留地ノ地域モ亦開港以前ニ在リテハ燧燧洞ト稱スル蘆荻叢生ノ濕地ニシテ蟹戶漁家三五點在セル一寒村ニ過キサリシモ元山里ナル朝鮮人部落ニ至リテハ其居民ノ多クハ半漁半農的生活ヲ爲シ純然タル商賈コソ無論今日ノ盛ニ如カサリシヤ遠カリシト雖然トモ猶本道特産ノ明太魚若布(甘藷)昆布及麻紵布等ノ唯一集散地タリシト又北關ノ凶荒ニ備フヘク交濟倉元山倉ノ設置アリテ常ニ慶尙道ノ穀ヲ積藏シアリタル等ニテ諸道ノ商賈相來往シ古來北方ニ於テ商業ノ要樞タリシナリ

要スルニ元山港ノ北灣ナル松田灣ハ文川、高原、永興ノ三郡ニ沿ヒ東隣安邊郡亦灣口ニ枕ミ此五郡相倚テ以テ元山商港ノ主力ヲ爲スモノトス明治十三年初メテ(實際十二年八月)開港セラル、ヤ從來清鮮陸上貿易ニ於テ幾多ノ經驗ヲ有セル平安道商人ハ奮テ元山ニ移住シ日鮮貿易ニ從事シタリ當時ノ内地人ハ猶未タ外國貿易ノ智識ニ幼稚ナリシ爲メ却テ往々彼等平安道移住者ノ爲メニ御セラル、カ如キ感アリキ故ニ彼等ノ多クハ元山港ニ於テ成効シ隨テ鮮人部落ハ頓ニ膨脹シテ今ヤ當時ノ三倍ヲ超ユルニ至リ而シテ所謂客主(問屋業)ノ重立チタル者ハ大槩平安道人ニシテ元山附近ノ大地主モ亦實ニ此輩ニ多ク現今ノ客主中猶頭角ヲ現ハセル者モ多クハ平安道系統ノ人ニ屬ス

(一) 位置

元山府ハ北緯三十九度九分ヨリ十一分ニ亘リ東經百二十七度二十分ヨリ二十七分ニ亘ルノ地ニ在リテ南ハ安邊郡ニ隣リ西ハ馬息嶺長林嶺深川嶺ノ天險ヲ以テ亦安邊郡ノ西北端ナル帶狀地區ト界シ近ク平安道陽德黃海道谷山ノ二郡ト相望ミ東ハ

直チニ日本海ニ面ス地形粗正方ヲ爲シ東西六里左右南北五里左右ニシテ其面積約三十万里アリ
 而シテ半嶋東海岸無二ノ良港タル元山港ハ北緯三十九度九分ヨリ十九分ニ亘リ東經百二十七度二十分ヨリ三十分ニ亘ルノ
 地点ニアリ

(二) 地 勢

府内西北部ハ山嶽重疊シ唯海面ニ沿ヘル一部分平坦ナルノミ耕地ハ六千九百町歩ニ過キス其多クハ畑地ニシテ水田ハ其三
 割八分ヲ出テス山間ハ礫确ノ地尠カラサルモ海岸平坦ノ地ハ稍々膏腴ニシテ就中元山里附近ハ頗ル肥沃古來黃海道ノ海州
 ト邦内ノ雙壁ト稱セラル河川七條アリ水運ノ便ヲ得ルニ至ラサルモ灌溉ノ利ヲ受クルコト尠カラス且其中陽日、赤田ノ二
 條ハ水源近ク水量裕ニシテ水力電氣事業及飲料水道施設等ニハ殆ント理想的好水流ナリトス是レ元山居留地ニ於テ俱ニ近
 ク兩事業ノ實現セラレントスル所以ナリ但赤田川ハ府内最モ人煙稠密ナル元山里及元山居留地ノ中央ヲ流出スルモノ年久
 シク堤防修理ノ抛擲セラレ居タルカ故ニ雨期ニ至レハ兩岸容易ニ氾濫シ歲々爲メニ日鮮人ノ被害尠少ナラス依テ今ヤ之レ
 カ修理工事ニ着手セラレントス

道路ノ京城ヨリ北朝鮮ニ通スル國道ハ安邊ヨリ來テ海岸ヲ東西二線ニ岐レ文川ニ北行シ平壤ヨリスルモノハ國道ト稱スヘ
 キ大道ニ非ス甚險惡ナル小路ニシテ一ハ平安南道ノ陽德郡ヨリ馬息嶺ヲ踰ヘ直東シテ居留地ニ達スルモノト一ハ平安南道
 孟山ヨリ東門外ヲ踰ヘテ永興郡ニ入り右折高原、文川二郡ノ海岸線國道ヲ經テ德源ニ入ルモノトアリ後者ハ先年來平元鉄
 道敷設豫定線ニ擬セラレタルモノナリ

郡内ヲ分チテ六社トシ府内、北面ノ二者ハ農耕ヲ專業トシテ龍城、州北ノ二社ハ沿海ノ部落ニ限リ半農半漁ヲ爲シ縣、赤
 田ノ二社ハ商業者、工業者、勞働者等多シ

(三) 氣 候

元山附近ノ氣候ハ概シテ寒暑共ニ甚シク酷烈ナラス夏季ノ氣温ハ年々若干昇高ノ度ヲ増シ冬季ノ氣温ハ之レニ反シテ歲々若干低下ノ度ヲ減シ斯クシテ漸ク中和ニ近ツカントスルモノノ如シ四時ノ變化中夏冬二季ニ於テハ風ノ左右スル處トナリテ著シク激變シ隔日若クハ晝夜ノ差十度乃至二十度ナルコトアリ而シテ冬季中最寒ノ氣温ハ一月又ハ二月ニシテ此兩月ニ於ケル平均氣温ハ攝氏氷点下零度四、乃至九、五(明治四十二年一月中旬ノ最高極度攝氏九、六最低極度攝氏零度一五、五)ニ至リ七條河川ノ上半流ハ無論堅氷閉チ又灣内嶋嶼ノ周邊及沿岸ノ渟滙ハ時ニ氷結シテ徒歩シ得ルニ至ルコトアルモ如斯ハ數年ノ間適マ一二回ニ過キス夏季ノ盛暑ハ八月ニシテ此月ニ於ケル平均氣温ハ攝氏十九度乃至二十六度(明治四十二年八月中ノ最高極度攝氏三三、六最低極度攝氏一七、五)ニ至ル之レヲ略ホ同緯度ニ位セル内地ノ秋田若クハ山形ニ比スレハ冬季ノ氣温ニ於テハ殆ント伯仲ノ間ニ在リ夏季ノ氣温ハ稍高度ヲ示スト雖朝夕ハ著シク涼冷ニシテ且暑氣ノ期間モ亦至テ短カシ

春季ハ多ク晴天ナレトモ毎日午後ニ至レハ南西又ハ西北風吹キ荒サミテ黃塵ヲ捲キ秋季ハ快晴連旬實ニ一年中ノ好時節トス

雨期ハ古來七月長雨ト稱シ陰曆七月ヲ普通トスレトモ近來ハ内地入梅ノ頃ヨリ降雨アリ時ニ一週日以上ニ及フコトアレトモ眞ノ雨期ハ七月中旬ヨリ九月中旬迄トス此間霪霖連旬ニ彌リ諸川出水シテ爲ニ交通杜絶シ家屋田畑等ノ被害尠シトセス雪ハ十一月初旬ニ始マリ翌年三月下旬ニ終リ霜ハ十一月ニ始マリ翌年四月下旬ニ終ルヲ通例トス

(四) 戶數及人口

(イ) 戶數及人口

明治四十三年五月末ノ調査ニ係ル元山居留民團區域内ニ於ケル内地人ノ戶數ハ一千三百十四戶人口ハ男二千三百十二人女二千百四十四人合計四千四百五十六人ニシテ其内譯左ノ如シ

内地人ノ部

地 區	戸 數	人		口 計
		男	女	
專管居留地	一、〇〇二	一、八三七	一、六七九	三、五二六
居留地外各地	三三二	四七五	四六五	九四〇
合 計	一、三三四	二、三一二	二、一四四	四、四五六

朝鮮人ノ部
 元山警察署カ民籍法ニ據テ調査シタル最近ノ結果ハ元山府六社ノ戸數ハ六千四百〇九戸ニシテ其人口ハ男一万九千七百五十一人女一万四千九百三十九人合計三万四千六百九十人ナリ其内譯左ノ如シ

社 名	戸 數	人		口 計
		男	女	
州 北 社	三四五	九八六	七六七	一、七五三
北 面 社	五七四	一、五四二	一、三八七	二、九二九
龍 城 社	五九〇	一、五五六	一、二九〇	二、八四六
府 内 社	六三三	一、八一七	一、六五六	三、四七三
赤 田 社	一、一七二	三、二二二	二、八六二	六、〇八四
縣 社	三、〇九五	一〇、六二八	六、九七七	一七、六〇五
合 計	六、四〇九	一九、七五一	一四、九三九	三四、六九〇

支那人ノ部

支那人ノ戸數ハ其專管居留地及朝鮮人部落ニ雜居セル者合計六十四戸人口ハ男二百九十五人女六人合計三百〇一人ニシテ其内譯左ノ如シ

地 區	戸 數	人 口		計
		男	女	
清國專管居留地	四六	二〇九	一	二一〇
朝鮮人部落雜居	一八	八六	五	九一
合 計	六四	二九五	六	三〇一

(ロ) 戸數及人口ノ増減

去ル明治三十九年時ノ警務顧問部ノ調査ニ依レハ元山府ニ於ケル朝鮮人ノ戸數ハ五千五百三十八戸人口男一萬二千五百七十七人女一萬〇五百九十六人合計二萬三千七百七十三人ニシテ其後四十一年末ニ於テ元山警察署カ調査セシモノハ戸數ニ於テ前者ヨリ八百五十八、人口ニ於テ七千八百八十三ヲ増加シ更ニ民籍法ニ據レル元山警察署ノ最近調査ハ戸數六千四百〇九戸人口男一萬九千七百五十一人女一萬四千九百三十九人合計三萬四千六百九十人ナレハ之レヲ三十九年ノ調査ニ比シテ戸數ニ於テ八百七十一、人口ニ於テ一萬一千五百七十七人ノ増加ヲ呈セリ然レトモ之レ素ヨリ此數年間ニ於テ如斯戸數人口ノ激増スヘキ謂レナク要スルニ其調査ノ都度其方法カ疎ヨリ密ニ入り漸ク真相ニ近ツキタハ結果ニ外ナラサルヤ論ナキナリ

(ハ) 戸數及人口増減ノ事由

本府ノ戸數人口ハ無論年々増進ヲ示セリ其原因ノ主ナルモノハ近年京畿道人カ生存競争ニ堪ユル能ハスシテ比較的的生計難

輕キ當地方ニ流入スル者少ナカラサルニ在ルカ如シ而シテ司法行政ノ改善ニ伴ヒ墮胎ノ惡習減少シ來タリ又一般衛生ノ漸ク重ンセラル、ニ至レル等亦増進ノ因タラスンハアラス若シ夫レ他年一日京元鐵道ノ開通ヲ見ルニ至ラハ元山港ハ實ニ海陸交通ノ便ヲ有スルコト東海岸ニ冠タルノ地其戶數人口ノ激増スヘキヤ蓋シ豫想ノ外ニ出ツルモノアルヘシ

(五) 人民ノ性質

咸鏡道ノ地ハ由來陸產物ニ乏シク周歲中孜孜營々事ニ從フニ非レハ以テ其生計ヲ全フスルコト能ハス故ニ一般人民ノ性質ハ兎ニ角勤儉ニシテ亦往々他道ニ見ルカ如キ不逞ノ徒遊惰ノ民甚尠シ適々無賴漢ヲ出タセハ多クハ他道流入ノ輩ノミト々永興以北北青以南ノ民ハ古來譎黠慆悍ヲ以テ名アリト雖德源郡ノ人民ハ比較的温良ニシテ品性モ亦甚シク陋劣ナラス稍ス恒心アリテ妄リニ政治的云爲ヲ敢テシ又ハ不軌ヲ圖ルカ如キ者ヲ出セシコトナシ要スルニ朝鮮人中交ハリ易キ人民ト謂フヲ得ヘシ

(六) 嗜好

嗜好トシテ特筆スルニ足ルモノナシ唯朝鮮人ノ飲用スル酒類概テ濁醪ヲ主トスレトモ燒酒ハ本府ノ名物ナルカ故ニ從テ他地方ノ者ニ比シ階級ノ上下ヲ通シテ嗜好者多キカ如シ

遠キ以前ニ於テ平安道ヨリ來レル小數人中間阿片喫煙者アリシカ日清戰役ノ後支那人ノ誘惑ニ依リテ猝カニ其數ヲ増シ數年ノ後頗ル猖獗ヲ極メ爲ニ生計難ヲ生シ小ニシテ竊盜ヲ働ク者大ニシテハ產ヲ破リ命ヲ隕ス者尠カラス癮者續出殆ント救済スヘカラサルノ慘狀ヲ呈シタリシモ近時警察ノ取締リ嚴重ニシテ漸ク喫者減少シ未タ全然防遏ノ場合ニ至ラサルモ復々蔓延ノ虞無キカ如シ

諸種ノ裝飾品又ハ化粧品、食器類等ノ如キハ本來儉約主義ノ人民トテ比較的富者ノ子弟ナル小數ノ學生輩カ衣服帽子洋靴洋傘洋杖等ニ不相應ナル代價ヲ拂フノ外日常必須ノ器物ニ非ルヨリハ衣食住ノ三者ヲ通シテ何等嗜好ヲ有セサルカ如シ

(七) 慣 習

慣習ノ著シク他ト異ナレリト思惟セラル、モノ二、三ヲ舉クレハ

第一 大小各開市日ノ商人中婦人ノ多キ一事ナリ就中穀物ノ仲買人小賣人等ハ婦人最モ多キニ居リ又居留地ニ來往シテ魚類菜蔬草花ノ類ヲ鬻ク者或ハ牛牽ニ馬追ニ婦人ノ勤勞スルコト他道其比ヲ見ス隨テ女權強ク中流以下ノ輩ニ在リテハ往々夫カ婦ノ爲ニ打擲セラル、カ如キ奇觀ヲ呈ス

第二 概シテ威鏡道ハ冠婚葬祭共ニ其式南方ニ比シテ疎略ナリ他道ニ在リテハ結婚當日新郎新婦共ニ垂髻ヲ結髮ニ更ムルノ例ナルモ威鏡道ハ新郎ノミ即日結髮シ新婦ハ數日ノ後ニ於テ之レヲ爲ス又婦カ夫ヨリモ若干年長ナル朝鮮普通ノ事タルカ如キモ此地方ニ在リテハ六七歳ノ相違ハ通例ニシテ甚シキハ十三四歳ノ年長者アリ是畢竟少年ノ新郎ヲ香餌トシテ成年ノ婦女ヲ迎へ之レヲシテ家政ヲ助ケシムル即チ經濟的關係ヨリ生セシ弊風ナリトス故ニ此年齡ノ相違ヨリ來ル弊害名狀スヘカラサルモノアリ

第三 祖先ノ墳墓ヲ他郡又ハ他村ニ有スル者若クハ自村ニ適當ナル墓地ナク依テ他ノ地ヲ買收若クハ借用シテ新タニ墳墓ヲ作ル者ハ其墳墓ノ保管料若干ヲ其村ニ支拂ヒ村ハ之レヲ共有財産ニ編入シ而シテ被保管者ノ爲ニ永代展墓ノ禮ヲ修ス是レ宛然内他ノ信徒カ其寺院ニ豫メ祠堂金ヲ納付シ死者ノ爲寺院ヲシテ永代忌日祭祀ヲ執行セシムルノ例ニ等シ是レ他道ニ其例ナキ美風ナリトス

第四 家屋ハ比較的材料ノ豐富ナル爲南方ニ比シテ規模稍大ニシテ且清潔ナルカ如シ特ニ溫突室ノ上部ニハ必ラス方圓種々ノ形ヲ爲セル小開闔窓ヲ作り以テ室内溫度ノ加減ヲ自由ナラシムルノ設備ハ他道絶無ノ事ニシテ確カニ威鏡道ノ特色ナリ唯炊竈ヲ頗ル大ニシテ夜間其上ニ家族ノ多クカ雜寢スルコト畢竟瓦寒ノ地煖ヲ貪ルノ餘弊ナルヘシト雖爲メニ庖厨ヲ汚スコト甚シク陋醜見ルニ堪ヘサル者アリ

(八) 交通

(イ) 陸上交通

主要道路ハ元山ヲ中心トシテ北ハ海岸線ヲ走リテ國境ニ達シ南ハ安邊郡ヲ貫キ鉄嶺ヲ踰ヘ江原道金剛山脈ノ西部ヲ經テ京城ニ達スルノ一大幹線アリ元山以南ハ日清日露而戰役ニ依リ以北ハ日露戰役ニ依リ兩軍ノ修築スル所トナリ之レヲ戰前ニ比スレハ其險夷同日ノ論ニ非ス西ハ馬息嶺ノ天險ヲ踰ヘテ平安道ニ通スルノ道路アリ亦日清戰役ニ依リテ日軍ノ修築スル所トナリ稍險惡ノ度ヲ減シタルモ要スルニ國內有數ノ難路タルヲ失ハス

別ニ安邊高山驛ヨリ右折シ三防嶺ヲ踰ヘテ京城ニ通スルノ間道アリ京元鐵道ノ豫定線ナリ鉄嶺街道ニ比シテ里程數里ノ短縮ナルカ故ニ古來商旅ノ往來滋ク海運ノ便未タ今日ノ如クナラサル以前明太魚麻布海草等ノ貨物ノ京城ニ陸送セラル、モノ多クハ此道ニ依リキ山深ク水長ク風景賞スルニ足ルモノアレトモ其道路タルヤ極メテ嶮岨ナリ

要スルニ各主要地ニ通スル道路ノ聯絡ハ甚シク乏シトセス北部ノ幹線ハ四五ノ高嶺峻阪ヲ除ケハ槩ネ牛車ヲ通スルヲ得南部ノ幹線ハ北部ノ平夷ニ如カストスルモ猶其強半車ヲ通スヘシ然レトモ他ノ諸道ハ峯巒重々積礫累々雷ニ行車ヲ許サ、ルノミナラス往往牛馬ヲ行カシムルモ猶且難澁ナル處アリ交通運輸ノ不便勝テ言フヘカラス元山港否東海岸發展ノ爲ニハ近ク京元鐵道ノ敷設セラル、アリト雖更ニ平壤元山間ノ國道開築ノ如キハ最モ緊急事タラスンハアラス

(ロ) 海上交通

方今ノ海上交通ハ南ハ釜山ノ接續ニ依テ南西岸ノ諸港ニ連絡シ又釜山ヲ經テ内地ニ通シ北ハ清津城津ノ二港ヲ經テ露領浦鹽港ニ達ス而シテ其船隻ノ數航海ノ度數及寄航地等ヲ詳記スレハ

- 一 日本郵船會社 ハ一隻ヲ以テ毎月一回神戸浦鹽間ヲ定期航海シ釜山元山清津(城津缺)ニ往復寄航シ
- 二 大阪商船會社 ハ一隻ヲ以テ毎月二回大阪清津間ヲ定期航海シ釜山元山城津ニ往復寄航シ

三 大阪原田商會 ハ二隻ヲ以テ毎月六回關門雄基間ヲ定期航海シ釜山、元山、城津、獨津、清津、ニ往復寄航シ（遞信省命令航路）

四 神戸川崎造船所 ハ一隻ヲ以テ毎二十日ニ一回大阪浦鹽間ヲ定期航海シ神戸、關門、釜山、元山、城津、清津ニ往復寄航シ

五 大阪商船會社半御用船 ハ三隻ヲ以テ一ヶ月ハ六回一ヶ月ハ五回ノ割ニテ大阪清津間ヲ定期航海シ神戸、宇品、關門、釜山、元山、西湖、新浦、城津ニ往復寄航シ

六 隱岐汽船會社 ハ一隻ヲ以テ毎月一回西郷、隱岐、清津間ヲ不定期航海シ境（伯耆）鬱陵嶋、釜山、蔚山、浦項（以上慶尙道）江陵、襄陽、杆城、長箭（以上江原道）元山、西湖、前津、新浦、新昌、遮湖、端川（以上咸鏡南道）城津、獨津（以上咸鏡北道）ニ往復寄航シ

七 朝鮮人崔鳳俊ノ汽船 ハ一隻ヲ以テ毎月約三回浦鹽元山間ヲ不定期ニ航海シ城津清津ニ往復寄港ス
以上ノ船舶ハ十隻ニシテ其總噸數ハ一万六千四百二十三噸ニ達セリ更ニ沿岸航路ヲ專務トスルモノ

一 元山吉田回漕部（イ）ハ釜山雄基間ヲ毎月五回定期航海シ蔚山、迎日灣竹邊、江陵、襄陽、杆城、長箭、元山、西湖、前津、新浦、新昌、城津、明川、魚大津、獨津、清津、梨津ノ大小各港ニ往復寄港シ（ロ）ハ元山、雄基間ヲ毎月七回定期航海シ西湖、新浦、新昌、端川、城津、明川、魚大津、獨津、梨津ノ大小各港ニ往復寄航ス

二 韓國共同郵船會社 ハ二隻ヲ以テ毎月約四回釜山遮湖間ヲ不定期航海シ沿岸大小各港ヲ往復寄航ス

三 小宮萬次郎 ハ一隻ヲ以テ亦釜山遮湖間ヲ毎月約二回不定期ニ航海シ往復寄航前者ニ同シ

以上ノ船舶其數七隻總噸數三千五百七十噸アリ故ニ元山ニ寄港スル船舶ノ總數ハ前後十七隻ニシテ其總噸數ハ一萬九千九百九十三噸ニ達シ今日ノ北朝鮮貿易狀態ニ比シテ必スシモ其數ノ多カラサルヲ憂ヘス然レトモ前ノ如ク其回漕業者數多ニ

シテ各利害ヲ異ニセル結果配船意ノ如クナルヲ得ス昨年迄ハ一日ニ數隻入港若クハ出港スルコトアリ之レニ反シ元山ヨリ北セントスルモ又南セントスルモ數日間甚シキハ十日間以上船便ナキカ如キ奇觀ヲ呈シ其不便實ニ懊惱ニ勝ヘサル者アリキ輓近吉田回漕部配船ノ改正ニ依リ稍々其弊ヲ減シタルモ尙二日三日ノ間隔ハ通常事ニシテ毎月二三回ハ五日若クハ七日ノ間隔ヲ生スルヲ免レス

(ハ) 郵便 電信 電話

當元山郵便局ニ就テ調査スル所ニ依レハ大略左ノ如シ

元山局沿革ノ概要

- 一 明治十三年四月十四日開局郵便事務取扱開始
- 一 同年六月一日爲替事務取扱開始
- 一 十四年六月一日貯金事務取扱開始
- 一 三十三年五月一日小包事務取扱開始
- 一 三十七年七月十一日軍事爲替事務取扱開始
- 一 三十八年五月二十七日韓國元山郵便司及電報司ヲ繼承シ同時ニ電信事務取扱開始
- 一 三十九年一月管理事務ノ一部ヲ分掌ス其區域左ノ如シ
 - 咸鏡南道 咸鏡北道
- 一 同年四月一日軍用通信所事務繼承
- 一 同年六月十六日電話交換事務開始
- 一 四十一年十月一日ヨリ管理事務分掌區域ヲ左ノ通り改メラル

咸鏡南道、江原道ノ内(通川、高城、杆城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、平海、淮陽ノ各郡)

一 同日ヨリ分掌區域内ニ於ケル郵便所管督事務ノ分掌

一 同年十一月十五日市内ニ自働電話設置通話開始

一 同年十二月二十一日元山咸興間及西湖津間電話通話開始

一 四十三年一月十五日西湖津ニ特設電話開始

一 郵便ニ關スル情况

元山局ノ郵便區ハ市川町ヨリ遠市ニ至ル沿道一帶ノ地ヲ除キタル元山府一圓ニシテ内元山西町、本町、中町、旭町、柳町、東町、新町、春日町、支那居留地、烽燧洞、臥牛洞ノ内長徳洞ヲ普通區其他ノ地ヲ特別區トス普通區内ニハ無集配郵便所一ヶ所郵便函場十二ヶ所アリテ一日四回ノ集配ヲ爲ス又特別區ハ之ヲ四分シ元山局直備人ヲシテ一ヶ月三回乃至十回ノ配達ヲ爲サシム

京城元山間陸使ハ明治四十年冬期暴徒蜂起前迄ハ毎日發着シ而モ鐵嶺ノ險ヲ除クノ外ハ全線ニ亘リ夜間遞送セシヲ以テ遞送日數僅ニ三日ト七時間即チ四日目に到着ナリシモ其後護衛機關ノ關係上隔日便トナシタルノミナラス夜行便ヲ廢止シタルヲ以テ四日ト十一時間餘即チ五日ヲ要シ不便尠カラス然ルニ七月一日ヨリ毎日便ニ改ムルコト、ナリタレトモ未タ夜行遞送ヲ爲スマテニ至ラス

二 元山局ヨリ四方ニ發着スル郵便線路發着日數

陸 便

遞送線路	方	面	別	方遞	法送	回遞	數送	備	考

京城元山順送便	京畿道、忠清南道、全羅南道、慶尙南道、江原道(沿岸ヲ除ク)黃海道、平安南道(陽德、成川、江東ヲ除ク)平安北道(江界以遠ヲ除ク)	人夫送	每月一回	當地釜山間ニ直航船便アル場合ハ便船ニテ釜山經由トス
元山通川順送便	江原道沿岸一帯ノ地	人夫送	月十五回 (隔日)	船便アル場合ハ船便ニ依ル
元山陽德往復便	平安南道ノ内陽德、成川、江東	人夫送	月十五回 (隔日)	
元山咸興順送便	咸鏡南道(新浦以遠ヲ除ク)	人夫送	每月一回	西湖津以北ニ至ル船便アル場合ハ便船ニ依ル
元山、元山里傳送便	元山里一圓	人夫送	一日四回	

船 便

元山釜山間	内地方面、慶尙南道、全羅南道、忠清南道、江原道(沿岸ヲ除ク)京畿道(京元間沿道ヲ除ク)黃海道、平安南道(陽德、成川、江東ヲ除ク)平安北道(江界以北ヲ除ク)	約一ヶ月 約十三回	航送日數約三日
全上(江原道沿岸經由)	江原道沿岸、慶尙南道東部沿岸	約一ヶ月 約二回	航送日數四日乃至五日
元山松田間	松田	約一ヶ月 約二十回	航送日數當日
元山虎島間	虎島	約一ヶ月 約十三回	航送日數當日
元山清津間	咸鏡南道沿岸及新浦以遠咸鏡北道(雄基以遠除ク)	約一ヶ月 約廿五回	航送日數二日乃至四日
元山雄基間	咸鏡南道沿岸及新浦以遠咸鏡北道	約一ヶ月 約十五回	航送日數約五日

三一ヶ年間郵便物取扱數

種別	引	受配	達	繼	越	合	計
通常郵便	七五七、九八〇	七五一、二〇六	一、四八一、九九七	二、九九一、一八三			
書留郵便	二五、〇八〇	二〇、〇二九	一八、一九五	六三、三〇四			
價格表記通常郵便	一、〇八六	一、〇八三	—	二、一六九			
小包郵便	八、三六七	一二、五七三	三一、一八四	五二、一二四			

爲替貯金取扱數

種別	口數	金額
爲替振出	一四、四二六	二七〇、三三八 ^四 七七〇
爲替拂渡	九、八五三	三三一、一二三 ^四 六五六
貯金預入	七、二四八	三三三、一三二、六八三
貯金拂戻	一、五〇八	二五、〇九二、一一二

一 電信沿革

明治二十一年舊韓國政府ニ於テ京城元山間ニ初メテ一條ノ電線ヲ架設シ元山ニ京城ノ分局ヲ置キ歐文及諺文電報ノ取扱ヲ開始セリ當時多數ノ内地人居留民此地ニ在住シテ徐々此北朝鮮樞要地ノ開發ニ努メツ、アリシカ通信機關ハ極メテ幼稚且

歐文諺文若クハ數字ニ依ラサルヘカラサル等ニテ尠カラス不便ヲ恐ハサルヘカラサル状態ニアリシハ當時ノ國際關係上又止ヲ得サリシ事ナルヘシ越ヘテ三十七年日露戰役ニ際シ元山電信局ハ軍用通信所トナリ軍事通信ノ傍ラ三十八年四月ヨリ和文公衆電報ノ取扱ヲ開始シ邦人ニ取リテ非常ノ便利ヲ與ヘラレタリ全年五月韓國ノ通信事務ハ擧ケテ之レヲ我レニ委託スルコト、ナリ一切ノ事務ヲ我遞信省ニテ繼承スルコト、ナリシモ電信ハ依然軍用ナリシヲ以テ公衆ノ通信ハ幾分疎外サル、ノ傾キナキニアラサリシモ三十九年軍用通信所ノ撤廢ト同時ニ通信管理局ノ所管ニ屬シタリ爾來着々改良ヲ施シ局所ヲ増設シ線條ヲ増加シ稍々其体ヲ具フルニ至レリ引繼當時ハ北鏡城マテ僅カニ一線ヲ有スルニ過キヌ又通信状態モ緩漫ニシテ實際ニ不便多カリシニ目下ハ京元間ニ二線清津、城津、江界、惠山鎮、江原道一体、陽德、淮陽ノ各方面夫々直通線ヲ架設シ重ナル部落ニハ概ネ電信ノ設ケアラサルナク通信モ又大ニ改善セラレ將來ハ内地ニ比シテ遜色ナキニ至ラントス機械坐數ハ二重機二坐單信四坐電話六個取扱數日々千二百乃至千五百餘通之レニ從事スル吏員ハ約二十名ナリ由來北朝鮮ハ交通頗ル不便ニテ郵便往復ニハ少カラヌ日數ヲ要スルヲ以テ日常ノ要務ニモ電信ヲ利用スルモノ多ク人口稀薄ノ割合ニ通信數多ク又開發ト共ニ漸次音信増加スルノ傾向ナルヲ以テ之レニ對スル設備モ遺憾ナキヲ期シツ、アリ

二元山ト各地直通線

回線名	通信方式	接續局所名
京城、元山線	音響機二重	京城、元山
元山、清津線	全	元山、清津
元山、惠山鎮線	音響機單信	元山、咸興、長津、江界、惠山鎮

元山、城津線	全	元山、咸興、新浦、北青、城津
光化門、元山線	全	光化門(京城)、金化、元山
元山、元山里線	電	元山、元山里、元山新町
元山、咸興線	全	元山、永興、咸興、西湖津
元山、淮陽線	全 (警備線兼用)	元山、淮陽
元山、長箭線	全 (全)	元山、通川、長箭
元山、陽德線	全 (全)	元山、陽德

四十二年度中電報取扱數 (外國電報ニハ内地ヲ含ム)

種別	發信	着信	中繼信	計
朝鮮電報	五三、一六九	五三、六〇五	一五六、三五五	二六三、一二九
外國電報	一七、四二五	一四、八七九	八五、七八七	一一八、〇九一
合計	七〇、五九四	六八、四八四	二四二、一四二	三八一、二二〇

元山下内地及朝鮮重要地間電報通信數表 明治四十三年五月一日ヨリ全五日ニ至ル五日間一日平均

地名	發信數	着信數	合計	備考
東京	三	一	三	一五

間地要重南以山元ト山元						間地要主地内山元										
釜	木	群	鎮	平	仁	龍	京	外	長	福	門	下	廣	神	大	京
			南					計	各							
山	浦	山	浦	壤	川	山	城	地	崎	岡	司	關	島	戶	阪	都

三〇 六一五 四四二 二三八 一四三 一一三 一四八一

三六 六一六 四四二 二三四 一四一 一三一 一五七一

六六 三二二 八八四 三三七 一七二 二六二 九五二

一日平均一通ニ充タサ
ルモノ

元山	山	北	以	山	元	ト	山	元	計
咸興	北青	新浦	惠山	城津	鏡城	清津	羅南	西湖	計
八	三	七	五	四	二	六	四	二	六三
〇	三	八	六	六	一	七	五	二	七〇
四	八	六	一	〇	三	三	九	四	一三三

一 電話ニ關スル情況

元山郵便局電話交換ハ明治三十九年五月ノ創設ニ係リ目下復線用單式交換機ヲ裝置シ加入者二百四十一名ヲ收容セリ加入者線ハ先ツ二百四十回線用分線盤ニ入り避雷保守裝置ヲ經テ交換機ニ接續セラル明治四十一年以後ハ當市商況沈淪ノタメ四十二年末ニ至ル迄甚敷キ加入者ノ増加ヲ見ス通話度數等寧ロ減少ノ傾アリシモ四十一年四月初メテ咸興特設電話開始セラレ引續キ同十二月元山咸興間市外線増設竣工ノ上元山咸興間及西湖津間ニ通話開始ヲ見ルニ至レリ（目下咸興ニハ五十四名ノ加入者及加入申込者十名アリ）四十二年九月永興電話所ヲ開設シ茲ニ元山、永興、咸興、西湖津間ニ市外電話ノ連

四 回線別、市外及警備電話線路里程表 (ハ他區機械) (チ示ス)

回線名	元山局保守担当區域	保守擔當里程	接續局名
元山平壤間警備線	元山、陽德間	一四 ^里 三四 ^町 三九 ^間 二 ^尺	元山、陽德、(成川) (平壤)
元山大邱間警備線	元山、平海間	九八、三五、六、一	元山、通川、長箭、杆城、襄陽、江陵、三陟、蔚珍、平海 (盈德、延日、慶州、大邱)
元山京城間警備線	元山、金城間	二六、二〇、八、二	元山、淮陽、金城、(金化、抱川、京城)
元山咸興間電話線	元山、咸興間	二六、二一、二八、三	元山、永興、咸興
咸興西湖津間電話線	咸興、西湖津間	四、一、三一、一	咸興、西湖津
北青甲山間警備線	北青、甲山間	三一、二四、一七、〇	北青、甲山
咸興利原間警備線	咸興、北青、利原間	三四、一四、三〇、四	咸興、北青、利原

第二項 工業

第一節 總說

朝鮮ニ於ケル工業ハ謂フニ足ルモノ無シ就中僻陬咸鏡道ノ如キ古來工業ノ地ニ非ラサリシカ故ニ殆ント記スヘキノ事實ナシ(北道ノ麻布及南道永興ノ紬ハアレトモ)適々笠及網巾、宕巾、冠、銀細工、桐油類ノ如キ稍精巧ニシテ且其販路モ廣キモノアリト雖是等ノ諸品ハ皆時勢ノ變遷ニ伴ヒ必然衰退スヘキ運命ヲ有スルカ故ニ將來其使途ヲ轉スルニ非サルヨリハ之レカ持續ハ到底望ミ無キコトタリ

又内地人側ノ工業トシテハ殆ント皆無ニシテ強テ之レヲ索ムレハ煉瓦及瓦製造、鐵工、靴工、印刷等ノ數種アリト雖工業

ト目スヘキモノハ其規模ニ於テ僅カニ煉瓦ノ一業アルノミ

(一) 工業ノ種類

其一 朝鮮人ノ部

業名	朝鮮稱	主要製品
鍮器工		食器一切燭臺、睡器、便器ノ類 釜鍋及農具一切 網巾、宕巾 瓶、壺、甕、食器類 煙管、小刀、鞞飾金具類 眼鏡、風簪、髮針 衣類 吐手、冠類、篩 冠蓋、油衫、蓑入
鐵鑄工	水鐵匠	
線綿工		
笠工		
網巾工	網巾匠	
土器工	泥器匠	
銀細工	銀房	
鼈甲細工	玳瑁房	
裁縫工	自縫針	
篋筒工	織匠	
吐手工	總匠	
桐油工	油物匠	
革靴工	鞋匠	

筆	木	鍛	紐	木	草	印
	器	冶	絲	靴	鞋	版
師	工	工	工	工	工	工
筆		冶		木		圖
				鞋		書
匠		匠		匠		房
			絲紐類、腰帶、上衣帶			
			食器、魚桶、米汰器、筆筒、砧杵			

其二 内地人ノ部

- 煉瓦製造
- 屋瓦製造
- 鐵工業
- 煙草製造
- 飭職 (貴金屬細工業)
- 靴製造
- 彫刻師
- 印刷業
- 裁縫師

(二) 工業ノ沿革

朝鮮人側ニ於ケル工業ノ沿革ハ今遽カニ之レヲ詳知スルコト難シト雖要スルニ大部分ハ開港後ニ起リシモノニシテ就中日清戰役後ニ於テ大ニ發達シ殊ニ裁縫工繰綿工ノ如キハ最近ノ起業ナリトス

内地人側ニ在リテハ煉瓦製造ハ明治三十三四年頃一度開始セシモ中途ニシテ挫折シ後同三十九年再起シ以テ今日ニ及ヒ屋

瓦製造ハ明治四十一年開始セシモ未タ甚タ振ハス

印刷業ハ明治三十三年ノ創始ニシテ後三十九年ニ開始セル者アリ二者共ニ今日迄繼續ス（新聞發行ニ非ラス單ニ印刷業專門ナリ）

鐵工業ハ明治三十年ノ頃個人營業トシテ一時ニ三四ヶ所ニ開始セラレ相當ノ收益アリシモ競争ヲ重ネ終ニ其弊ニ堪ヘスシテ三十四年合同セシモ亦幾許ナラスシテ瓦解シ其後三十六年ニ至リ始メテ元山鐵工合資會社ヲ創立シ其後數年獨占業ナリシカ更ニ三十九年新規ノ營業者現ハレ爾來兩者共今日迄繼續シ居レリ

煙草製造業ハ明治四十年ノ創業ニシテ專ラ朝鮮人向刻煙草ヲ製造シ爾來漸ク發達シ遠ク咸鏡、江原沿岸各地ニ供給セラレ昨四十二年ノ如キハ其產額優ニ二萬貫目以上ニ上レリ

(三) 工業者ノ數

其一 朝鮮人ノ部

工名	人員	工名	人員
鋤器工	三人	吐手工	五人
笠工	十人	筆工	四人
冠工	一人	鍛冶工	十一人
眼鏡工	四人	櫛工	一人
圖書工	四人	織工	四人
裁縫工	二十人	鞋工	十人
草鞋工	二十人	煙竹工	四人

業名	鍛冶業	煉瓦業	煙草製造業	裁縫業	銀細工
人員	二人	一人	四人	四人	二人
業名	印刷業	彫刻業	瓦業	靴業	
人員	二人	二人	一人	二人	

其二 内地人ノ部

工業者ノ數ト同シ

(四)

工場ノ數

其一 朝鮮人ノ部

其二 内地人ノ部

場名	鐵工場	煙草製造場	瓦工場	裁縫所	銀細工屋
員數	二	四	一	四	二
場名	煉瓦工場	印刷工場	靴工場	彫刻屋	
員數	一	二	二	二	

(五) 工場一般ノ情况

率直ニ言ヘハ日鮮人ヲ通シテ工場ト名ツク可キ規模ノモノ無シ強テ之レヲ索メハ煉瓦工場一アルノミ其他ハ皆大小職場タルニ過キス其内容ノ如キハ以下ノ各節ニ於テ自カラ知悉スルヲ得ヘシ

第二節 製品及原料品

(一) 製品ノ製造數量及價額(年額)

其一 朝鮮人ノ部

品名	數	量	價額	品名	數	量	價額
鋤器類	1,000貫		4,000圓	篩	10,000個		1,800圓
笠	7,500個		9,000	吐手	2,000對		600
筆	22,600本		864	冠	700個		360
鐵製品	18,000貫		18,000	眼鏡及印版	—		1,110
櫛類	10,000個		1,700	裁縫物	—		3,600
箆筒	500個		2,160	革鞋	1,800足		2,700
草鞋	30,000足		3,000	煙竹	2,000本		400

其二 内地人ノ部

品名	數	量	價額	品名	數	量	價額
鐵製農具	2,000貫		1,600圓	瓦	40,000枚		1,400圓

刻煙草上	二、〇〇〇	九、〇〇〇	煉瓦	一五〇、〇〇〇枚	二、七〇〇
同下	一〇、〇〇〇	一六、〇〇〇	靴類	四〇〇足	二、〇〇〇
建築用鐵金具類	四、三〇〇	三、八〇〇	洋服類	—	一〇、〇〇〇
船用鐵具	六〇〇	三、〇〇〇	印刷物	—	九、〇〇〇
貴金屬細工物	—	三、八〇〇	印刻物	—	一、〇〇〇

(二) 製造數量ノ増減及其事由

朝鮮人側ノ工業ハ明治三十八年以來四十年頃迄ハ漸次増加ノ一方ナリシカ其後ハ次第ニ減少シ昨今ノ如キハ殆ント盛時ノ半數ニモ及ハス且其收利モ甚薄シ要スルニ日露戰役當時朝鮮人ノ財囊一時ニ温マリシ爲贅澤的新調ノ起リシモノニシテ今ヤ全ク其反動ナル可シ

内地人側ハ農具ノ販路漸ク廣マリ年々製造増加シ明治三十七八年ノ如キハ創業當時ノ五割ヲ増加シ農具ノミニテ年額約四千圓雜品千五六百圓ノ製造ヲ見タルモ三十九年ニ入り農具ノ賣行キ減退シ却テ建築用金具類ノ需要増加ヲ致セリ然レトモ全体ニ於テ斯業ハ隆盛ニ向ハス要スルニ近時朝鮮人ノ鍛冶職増加セシ結果ナルヘシ煙草製造業ハ創業當時ハ極メテ微々タリシモ四十一年以降漸ク朝鮮人ノ嗜好ニ適スルニ至リ製産額遞次増加シ一時二萬貫目ニ達セリ而モ本年ハ原料高價ナルト金融不如意ノ爲メ昨年ニ及ハサルヘシ其他印刷業ノ如キハ近時諸官衙ノ増設ニ伴ヒ漸ク増加ノ一方ニ在リ煉瓦及瓦其他ノ製品ハ不進不退ノ情況ニアリ

(三) 製品價格ノ當否

朝鮮人側ノ製品ハ連年商況不振ノ致ス處カ都テニ於テ價格廉ナリ餘器ノ如キハ特ニ甚シク殆ント不引合ノ聲ヲ聞ク程ナリ

内地人側ノ製品ハ煙草ノ如キハ頗ル朝鮮人ノ嗜好ニ適シ其中ノ上等品ハ内地人ノ喫用ニ供セラル、モノモ多ク價格モ相當ナリ其他ノ製品ハ母國製品ニ比スレハ生活費其他種々ノ關係ヨリシテ多少不廉ナリ就中煉瓦ノ如キハ内地ヨリ輸入スルモノニ比シテ頗ル高價ナルカ如キモ要スルニ不當ノ高價トスヘキモノナシ

(四) 製品價格ノ高低及其事由

元來少種類少産額共ニ謂フニ足ラサル工業品ノ事トテ價格ノ如キモ殆ント常ニ一定シテ高低アルコト無シ是レ畢竟需給モ亦一定シテ甚シキ不平衡ヲ來タスカ如キコトナキ故ナルヘシ

(五) 製造季節

其一 朝鮮人ノ部

品名	季節	品名	季節
餘器	陰曆二三及八九月	篩	陰曆一二及八九月
笠	春秋二季	吐手	陰曆四月乃至六月
筆	春秋冬三季	冠	一年中
鐵製品	春季最モ多ク秋季之レニ次ク	革靴	春最モ多シ
草履	春秋二季	竹筒	一年中
櫛	春秋二季	篋	春最モ多ク秋之レニ次ク
縫物	春秋及冬季		

其二 内地人ノ部

品名	農具	煙草	建築用金具
季節	三、四、十月	夏季	四月乃至十月
品名	靴	煉瓦及瓦	印刷物
季節	春冬二季稍多シ	四月乃至十月	三、四、十二月最モ多シ

(六) 原料ノ種類

其一 朝鮮人ノ部

品名	鋤器	笠	筆	農具其他	櫛	草靴	篋筒
原料	銅、錫、亞鉛	竹、麻布、漆	狸、鼬、馬毛、其他	鋼、洋鐵	木材	青麻及藁	木材
品名	篩	吐手	冠子	帽	靴	眼鏡及印版	裁縫物
原料	馬尾	馬尾	馬尾	馬尾	牛革、鹿革	水牛、馬爪、木材	金巾類、麻布類及吳縐、羅紗

其二 内地人ノ部

品名	農具	建築用金具類	靴
原料	鋼、洋鐵、古鐵、鐵板其他	同	牛革、象皮、「ズツク」
品名	印刷物	印刷物	煉瓦及瓦
原料	摸造紙、神戸洋紙、美濃紙、半紙等	梶、水牛、金、銀、水晶	製造所々在ノ山地ヨリ採取スル粘土

(七) 原料產地

其一 朝鮮人ノ部

朝鮮	毛及革、麻布、紬、眞鍮、木材	眞鍮	馬尾
鮮			
內地	鐵材、織物類、印材、眞鍮		
清國			

鐵材ハ歐州品ヲ混入スレトモ產地不明ニ付內地ノ部ニ包含ス

其二 內地人ノ部

內地	眞鍮、印材、皮革、紙、織物	鐵類	金地、織物、葉煙草
地			
英國			
朝鮮			

(八) 原料ノ價格及取引ノ情況

其一 朝鮮人ノ部

小口取引ハ概シテ現金ニシテ少シク株立チタル者ハ一與受ニ與受(與受ハ開市日ノ又翌日ヲ云ヒ開市日ハ一ヶ月通例六回トス)若ク月末支拂ノモノアリ製造品ノ販賣價格ハ第三項商業第三節市場(二)號ニ詳記シアレハ此ニ省畧ス而シテ其材料ノ價格ハ左ノ如シ

品名	單位	價格	品名	單位	價格
鋼	百斤	一二、〇〇 <small>円</small>	生天笠布	一反	三、六五 <small>円</small>
鐵					

真鐵	條鐵	捧鐵
同	同	同
三〇、〇〇	七、二〇	七、〇〇
馬尾	麻布	天竺布
一	同	同
斤		
一〇〇、〇〇	二六、〇〇	四、〇〇

其二 內地人ノ部

內地人側取引ノ情况ハ都テ第三項第五節商習慣(口)號ニ詳述シタレハ重複ヲ避ケテ特筆セス而シテ原料ノ原價ハ左ノ如シ

鋼	古鐵	洋鐵	葉煙草(清國產)	同(南部朝鮮產)	同(陽德地方產)	同(淮陽、金城產)	美濃紙	半紙
百斤	同	同	十貫	同	同	同	一貫百狀	一貫同
一〇〇〇	三、二〇	五、七〇	九〇〇〇	〇〇〇〇	二〇〇〇	六〇〇〇	一四〇〇〇	二二〇〇
摸造紙	神戶洋紙	眞鍮	金地	牛革	セ	ル	羅紗地	摸造象皮
五百枚	五百枚	百斤	百	一	一	同	同	百斤
一〇〇〇	八、五〇	二九、〇〇	四九五、〇〇	一三、〇〇	三、五〇	三、五〇	四、五〇	一〇〇、〇〇

(九) 原料ノ所要數量及價格(年額)

其一 朝鮮人ノ部

品名	數量	價格	品名	數量	價格
真鍮材	一、三〇〇 <small>貫</small>	二、四三八 <small>円</small>	篩材	—	一、二〇〇 <small>円</small>
鐵材	二一、〇〇〇	九、五〇〇	織物類	—	一五、〇〇〇
革靴材料	—	一、〇〇〇	眼鏡及印刷材料	—	四四八
笠材料	—	二、〇〇〇	吐手材馬尾	一〇〇 <small>斤</small>	二〇〇
筆材料	—	一五〇	冠材同上	一五〇	一五〇
櫛材料	—	七〇〇	簞笥材料	—	七五〇
草靴材料	—	七五〇			

其二 内地人ノ部

品名	價格	數量	品名	數量	價格
鐵材	八〇〇 <small>貫</small>	三、二〇〇 <small>円</small>	模象皮	一〇 <small>貫</small>	六〇〇 <small>円</small>
葉煙草	一四、五〇〇	一七、〇〇〇	革類	—	六〇〇
真鍮	八〇〇	一、四〇〇	羅紗	六五〇 <small>碼</small>	二、二〇〇
金地	—	九、九〇〇	セ _ル 地	七五〇 <small>碼</small>	二、〇〇〇
摸造紙	四、〇〇〇 <small>枚</small>	一、〇〇〇	其他織物	—	一、八〇〇
神戸洋紙	六、五〇〇 <small>枚</small>	一、〇〇〇	印材	—	四〇〇
美濃紙及半紙	—	三、〇〇〇			

第三節 製造材料品

(一) 工業用燃料ノ種類

朝鮮人側ハ概ネ木炭ナリ但冬季木炭ノ市價極メテ高格ナル時石炭ヲ使用スルコトアルモ頗ル短期間ニシテ且少量ナリ
内地人側ハ薪、粉炭、木炭(少許)トス

(二) 產地

木炭ハ安邊、文川兩郡ノ者最モ多ク元山府ノモノ之レニ次ク
薪ハ無論元山附近ノ産ナレトモ粉炭ハ悉ク筑後三池ノ産ナリ

(三) 價格及取引ノ情況

木炭薪共全部場工渡ニシテ現金拂ナリ
粉炭ハ取引人ノ信用如何ニ依リ現品着拂又ハ割引拂等アリ

(四) 所要數量及價額(年額)

木炭ハ量目十貫目ニ付金七十錢内外薪ハ量目一千貫目ニ付金二十二圓粉炭ハ一噸ニ付十四圓乃至十五圓トス

品名	數	量	價額
木炭	六五、〇〇〇貫		四、五五〇 <small>圓</small>
薪炭	七〇、〇〇〇貫		一、五四〇
粉炭	八〇、〇〇〇斤		五六〇

(五) 供給上難易ノ情況

諸燃料共ニ供給容易ナリ

第四節 工業ノ經營者及經營方法

(一) 個人、會社其他ノ合同組織

朝鮮人側ニ於テハ全部個人經營ニシテ會社若クハ合同組織ノ者一モアルコトナシ
内地人側ニ於テハ資本金一萬圓ノ鐵工合資會社一アルノミ其他ハ皆個人經營ナリ

(一) 個人ト合同組織トノ適否

日鮮人共ニ未タ製品ノ需要僅少ナルカ爲合同經營ノ必要ナキノミナラス寧ロ會社組織ノ如キハ今日ノ程度ニ於テハ未タ適當ナラス

第二目 工業ノ經營方法

(一) 家内工業、工場工業

朝鮮人側ニ於テハ鍛冶及鑄器製造所ノ二者ハ不完全ナカラ工場工業ト云フヲ得ヘシ其他ハ總テ家内工業ナリ
内地人側ハ鐵工所ニケ所及煉瓦并ニ瓦製造所ノミ工場ヲ有シ其他ハ皆家内工業ナリ

(二) 手工業、機械工業

朝鮮人側ハ殆ント手工業ナルモ只鑄器所ハ粗雜ナル輾轆機ヲ有ス
内地人側モ亦殆ント手工業ニシテ鐵工所ノ内一ケ所及煙草製造場ニ少シノ機械ヲ有ス

(三) 工場(又ハ仕事場)設備ノ情况

朝鮮人側ニ於ケル一般作業ノ状態ハ頗ル幼稚ニシテ其設備ノ如キ言フニ足ルモノナシ
鑄器所ハ十六坪乃至十坪許ノ上屋ヲ構ヘ之レニ鑄解用鑪數個及足踏輾轆數個ヲ備ヘ附ケタルノミ其他ノ仕事場ハ特筆スヘ

キ價值ナシ

内地人側ノ鐵工所ハ一ハ三十坪一ハ二十坪許ノ工場ヲ構ヘ必要器具ヲ備フ煉瓦製造所ハ七十坪ノ上家ヲ以テ竈場ニ充テ之レニマンボー式竈一個ヲ築キ在リテ別ニ仕事場トシテ百二十坪ノバラック一棟ヲ有ス

瓦製造所ハ約十坪ノ上家ト舊式ノ竈三個ヲ有シ別ニ仕事場ノ建物ナク此上家ヲ兼用セリ

印刷所其他ノ仕事場ハ都テ家屋内一室ヲ利用シ不十分ナル設備ニシテ何等特筆スヘキモノナシ

(四) 機械器具ノ種類

其一 朝鮮人ノ部

轆、轆轤、金敷、金切、鐵鎚、小刀ノ類ニシテ列擧スルニ足ラス

其二 内地人ノ部

鐵工所ニ於テハ

ダライバン(旋盤)シカルバン(平削盤)ボールバン、バイス、平面盤、金敷、ハンマー(大鎚)轆等ナリ

印刷所ニ於テハ

ロール(八頁モノ)ハンド(四頁モノ)其他ノ必要器具ヲ有ス

煙草製造所ニ於テハ

内地製門脇、嶋原両式足踏機械アリ

(五) 作業功程

其一 朝鮮人ノ部

鋸器 職工十人ニシテ一日ニ付大器八個乃至十個小器二十個乃至二十五個ヲ製ス

篩 職工壹人ニ付一日五個乃至十個ヲ製ス

笠及吐手 一日一人ニ付平均二個

筆 同上十五本乃至三十本

冠 同上約一個

鐵製品 職工五人ニシテ一日ノ製造品價格七八圓乃至二十圓

櫛 同上五人ニシテ三十把乃至三十五把ヲ製ス(一把ハ小櫛三十枚ヲ云フ)

裁縫物 同上一人ニ付一日ノ製造品價格二圓内外ニ過キス

革靴 一足ニ付一人ニシテ二日ヲ要ス

草靴 一人一日ニ付二足乃至三足ヲ製ス

簞笥 一人ノ職工ニシテ一ヶ月ノ製造品價格二十圓乃至二十五圓トス

眼鏡及印版 一人ニシテ一ヶ月ノ製產品價格十圓乃至十三圓ナリ但是等ノ職業者ハ他ニ僅少ノ兼業ヲ有ス

其二 内地人ノ部

鐵工所 職工十人ニ付一日平均二十貫乃至二十三四貫目ノ地金ヲ使用ス

煙草製造所 一日三十貫乃至四十貫ノ煙草ヲ製造ス

印刷所 同八人ニ付一日平均製造品價格二十五圓内外トス

金銀細工 同四人ニ付一日平均製造品價格三百五十圓

煉瓦製造所 氣候ノ關係上一ケ年間ノ就業日數僅カニ百四五十日ニ過キス而シテ職工二十人ニ依リテ平均一日約一千個ヲ

製ス

瓦製造所 職工十人ニ依リ平均一日二百六七十枚ヲ製ス又一ケ年ノ就業日數ハ百五十日許トス

裁縫所 職工十三人ニ依リ平均一日ノ製造品價格二十七八圓

靴製造所 同四人ニ依リ一ケ月三十足乃至三十五足ヲ製ス

(六) 製品ノ品質

朝鮮人ノ製品トシテ農具其他鉄製品ハ共ニ内地人ノ製品ニ比シテハ拙劣ナリ鋤器、笠、冠、篩其他ノ製品ニ至リテモ西南各道ノ物ニ比シテ共ニ劣等ナリ

内地人側ニ於テハ煙草ハ朝鮮人向トシテハ上等ナリ農具其他ノ鉄製品ハ粗製ナル方トス然レトモ之レ朝鮮人ノ需要ニハ適度ナル物ニシテ目下ノ處敢テ之レ以上ノ精巧品ヲ製スルノ必要ナキカ如シ

其他ノ製品モ之レヲ内地製ノ物ニ比スレハ其拙劣ナルヤ論ナシ唯煉瓦ハ比較的良好ナリ

(七) 製造方法ノ適否

日鮮人両製造方法共改良スヘキモノ多々之レアルヘシト雖今日ノ需給程度ニテハ或ハ現状ヲ以テ適當トスヘキカ要スルニヨリ以上ノ改良施設ハ將來工業發展ノ後ニ在ルヘシ

(八) 資本金額、固定資本、流動資本、金額

其一 朝鮮人ノ部

種別	固定資本	流動資本	備考
鐵工所	二、〇〇〇 <small>円</small>	一、〇〇〇 <small>円</small>	工賃目的ナルヲ以テ流動資本ヲ要セス僅カニ器具其他ニ對シ少許ノ固定資本ヲ要スルノミ
鋤器製造所	五〇〇	—	
裁縫所	八〇〇	七〇〇	

種別	固定資本	流動資本	備考
笠	五〇〇	五〇〇	
篩	一五〇	五〇	
草	一、〇〇〇	五〇〇	
櫛	二〇〇	一〇〇	
筒	三〇〇	二〇〇	

此外工賃本位ナルモノ數多アリ皆多少ノ資本ヲ要スルヤ無論ナリト雖敢テ資本ヲ記スヘキ程ノモノナシ

其二 内地人ノ部

種別	固定資本	流動資本	備考
鉄工所	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇	
煉瓦製造所	八、〇〇〇	二、〇〇〇	
煙草製造所	二、五〇〇	一、〇〇〇	
瓦製造所	一、二〇〇	三〇〇	
印刷所	二、〇〇〇	五〇〇	
裁縫所	一、二〇〇	三、〇〇〇	
金銀細工	八〇〇	二〇〇	
靴製造	二、五〇〇	五〇〇	
印刷所	三〇〇	一〇〇	

(九) 資本運轉ノ情況

朝鮮人ニ在リテハ概ネ製品ヲ販賣シ其對價ヲ收メテ運轉ニ充ツルニ過キスト雖一般金融不圓滑ニシテ運轉ニ困難ナルカ故ニ目下ノ如キハ往々個人ノ高利ナル貸金ヲ得一時的繙縫ヲ圖リツ、アリ要スルニ彼等ハ銀行ヲ利用スル能サルヤ無論ナリ内地人ニ在リテハ毎月末賣掛代ヲ集金シテ運轉ニ供シ敢テ大ナル差支ナキカ如シ唯煉瓦ハ都テ土木請負者へ供給スルカ故ニ其代金回收ハ二三ヶ月ノ長期ニ亘ルモノ往々ニシテ之レアリ爲ニ銀行其他ヨリ一時ノ借入金ヲ爲スコトアリ

(十) 利益金歩合

利益金歩合ノ如キハ或ハ自家營業ノ防衛上秘密ヲ固持シテ詳ラカニ語ラサル者アリ特ニ朝鮮人ノ如キニ至リテハ徵稅準備ノ調査ナルカ如クニ誤解シ往々惡感ヲ抱ク者スラ之レ有リ爲ニ詳細ナルコトヲ知ル能ハスト雖多方面ノ情況ヲ參酌シ推定スル處左ノ如シ但シ實際ニ於テ大差ナキヲ信ス

其一 朝鮮人ノ部 (一ケ年)

鐵工所ハ資本金ニ對シ約二割ナリ其他ハ都テ工賃本位ニテ皆職業的ナルカ爲各種ノ歩合ヲ列記スルニ由ナシ

其二 内地人ノ部 (一ケ年)

種別	利益歩合	備考
鐵工所	一割五歩乃至二割	製品以外鐵材ヲモ販賣スルニ依リ其收利ヲモ含ム
煙草製造所	一割以内	
金銀細工	一割四分	製品價格ニ對シテ
印刷所	一割五歩乃至二割	資本金ニ對シテ

煉瓦製造	ナシ	需要ノ不足ニ依ル
瓦製造	一割三四歩	資本金ニ對シテ
裁縫所	二割	製品價額ニ對シテ
靴製造	二割五分乃至三割	製品價額ニ對シテ
印刷所	未詳	

第三目

(一) 現業管理者及補助員ノ員數并ニ待遇

其一 朝鮮人ノ部

都テ經營者自身カ職工ヲ爲ス者ニシテ別ニ管理者補助員等ヲ要セス唯鐵工所ノ内六ヶ所ノ稍規模大ナルモノニ於テ管理者及補助員若干有ス

其二 内地人ノ部

鐵工所ニ於テハ二箇所共ニ一人宛ノ管理者ト二人宛ノ補助員ヲ有スレトモ其他ハ朝鮮人ノ側ニ同シ又待遇ニ於テモ何等一定ノモノナシト雖唯年末ニ至リ賞與的物品又ハ金鐵ノ支給ヲナス

(二) 勞働者種類、員數、勞働能力

其一 朝鮮人ノ部

職名	員數	能力	職名	員數	能力
----	----	----	----	----	----

先手	煙草機械工	横座	鑪工及旋盤工製鑪工	職名	員數	能力	職名	員數	能力
四	二	二	三			普通專門能力ヲ有ス 普通	型工 仕上工 金銀細工 文選	三 三 四 二	普通 普通以下ナリ 同

(備考) 前表中「横座」ハ冶工ノ主ナルモノ「先手」ハ所謂向フ鑪「下手間」ハ助手ヲ云フ
其二 内地人ノ部

吐手工	笠工	篩工	鋤器工	葉卷工	煙草機械工	下手間	先手	横座	筆工
三	二〇	四	一八	一〇	七	一二	一七	一一人	八人
同	同	同	同	同	同	同	同	普通	普通
煙竹工	草靴工	革靴工	篋筒工	裁縫工	櫛工	眼鏡及印判工	冠工		
四	二五	一〇	八	二三	五	八	二		
同	同	同	同	同	同	同	同		

裁縫工	一四	二、三名普通ノ者アリ 他ハ其以下ナリ	植字	三	普通以下ナリ
機械方	二	普通以下ナリ	靴工	四	同
下手間	三三	同	印判工	四	同

(備考) 前表中「型工」及「仕上工」ハ共ニ煉瓦製造人ニシテ「機械方」ハ印刷所職人ヲ云フ又「下手間三三」ハ内二人鐵

工所七人印刷所十六人煉瓦製造所八人瓦製造所ニ屬ス

(三) 勞銀支拂ノ方法勞銀額 (每一人ニ付)

其一 朝鮮人ノ部

勞銀及請負工賃ハ每月末(陰曆)支拂フヲ通例トス其種別如左

種別	期	間	勞	銀	種別	期	間	勞	銀
横座	一	ヶ月	付	一〇圓	下手間	一	ヶ月	付	五圓
同	同	同	同	七	同	同	同	同	三
煙草葉卷工	同	同	同	一〇	篋筒工	同	同	同	一〇
先手	同	同	同	七	同	同	同	同	八
同	同	同	同	五					

(備考) 一 鋸器ノ製造ハ其職人ノ請負工業ニシテ製品一個ニ付幾許錢ト一定シアリ之ヲ例セハ沙鉢ハ大小平均一

個ニ付普通品三錢ノ割ナリ若シ又販賣者カ直接顧客ヨリノ注文ニ依リテ製造ヲ請負フ時ハ其製作ノ難易

ニ依リ原料量目百斤ニ付其製作賃十圓乃至十五圓トス

但工業ニ要スル燃料ハ職人ノ負擔ニ非ラス

煙草卷葉工ハ一卷(二百匁乃至二百五十匁)ニ付二錢乃至一錢八厘一日ニ付五六十錢ノ賃金ヲ得

二 簞笥其他箱類ノ製造ハ目下職人ト販賣人トノ利益折半配當ノモノ多シ

三 革靴工其他ハ概ネ別ニ職人ヲ雇役セス皆自己ノ職業ナルカ故ニ勞銀トシテ標準ヲ立ツルコト難シ稀ニ

笠工、篩工ノ如キ者アルモ是等ハ前號簞笥職人ノ例ニ同シ

其二 内地人ノ部

月給及日給者ハ毎月末ヲ以テ管理者若クハ經營者ヨリ支拂ヲ受クルヲ例トス其種別左ノ如シ

種別	期	間	勞	銀	種別	期	間	勞	銀
鑪工及旋盤工製 鑪工	一	ヶ月		五五〇七 ^圓	先手	一	ヶ月		一〇 ^圓
横座	同	同		三五五	同	同	同		七
同	同	同		三〇〇	鉄工下手間	同	同		七
金銀細工	同	同		三〇〇	同	同	同		六
同	同	同		二〇〇	植字	同	同		二八
型工	同	同		三〇〇	同	同	同		二六
仕上工	同	同		二八	文選	同	同		一五
煉瓦下手間	同	同		二〇〇	機械方	同	同		三五

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
煙草機械工	縫工	同	同	同	同	同	同	同	同
一五	一八	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇
同	印刷下手間	靴工	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
三〇	一〇	三〇	二〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇	三〇

(備考)

前表ノ勞銀ハ皆無賄ナリ又鐵工所印刷所以外ノ工業ニ於テハ經營者トノ間ニ於テ利益分配其他ノ方法ニ依リ請負工業ヲ爲ス者モアレトモ一々詳記シ難シ

(四) 勞働者ノ賞罰其ノ他ノ待遇

其一 朝鮮人ノ部

其二 内地人ノ部

皆無ト云フヲ得ヘシ

- 一 鐵工所ニ於テハ月給ノ者(即内地人)ニハ純益ノ一割ヲ一ケ年ノ就業日數ニ準シテ配當シ日給ノ者ニハ毎月一日ノ休暇ヲ與ヘ罰トシテハ何等ノ定メナシ
- 二 印刷所モ亦純益ノ一割ヲ一ケ年ノ就業日數及給料ニ準シ配當ス以下前ニ同シ
- 三 煉瓦製造所ハ純益ノ二十分ノ一ヲ印刷所ノ例ニ準シ配當スルコトトナリ居レリ以下前ニ同シ
- 四 縫工其他ノ勞働者ニハ凡テ賞與罰則等ノコトナシ

(五) 労働者ノ募集及傭入方法
朝鮮人ノ側ニモ内地人ノ側ニモ舉テ謂フヘキ事實ナシ

(六) 工業者ト労働者トノ關係

特筆スヘキ事ナシ唯朝鮮人側ニ於テ鍛冶工ニハ工業主ヨリ食ヲ給シ通勤セシム鋸器工ハ自食ニシテ通勤シ笠、篩、篋筒諸工ノ如キ利益分配ヲ受クル者ニハ工業主カ夜食ヲ與ヘ若クハ與ヘサル者等アリ

内地人側ニ於テモ鐵工其他ハ概テ自己ノ居宅ヲ構ヘ自食通勤ス獨リ縫工ハ工業主ヨリ夜食ヲ與フルモ多クハ請負業ナリトス

(七) 労働者養成ノ情况

日鮮人共ニ養成ナト云フヘキ事實ナシ

第五節 製品ノ販賣

(一) 製品ノ販路

朝鮮人側ノ製品ハ元山附近ノ諸郡及咸鏡道一圓江原道平安道ノ一部ニ散布セララル

内地人側ノ鐵製品モ亦主トシテ咸鏡南北道沿岸及江原道平安道ノ一部ニ散布セラレ獨リ吉田鐵工所カ製造スル所ノ船具ハ專ラ吉田秀次郎所有船舶用ニ供セララル

煉瓦及瓦并ニ金銀細工物ノ大部分ハ元山居留地ノ需要ニシテ咸鏡道沿岸ノ内地人ニ其小部分ヲ供給ス

印刷物ノ小部分モ亦北朝鮮沿岸ノ内地人ニ供給セララル、モ其他ノ製造品ハ概テ元山居留地ノ需要タルヤ言フヲ俟タス

煙草ノ販路ハ元山附近ヨリ遠ク鏡城、北青、新昌、咸興、江原道沿岸ニ及ヒ内地人ニモ近來賣行増加ノ狀況ナリ

(二) 販賣價格 (卸賣、小賣)

其一 朝鮮人ノ部

筆	笠	櫛	斧	土	三	土	押	三	鍬	除	品	
					角	搔		股		草	名	
				刎	鍬	キ	切	鍬		器	單	
一	一	一	同	同	同	同	同	同	同	一	位	
本	個	把								個		
											卸	
											賣	
											小	
											賣	
革	篩	土	煙	簞	帽	草	便	鍬	吐	宕	網	品
		搔						飯				名
靴		キ	竹	筍	子	靴	器	碗	手	巾	巾	單
一	同	一	一	同	一	一	同	一	一	一	一	位
足		個	把		個	足		個	揃	個	枚	
											卸	
											賣	
											小	
											賣	
											小	
											賣	

(備考) 卸賣小賣ノ區別殆ント不明瞭ナレト一個賣ヨリモ多數賣ハ約一割減ナルヘシ

其二 内地人ノ部

品名	單位	卸賣	小賣	品名	單位	卸賣	小賣
鍬	一個	三三	三八	煙草	百目	八五六	九二二
劔先鍬	同	三〇	三五	煉瓦	十個	一八	二〇
三股鍬	同	三〇	三五	同	同	一五	一七
斧	同	三五	四二	庖丁	同	八	一二
手斧	同	二〇	二三	鶴嘴	同	八〇	九五
鑿山用鍬	同	三〇	三五	蹄鐵	一頭分	三〇	五〇
スコップ代用	同	一八	二二	建築用金具	百々	八	一〇
土除ケ	同	四五	五五	革靴	一足	一	五八〇〇
犁先	同	二二	二七	同	同	一	一三〇〇
鎌	同	二二	二七	同	同	一	一三〇〇
除草器	同	一一	一五	黒瓦	十枚	三五	三八
全	同	一一	一五	同	同	三〇	三三
押切	同	四〇	五〇	同	同	三〇	三三

(備考)

前表以外ノ製品ハ專ラ工賃本位ナルカ故ニ列記セス

(三) 販賣方法（直接販賣、委託販賣）

朝鮮人側ハ殆ント全部直接販賣ニシテ委託販賣ノ例ヲ見ス又概ネ小賣ニシテ卸賣ハ物品ニ依リ一定セスト雖先ツ十中ノ三四ナルヘシ

内地人ノ製品ハ全部直接販賣ナリ

(四) 販賣機關（卸、小賣、仲介ノ情況）

朝鮮人側ハ貿易品ノ外ハ殆ント仲介ヲ要セス而シテ卸、小賣ノ比例ハ前號ノ如シ

内地人側ニ於テモ此種ノ賣買ニハ仲介ヲ要セス而シテ鐵製品ハ卸賣六、小賣四、煙草ハ卸七分小賣三分ノ比例ナルヘク煉瓦及瓦ハ全部卸賣ニシテ靴ハ全部小賣ナリ此他ハ皆小賣販賣ノミナリ

(五) 代金支拂（信用、現金）

朝鮮人側ハ小口取引ハ皆現金拂ナリ與受拂月末拂ノ者又笠、篩、農具類ノ如キ農産物收穫季即チ陰曆十月、十一月拂ノモノモアリ

内地人側ハ第三項第五節(口)號ニ詳述セシ處ト異ナルコトナシ

(六) 販賣各機關ノ利益歩合

朝鮮人側ニ於テモ内地人側ニ於テモ共ニ製造人以外ノ販賣者殆ントナシ故ニ利益歩合ヲ記シ難シ

(七) 需要地ニ於ケル製品ノ用途及適否其他ノ情況

近來地方金融組合ノ農事改良獎勵ニ依リ内地人製造ノ農具ヲ與ヘ之レカ使用ヲ慫慂シツアリト雖尙ホ粗放ナル朝鮮ノ農業ニハ不適當ナリトシテ使用セサルカ如シ要スルニ根底ヨリ農事ノ改良ヲ爲スニ非レハ不可ナリ
煉瓦ハ元山ニ於ケル程度ノ建築用ニハ何等差支ナク使用セラル

第六節 工業ノ前途

近時機業ハ稍々注意セラレツ、アルモノノ如シ内地紡績糸ヲ以テ木綿ヲ織ルノ工女往々ニシテ之レアルモ彼等ヲシテ上等麻布上等紬及絹絹ノ類ヲ織ラシムルハ獎勵スヘキ價値アリト信ス

從來ノ靴ハ着色シ若クハ刺繡セルモノ俱ニ汚損又ハ破綻シ易ク存外不經濟ニシテ將來永續ノモノニ非ス宜シク聊カ其形式ヲ更メテ其重量ヲ減シ西洋靴ノ如ク靴墨ヲ塗布シテ容易ニ光澤ヲ出サシムルノ法ヲ取ラサル可カラストハ往々有力ナル朝鮮人ニ之ヲ唱道スル者アリ

紐絲ハ頗ル需要ノ廣大ナルモノナリ而カモ極メテ粗笨ナル機具ニ頼リ多クハ指頭ヲ以テ製造セラル故ニ産額ハ需要ニ應スルニ足ラス價額亦不廉ニシテ常ニ多數ノ輸入品ヲ仰キツ、アリ

裁縫工ノ開始ハ近年ノコトニ屬シ皆男工ニシテ機械ハ多ク米國シンガー商會ノミシンヲ使用ス其業務ハ日一日繁盛ニ赴ク由來朝鮮婦女ハ裁縫ニ巧ミナリ然レトモ贅澤ナル衣ヲ裁縫スルニハ一着猶半月以上ノ日子ヲ費スヲ常トセシモ此工ノ起リシ以來婦女ノ劇務ハ幾分ヲ減セラレ其餘暇ヲ以テ他ノ生産的用務ニ從フコトヲ得セシメツ、アリ

近キ將來ニ企劃セラルヘキ工業ハ

- 一 精穀業
- 一 煙草製造業
- 一 罐詰製造業
- 一 製革業
- 一 打綿業
- 一 煉瓦製造業

一 製 麻 業

等ナル可シ而シテ精穀、打綿ノ二業ハ近ク元山居留地ニ於テ起ルヘキ水力電氣事業開始ノ後ハ其電力ヲ使用スルヲ最モ有利トスヘク煙草製造業ハ僅カニ馬息嶺ヲ隔テ、平安道陽德ノ原料名産地アリ罐詰ノ原料ニ至リテハ禽鳥魚鱉勝テ用フ可カラサルモノアリ而シテ此ノ二業モ亦電力ヲ使用スルノ利アリ煉瓦製造ハ其規模甚タ少ナリト雖今現ニ製造業者アリ土質燃料共ニ斯業ニ恰當セリ少シク當方面ノ發展ヲ見ハ其勃興期シテ俟ツヘシ

第三項 商 業

第一節 總 說

元山港ノ貿易ハ開港當年ヨリ約五年ノ後即チ明治十八九年ノ交ニ於テ内外輸出入貿易總額貳百萬圓ニ達シ其後五ケ年ヲ經ル毎ニ約貳百萬圓宛ヲ遞増シ明治三十四五年ノ交ニ至リテ漸ク八百萬圓ニ垂ントセリ日清戰役ノ後ハ多少面目ヲ改メタルモ交通猶不便ナリシ爲他港ノ如ク甚シキ發展ヲ見サリシ然リト雖日露戰役ニ際シテハ京元鐵道敷設ノ舉アルヲ聞キ元山ニ來集スル者頗ル多ク戶數人口共ニ一躍舊時ニ二倍シ俄然一大發展ヲ遂ケ爲ニ三十八九兩年度ハ一千萬圓ニ上レリ此勢ヲ以テ進マハ元山今日ノ貿易ハ少クモ一千數百萬圓ニ上リ猶駸々乎トシテ發展ノ途ニ在ルヘキ筈ナレトモ明治三十二年七月早ク既ニ城津ノ開港セラル、アリ後又四十一年四月清津ノ開港トナリ是等ノ諸港ヨリ朝鮮人ノ釜山ニ往來シ即チ北關釜山間ノ直取引發達シ(原價及運賃ノ割安ナルニ依ル)元山港ノ商業圈ハ忽チ縮小セラレ今ヤ遙カニ明治三十五六年頃ノ貿易額ト伯仲ノ間ヲ出テサラントス勢斯ノ如クナルカ故ニ朝鮮人間ノ商業モ亦比年振ハス否大ニ衰退ニ陥リツ、アリ其事由ハ後段ニ縷述スヘシ

要スルニ今後ノ發展ハ一ニ京元鐵道ト日本海橫斷航路ノ惠ニ俟タサル可カラス乃チ其開通ノ一日モ速カナランコトヲ望ムヤ實ニ早天ノ雲霓モ雷ナラストスル所以ナリ

(一) 主要ナル内外商業ノ種類

一 内地人ノ部

商業名	說	商業名	說
銀行業	韓國銀行、十八銀行、農工銀行	穀物商	
貿易商	主要貿易品直輸入出者	雜貨商	
石油商	石油一手輸入者	金物商	物類直輸入者
煙草商	煙草直輸入者	船具商	船具類直輸入者
回漕業		金貸業	
解船業		材木商	主トシテ内地へ人稀ニ朝鮮人へ供給スル者
吳服商	主トシテ内地人稀ニ朝鮮人へ供給スル者	菓子商	十中ノ七以上朝鮮人へ残り内地人ニ供給スル者
仲次業	物品賣買ノ媒介ヲ爲ス者	質商	朝鮮人ニ貸附スル者
酒商	主トシテ内地人へ稀ニ朝鮮人へ供給スル者		

二 清國人ノ部

商業名	說	商業名	說
貿易商	主トシテ支那絹織物英金巾洋反物紡績糸等ヲ輸入シ牛皮藥種、松ノ實、海參、干牡蠣、干淡菜、贛贛ヲ輸出ス	雜貨商	細糸類、剪刀、雨傘等ノ支那雜貨及アニリン顏料金盃等ノ洋雜貨等ヲモ販賣スルモノ
行商	和金巾、内地木綿、内地紡績糸、燐寸、石鹼、打組類及石油等内地人ヨリ仕入レテ各市へ行商スル者		

三 朝鮮人ノ部

商業名	說	明	商業名	說	明
客主	他人ノ委託賣買ヲ取扱フ者及自家ニテ卸賣卸買ヲ爲ス者	米穀商			
木布商	木綿、麻布ヲ販賣スル者	魚商		生魚鹽魚乾魚等ヲ取扱フ者	
北魚商	專門ニ明太魚ノミヲ取扱フ者	靴商		革、麻、草ノ各鞋ヲ取扱フ者	
牛豚畜		雜貨商		日用品、朝鮮小間物、内地雜貨等ヲ販賣スル者	
鐵物商	農具、刃物、鍋釜ノ類	鋤器商		黃銅鑄物、食器、唾器、燭臺、便器	
南草商	煙草商	木物商		木具類一切	
藁商	和布昆布商				

(二) 内外商品取引價額(年額)及増減并ニ其事由

明治四十一年度及四十二年ニ於ケル各種貿易比較増減左ノ如シ

種別	四十二年	四十一年	比較	増減
朝鮮產品移出	九五五、一八〇 ^圓	一、〇三二、九五六 ^圓	減	七七、七七六
朝鮮產品輸出	一、五一五、四三三	一、三八六、五六一	増	一二八、八七二
外國產品移出	一、二二四、一四一	一、三九六、五七七	減	一八二、四三六
外國產品輸出	四、七六八	一〇、八〇〇	減	六、〇三二
計	三、六八九、五二二	三、八二六、八九四	減	一三七、三七二

(備考) 外國產品ニハ内地產品ヲモ包含ス

朝鮮産品移入	一、五一六、二四四	一、五二八、九三四	同	二二、六九〇
外國産品移入	三八九、三〇五	四一六、九一四	同	二七、六〇九
外國産品輸入	二、六七一、二四六	二、八〇六、三一〇	同	一三五、〇六四
計	四、五七六、七九五	四、七六二、一五八	同	一八五、三六三
總計	八、二六六、三一七	八、五八九、〇五二	同	三二二、七三五

即チ明治四十二年ハ四十一年ニ比シテ朝鮮産品外國輸出カ十二萬八千八百七十二圓ヲ増加セシモ總額ニ於テハ三十二萬二千七百三十五圓ノ減退ヲ示セリ此減退ハ言フ迄モナク主トシテ咸南ノ商業圏カ漸次咸北ニ蠶食セラレツツアルト釜山咸北直航船ノ爲ニ元山ニ集散スヘキ荷物ヲ奪取セラレツツアルトニ於ルモノニシテ昨年農産ノ不作ハ更ニ減退ヲ助長セシメタリキ獨リ輸出ニ於テ増加セシハ唯黑鎗ノ採掘稍其緒ニ就キ爲メニ十萬餘圓ノ増進トナリ不期ノ夏鯷豊漁カ肥料トシテ亦十萬餘圓ノ増進トナリシ此二個ノ特殊ナル現象カ與ツテ此異數ヲ呈セシニ外ナラス更ニ之レヲ既往最近五ケ年ノ平均額ニ比較スルトキハ實ニ約四十五萬八千餘圓ノ減退トナル

(三) 商業一般ノ情況

曾テハ日鮮人間ノ取引ニ於テ(第一)市價ノ高低常ナラサル方孔錢ノ受授アリ(第二)斤量榭目等ノ不精確ナルモノアリ以テ其間嗚慾ヲ逞フセシメ(第三)東海岸中他ニ開港場ナカリシ爲坐ナカラニシテ顧客ヲ引キ附クルノ便アリ(第四)交通ノ不便ハ時ニ商品ノ拂底ヲ生シテ往々破格ナル高價ヲ現ハサシムルコト等アリテ要スルニ商況ハ常ニ活氣ニ滿タサレトモ正ニ是レ既往一睡ノ夢ノミ多年ノ經驗ヲ重ネ來テ今ヤ彼我ノ取引頗ル眞面目トナリ隨テ昔日ノ如ク奇利ヲ贏チ得ルノ餘裕ナキニ至リシコト素ヨリ自然ノ理勢ノミサレハ當地方ノ内外人ハ拮据艱勉大ヒニ進取的行動ヲ取ラサル可カラサルノ秋タリ而カ

モ夢未タ全ク醒メス猶昨日ノ樂事ヲ追懷シテ空シク今日ヲ不景氣ニ嘆息シ自カラ進ンテ取ランコトヲ企劃スルニ銳意ナラサルモノアリ朝鮮商人ニ於テ其弊最モ甚シトス故ニ一言ニシテ掩ヘハ目下ノ商況ハ平凡ナリ否寧ロ沈衰ナリ而シテ今後ノ一進一退ハ唯農産物及水産物ノ豊凶換言セハ一ニ天爲ニ依テ左右セラレン耳特ニ著シキ發展ノ期ハ少ナクモ鐵道開通後ノ將來ニ望マサルヘカラス

因ニ當港附近ニ於ケル清國人商業ノ一斑ヲ附記セン抑清國人カ初メテ元山ニ渡來セシハ明治十八年ノ頃ニシテ當時日本領事館ノ好意的待遇ニ依テ日本專管居留地ニ移居シ爾來年々人口増加シ商業益々繁榮ヲ極ム明治二十五年ノ交ハ日本人八百人ニ對シテ彼ハ其十分一強ノ人口ニ過キサリシモ猶元山貿易全体ノ十分ノ四前後ヲ經營シ居タリシニ適々日清戰役ノ起ルヤ彼レハ居留地ヲ渾テ撤退セサル可カラサル大打撃ヲ被リ其後再渡セシモ三十年我母國幣制ノ金貨本位トナルヤ從來大部分彼ノ占買物タリシ金地ハ都テ内地人ノ手裏ニ落チ金巾洋反物等彼レノ專賣的商品モ亦漸次日本木綿和金巾ノ爲ニ驅逐セラル、コト、ナリ終ニ彼ノ立脚地ヲ危殆ナラシメ今ヤ萎靡振ハス最近五ケ年ノ平均輸出入品價額合計ハ實ニ六十五萬餘圓ノ少數ヲ示スニ至レリ

第二節 外國貿易

(内地トノ移出入
モ本節ニ含ム)

(一) 外國貿易沿革ノ大要

元山港ニ於ケル外國貿易ノ沿革ハ之レヲ三期ニ分ツコトヲ得ヘシ其一期ヲ明治十三年(即チ開港當年)ヨリ同二十二年迄ノ十ケ年間トシ第二期ヲ同二十三年以降三十一年迄ノ九ケ年間トシ第三期ヲ三十二年以降今日迄トス

其第一期ハ内地人獨占時代トス當時ノ朝鮮人側ニアリテハ四方ヨリ來集セル顧客ノ爲メニ坐ナカラニシテ輸出入品ヲ賣買セルノミ未タ交通ノ不便ナリシ爲メ彼等自身カ今日ノ如ク沿岸貿易ヲ爲ス能ハス而シテ内地人側ニ於テハ全ク英米金巾類、寒冷紗、綾木綿、綿綸子、綿緞、紅金巾其他ノ洋反物類ヲ大宗トシあにりん顔料、板白銅、折錫等ノ如キ皆歐米品ヲ主トシテ長崎若クハ神戸ノ清商及歐米人商館ヨリ買受ケ之レヲ朝鮮ニ取次販賣ヲ爲セリ收益ノ点ニ於テハ創製時代ノコトトテ

目下ノ如キ薄利ノ取引ニハアラサリシト雖其内容ハ依テ以テ中間ノ利ヲ得ル即チ口錢取りヲ爲セシニ過キスシテ内地ノ工業品トシテハ僅カニ甲斐絹、荒銅、丁銅、剪刀、小形鐵鍋ノ類ノミ輸入セラレ陶磁器類ノ如キスラ猶未タ甚シキ輸入ヲ見サリシ況ヤ今日ノ如キ日用雜貨類ハ殆ント其影ヲ見ス輸出品ニアリテハ砂金、牛皮、藥種等ヲ主要トシ大豆ノ如キ生産微少ナリシ爲メ亦云フニ足ラス要スルニ當時ノ狀況ハ未タ以テ真正ナル日鮮貿易ト云フニ値セサリシナリ

其第二期ニ入りテハ既ニ清國人ハ居留地ヲ構ヘ店舗ヲ列テ（清國カ元山ニ領事館ヲ置キシハ光緒乙酉年即チ我明治十九年ニアリシト雖當時ハ内地人居留地内ニ於テ内地人家屋ヲ賃借シ僅カニ國旗ヲ翻ヘシ居タリシノミ其商人ハ數人ニ過キス實際自國ノ居留地ニ開店セシハ明治二十一、二年ノ交トス）盛ンニ金巾類、寒冷紗及其他ノ洋反物ヲ販賣セリ先ニハ内地人カ上海ヨリ一度長崎又ハ神戸ヘ輸入セラレ相當利益ヲ收メラレタル金巾其他ノ洋反物ヲ仕入レ來リシニ似ス彼等ハ直接上海ヨリ之レヲ輸入セルニ依リ其元價ニ於テ既ニ内地人ノ頗頗スヘキモノニアラサルニ加ヘテ彼レカ金利ノ低廉ナル金融ノ期間ノ緩長ナル生活費ノ少額ナル愛嬌ニシテ且勉強ナル等種々ノ利器ヲ有ス故ニ從來内地人ノ口錢取的輸入貿易ハ忽チ彼レニ蹂躪シ盡サレタリ輸出貿易ニ於テモ砂金ノ如キハ十中ノ七八彼レノ吸收スル處トナリ了レリ（内地人ハ從來砂金ハ皆之レヲ大坂ニ送り造幣局ニ納入シテ代金ヲ得ルコトトセシモ清商ハ之レヲ悉ク上海ニ送レリ開ハ上海ハ内地ニ送ルヨリハ量目ニ於テモ價格ニ於テモ俱ニ優レル處アリシニ依ル）如斯ニシテ彼レハ頓ニ元山港外國貿易ノ十分ノ三以上ヲ占ムルニ至レリ於茲乎内地人ハ口錢取輸入貿易ニ代ユルニ直輸入貿易ヲナサ、ルヘカラス此場合ニ於テ儼シモ内地紡績本綿ナルモノ、産出微リセハ實ニ内地商人ハ一敗地ニ塗レテ復タ起ツ能ハサリシヤモ未タ遽カニ知ルヘカラスト雖幸ニ此好産物アリシト適マ日清戰役カ絶好ノ機會ヲ與ヘシトニ依テ頽瀾ヲ既倒ニ回スコトヲ得タリ（内地本綿輸入沿革ハ本號ノ末尾ニ附記スヘシ）平和克復ノ後清商再ヒ店舗ヲ開キ戰前ノ狀態ニ復シタリト雖其意氣復タ昔日ノ盛ニ如カス而シテ既ニ内地本綿ノ販路開ケテ漸ク金巾洋反物等ノ領分ヲ蚕食シツ、アリキ其後明治三十年内地ノ幣制ハ大改革ヲ行ヒ金貨本位制ノ實施トナリ

大ヒニ金輸入ノ必要ヲ生シ來ルヤ政府ハ無利子ヲ以テ金買入資金ヲ銀行ニ貸下ケ一面郵船會社ヲシテ金ノ運賃ヲ減格セシメラレタリ此二個ノ恩典ハ純金量目百圓ニ付八圓前後ノ低廉トナリタリ世界公價ノ一定セル金ニ於テ此大差額ヲ生ス何人カ能ク之レニ敵セン砂金輸出ニ於ケル日清人ノ位置ハ倏忽トシテ顛倒シタリキ

第三期ニ入りテハ清商側ニハ大ナル波瀾ナシト雖概シテ其後ハ衰退ノ傾向ニシテ終ニ著名ナル大店二三閉鎖スルニ至レリ内地側ニテハ漸次順境ニ向ヒ木綿ノ販路ハ著シク擴張セラレ又二期ノ中頃ヨリ各種工業品ハ續々輸入セラレ時々或ハ濫造粗製ノ爲メ聲價ヲ落シ信用ヲ害セシカ如キ一亦一再ナラス甚シキハ全ク販路ヲ杜絶セルモノモアレトモ要スルニ爾來益々販路ハ擴張セラレ品質モ漸ク改善セラレツ、アリテ今ヤ全ク純然タル日鮮貿易ノ域ニ達セリ

因ニ記ス内地木綿ノ初メテ朝鮮ニ輸入ヲ試ミラレシハ明治二十六年ニシテ讚岐産足袋木綿ハ實ニ其濫觴ナリシ然レトモ全然朝鮮人ノ嗜好ニ適セス空シク内地へ逆送セリ其後河内若クハ尾三州ヨリ同シク足袋木綿ヲ輸入セシカ朝鮮産ニ比スレハ幅ノ狭キト丈ノ短キトノ缺点アリ是等ノ改良ハ容易ナリトスルモ第一經緯糸ノ略ホ一定セルカ爲メ朝鮮産ノ如ク地質甚シク粗笨ナラス且其色モ白キカ故ニ鮮人ハ一見以テ耐久ノ力ナキモノトシテ顧ミス依テ或ハ故ラニ其色ヲ汚醜ナラシメン爲メ泥土ヲ塗抹スルカ如キ窮策ヲ取リタルコトアリ兎ニモ角ニモ最初輸入ヲ試ミタル二三商店ハ苦心慘憺工夫ニ工夫ヲ凝ラシ漸クニシテ朝鮮人ノ一顧ヲ得ルニ至レリ其翌二十七年十一月名古屋尾白會社ナル者初メテ機械織細地木綿ヲ輸入セシカ當時ハ既ニ稍顧客ヲ引キツ、アルニ加ヘテ日清戰役ノ爲メ清商ハ一時ニ全部本國ニ去リ英金巾ノ類ハ船舶交通阻碍ノ爲メ輸入ノ途ヲ絶チ將ニ朝鮮人ハ内地木綿ヲ購フニ非レハ又衣ヲ纏フコト能ハサラントス於茲乎端ナクモ細地木綿ハ金巾代用品トシテ續々輸入セラレ以テ今日ノ盛ヲ見ルニ至リシナリ

(二) 主要輸移出入品ノ種類、數量、價額(年額)

輸 移 入 品 ノ 部

明治四十一年、四十二年ニ於ケル主要輸出入品其他概畧左表ノ如シ

品名	四十一年		四十二年	
	數量	價額	數量	價額
鹽 斤	三、三三二、〇五六	三三、四八五 <small>円</small>	一、六七二、七六六	一六、七二〇 <small>円</small>
鹹魚 同	四五、七二五	二、五五二	三三、一七六	一、一六八
干魚 同	二九、三九七	二、五〇〇	一三、八五五	一、六九五
昆布 同	三三、一〇〇	二四五	二、五二四	一、二二八
甘藷 同	一一五、三三六	二、一五六	一〇二、七二一	一、七五八
野菜 同	三四〇、四六〇	一四、六三七	一六五、五二六	八、四四〇
果實 同	二六〇、五七二	一四、七九五	一六六、八九七	九、九七八
麵粉 同	四三五、六〇六	二二、五八八	二九五、八二八	一七、七二三
茶 同	九九、四九三	四、九三二	一〇、八九九	五、三二六
鐵材 同	七〇二、四八一	三九、〇三二	三八二、〇八八	三三、六四五
亞鉛板線 同	一九二、三二七	一九、〇六五	一三九、二二五	一五、五三九
銅及黃銅 同	三、六二二	一、二六二	一五、一八〇	二、八〇五
白木綿疋	六一〇、五二五	六一〇、五二五	四三五、二四	四三五、二四
木綿反物反	一六、〇七八	三三、一五二	五、五六一	一一、二二
日生金巾同	一四、八三三	五九、三三〇	一四、三三三	六〇、三三四

醬	麥	日	漁	洋	陶	銅	鐵	打	綿	綿	絹	麻	綿	寒	日	英	英
油	酒	本	網	傘	磁	器	器	綿	織	打	打	布	毛	冷	天	晒	生
升	打	酒	斤	本	器	器	同	同	糸	紐	紐	同	布	紗	竺	金	金
		升				同			同	同	同	斤	同	同	布	巾	巾
															同	同	同

一五、〇〇〇	六、二八四	一六九、六〇〇	一〇、四〇〇	二八、二〇四		八、三九〇	三二、七〇〇	五九〇、四五〇	一八五、五九六	六、三九四	三、七八三	二五、五〇一	一四、六五五	二、九六六	五二、九二〇	三五、五〇三	二五、二〇七
--------	-------	---------	--------	--------	--	-------	--------	---------	---------	-------	-------	--------	--------	-------	--------	--------	--------

一四、三五〇	二二、五六八	五〇、八八〇	八、三〇七	一九、七六六	二四、三八四	一、七九四	三八、九二二	一〇五、九三四	七二、五七七	六、八八三	一〇、四〇五	六三、六九六	一三、一九〇	三、〇六六	一一、二二七	一七、五二六	一〇五、八八九
--------	--------	--------	-------	--------	--------	-------	--------	---------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	--------	---------

一〇一、三〇四	五、八三二	一八〇、〇〇〇	二〇、九七一	三三、四二七		一五、六二八	一二五、九〇〇	三八一、三五〇	二二〇、七五一	六、九〇三	一、三七二	二九、七三〇	一四、八五三	六、四三二	三三、七二五	五〇、九六二	二七、九二九
---------	-------	---------	--------	--------	--	--------	---------	---------	---------	-------	-------	--------	--------	-------	--------	--------	--------

二二、七八八	一一、四三八	五三、九九八	一六、八〇八	一五、五四七	一七、七三二	一、〇七〇	一三、九〇八	一〇二、九六四	四九、三〇三	六、七七四	一三、五七九	五三、五二三	一三、三六七	六、七五四	七〇、八〇五	二五八、八五〇	二五、六八三
--------	--------	--------	--------	--------	--------	-------	--------	---------	--------	-------	--------	--------	--------	-------	--------	---------	--------

輸移出品ノ部

品名	四十年	一年	四十年	二年
味 噌 斤	一七八、一六四	八、八九五	六八、四五七	四、四七八
砂 糖 同	一九二、二五四	四四、二〇五	五五四、八九二	四三、一六四
素 麵 同	三一、六七九	二、五六七	四二、九六六	三、五二五
燐 寸 <small>グロ スロ</small>	八九、八八八	二六、九七七	八五、五五二	一三、〇九一
蠟 燭 斤	四一、三三八	一〇、八三七	四七、〇二八	一一、九〇六
卷 蓑 箱	三一、二九一	七、七八一	—	—
木 材	—	五〇、六一四	—	二〇、六二五
板 硝 子 函	二八二	二、四五八	四三五	二、八二九
日 本 紙 斤	二五、七九二	一〇、三四四	一九、〇〇六	八、四六六
洋 紙 同	五七、四五二	五、二四九	二六、八八八	一三、〇三三
繩 呎	—	四三、〇六〇	—	三一、一五五
合 計	—	一、九七七、四三六	—	一、六三五、五三六

品名	四十年	一年	四十年	二年
海 參 斤	九四、八七五	二八、七〇九 <small>円</small>	一一〇、五二一	三〇、五六六 <small>円</small>
干 鱈 同	二〇〇、〇八一	三〇、八一五	三五五、二六五	四七、八〇四
干 貝 同	二五、七五七	九、九七一	五、五〇三	一、七三七

通	合	藥	黑	牛	生	牛	荒	砂	大	魚	鹹	干	鱸	
計	計	品	鉛	骨	牛	皮	銅	金	豆	肥	魚	魚	鱸	
			同	斤	頭	同	斤		舛	同	同	同	同	
			一、三二七、二四〇	一五、四二〇	一、六九七	一六三、五〇一	一三六、一五七		八、〇九一、二〇九	二、三九五、〇三六	七二、二七四	二六、八二〇	一、〇一〇	
													三五六	
			三、二六九、一三八	一、二九一、七〇二	九、二三五	二、六一〇	一〇九、〇七七	四一、一七二	三五、六二七	四〇五、二五九	五四二、一一一	五八、八四二	五、七九六	一、九二〇
														三五六
														一、〇三三
														二、〇二〇
														八、五九九
														一五二、三三九
														二六、八二三
														四六五、四六八
														五、五八〇
														五、五四四
														二二六、三七三
														一、〇三三
														二二九、四三五
														一六、三四二
														一、二七九、八〇九
														二、九〇五、三四五

(三) 輸移出入商及仲介ノ員數、實力并ニ信用

其一 内地人ノ部

便宜上元山商業會議所カ貿易商ニ對シテ經費徵收ノ標準トシテ定メタル等級ヲ舉クレハ左ノ如シ

等級	人員	摘要
特等	一人	専ラ對朝鮮人向直輸移出入ヲナス者
一等	十八人	同前
二等	十一人	朝鮮人向内地人向直移輸出入ヲナス者
三等	十三人	主モニ直輸移出入ノミヲナス者

右ノ中ニ於テ三四大坂、長崎若クハ釜山等ヨリノ支店者モアレトモ其他ハ皆獨立ノ商估ニシテ居留地ノ名譽職ニ就ク者モ多クハ此種ノ人ニ屬シ又居留地ノ主腦タリ原動力タリ銀行取引者中ノ主ナル者ニシテ實力信用共ニ第一流者トスヘシ仲介者ニ二種アリ一ハ毎年六月商業會議所ニ於テ志願者ヲ募集シ其中ヨリ定員ヲ選舉シ其當選者ニ組合ヲ組織セシメ商業會議所監督ノ下ニ連帶責任身元保證金ヲ提供セシメ以テ商品賣買ノ媒介ヲ營業セシムル者一ハ自由營業ヲナス者ニシテ目下前者ハ四人後者ハ一人アリ而シテ實力信用ノ上ニ於テ後者ハ前者ニ及ハサルコト無論ニシテ主要ナル輸移出入品ハ多ク前者ノ媒介スル處タリ

其二 朝鮮人ノ部

露領ニ移住セル朝鮮人ノ需要ニ供スルタメ朝鮮雜貨又ハ露人ニ供給スル爲メ生牛ヲ輸出スル者アレトモ微々云フニ足ラス又仲介營業ノ如キモ間接外國貿易ニ關係ヲ有スルモノハ第四節イ號ニ記シタル處ノモノニ外ナラス

(四) 各商人間取引ノ情況

各商人間取引ノ情況ハ既ニ第五節商慣習ノ各號ニ於テ詳述シテ復々剩ス處ナケレハ茲ニ重記セス

(五) 輸移出入品ニ要スル經費 (關稅、運賃、保險、倉敷料其他)

(甲) 外國航海 (内地航海ヲ含ム)

輸移出ノ部

(イ) 運賃及附屬費並ニ内地移入税

種類	單位	運賃		濱出賃	積込賃	揚卸賃	倉仕賃	倉敷料	内地移入税
		阪神關門	貨						
穀類	一石	四〇〇 <small>厘</small>	三五〇 <small>厘</small>	高低	七〇 <small>厘</small>	七五 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>	九六〇 <small>厘</small>
干鰯	一個	一、〇〇〇	三三〇	高低	五〇	五〇	三〇	四〇	無税
牛皮	百斤	七〇〇	一	高低	五〇	五〇	三〇	四〇	一、二〇〇
海參	一個	一、〇〇〇	八〇〇	高低	六〇	四〇	三〇	四〇	時價ノ三割
干蠣	一個	一、〇〇〇	八〇〇	高低	六〇	四〇	三〇	四〇	同
黒鉛	一噸	一	二、〇〇〇	高低	四〇〇	四〇〇	二〇〇	三〇	時價ノ一割

(ロ) 輸移出税

從價税ニシテ總テ五歩ナリ

(ハ) 海上保険料

保險金百圓ニ付キ阪神行二十五錢關門行二十錢ナリ

(ニ) 問屋口錢

賣買金額百分ノ三乃至五ナリ

輸移入ノ部
(イ) 運賃及附屬費

種類	單位	積込賃及運賃	揚卸賃	倉入仲仕賃	普通倉敷	洋和	銀行料
繩	一個	四五〇 <small>厘</small>	九〇 <small>厘</small>	二七〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		七五 <small>厘</small>
木綿	同	四〇〇	七〇	二五〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		二一〇
金巾類	同	四〇〇	七〇	二五〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		三九〇〇
綿糸	同	五〇〇	八〇	二五〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		一八〇
打綿	同	三五〇	七〇	一五〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		九〇
陶器	同	三〇〇	四〇	一五〇 <small>厘</small>	二〇 <small>厘</small>		三〇
燐寸	同	六〇〇	八〇	二五〇 <small>厘</small>	三五 <small>厘</small>		
砂糖	同	二五〇	三〇	一六〇 <small>厘</small>	二〇 <small>厘</small>		三〇
酒	同	六〇〇	六〇	三六〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		
麥酒	同	四五〇	四〇	三六〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		
鍋釜	同	四〇〇	五〇	一五〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		
樽物大	同	六〇〇	六〇	一六〇 <small>厘</small>	三〇 <small>厘</small>		
雜貨一等品	一才	二五〇	一〇	一五四 <small>厘</small>	四〇 <small>厘</small>		
同二等品	同	二〇〇	一〇	一四四 <small>厘</small>	四〇 <small>厘</small>		

六一

同	三等品	同	一二〇	一〇	低高	一四五	四
---	-----	---	-----	----	----	-----	---

(ロ) 輸移入税
 繩以ハ無税ニシテ他ハ總テ從價税七步五厘ナリ

(ハ) 海上保險料

保險金百圓ニ付キ十八錢乃至二十錢ナリ

(ニ) 倉敷料

總テ一ヶ月定メナルモ銀行ハ日割計算ヲ爲ス

(乙) 沿岸航海

(イ) 運賃及積込揚卸費

種類	單位	運賃							
		釜山	西湖	新昌	城津	鏡城	清津	長箭	江陵
木綿	五十疋	八〇〇	三四〇	五五〇	六〇〇	九〇〇	九〇〇	三五〇	六〇〇
綿糸	六十疋	八〇〇	三四〇	五五〇	六〇〇	九〇〇	九〇〇	三五〇	六〇〇
金巾	二十五反	八〇〇	三四〇	五五〇	六〇〇	九〇〇	九〇〇	三五〇	六〇〇
打綿	一個	八〇〇	三〇〇	四五〇	五〇〇	八〇〇	八〇〇	三〇〇	五〇〇
上等雜貨	一才	一三〇	四二	七八	九〇	一一〇	一一〇	四二	八七
下等同	同	一一〇	三二	六〇	七〇	一〇〇	一〇〇	三二	七〇
白紙	同	一二五	三五	六五	八〇	一〇〇	一〇〇	三五	八〇
積込	山	一〇	一〇	一〇	七〇	七〇	七〇	一〇	一〇
揚卸	先	一〇	一〇	一〇	七〇	七〇	七〇	一〇	一〇

樽	燐	繩	呎	鉄	穀	食	石	葉	麴	洋干
物	寸			物	類	鹽	油	糞		柿蠟
大	小	大	一	一	百	同	一	一	同	同
一	一	一	才	個	斤		個	函		
個	個	個								
八五〇	四五〇	一、六〇〇	三	四八〇	三三〇	一五〇	一九〇	二六〇	八〇	二二〇
二九〇	二二〇	五二〇	二五	二四〇	一〇〇	二二〇	八五	八五	二六	三五
五〇〇	一八〇	九五〇	三五	三四〇	一八五	一五〇	二二〇	二二〇	五〇	六五
六〇〇	二二〇	一、一〇〇	四〇	三八〇	二〇〇	二〇〇	二二〇	一六〇	五五	八〇
七〇〇	三〇〇	一、四〇〇	五〇	五〇〇	二八五	二五〇	一六〇	二四〇	八〇	一〇〇
七〇〇	三〇〇	一、四〇〇	五〇	五〇〇	二八五	二五〇	一六〇	二四〇	八〇	一〇〇
三〇〇	二二〇	五二〇	二五	二四〇	一一五	二二〇	九〇	一〇〇	二六	三五
六〇〇	二二〇	一、一〇〇	四〇	三八〇	二〇〇	一七五	二二〇	一六〇	五五	八〇
六〇	六〇	一〇〇	一〇	九〇	五〇	三五	三〇	三〇	一〇	一〇
六〇	六〇	一〇〇	一〇	九〇	五〇	三五	三〇	三〇	一〇	一〇

一定セサルモ大畧左記ノ如シ此以外ノ諸港ハ不明ナリ

清津 三才ヨリ 高五錢五厘 低二錢八厘
 鏡城 同 高七錢 低五錢
 城津 同 高四錢 低二錢

(ハ) 倉敷料

(ロ) 倉入仲仕賃

外國航海輸移入ノ部普通倉敷料ニ同シ

(ニ) 濱出仲仕賃

外國航海輸移入ノ部倉入仲仕賃ニ同シ

(ホ) 海上保險料

江原道行ハ目下保險ノ申込者ナキ爲メ定率ナシ他ノ各港左ノ如シ(保險金百圓ニ付)

釜	山	西	湖	新	昌	城	津	鏡	城	清	津
一八〇											
厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘

(六) 輸移出入ノ季節

主要輸移出入品ノ主要季節ハ概畧左ノ如シ

其一 輸移入品ノ部

- 一 木綿類 九月ヨリ翌年三月迄
- 二 晒金巾類 同前
- 三 生金巾類及シーチング 六七兩月及十月ヨリ翌年二月迄
- 四 天竺布 五、六兩月及十一、十二兩月
- 五 打綿 九、十兩月
- 六 石油 十二月ヨリ翌年一月迄
- 七 陶器 三月ヨリ五月迄

八 日本酒 十月ヨリ翌年一月迄
 九 食 鹽 三月ヨリ五月迄及十、十一兩月
 其二 輸 移 出 品 ノ 部

一 大 豆 二、三兩月及十一、十二兩月

二 魚 肥 六、七兩月及十一、十二兩月

三 海 蔘 三月ヨリ七月迄十月ヨリ十二月迄

四 干 蠟 一年中通シテ輸移出スレトモ春季五月秋季九月ヲ最多ナリトス

五 牛 皮 二、三兩月及十一、十二兩月

六 生 牛 九、十兩月

(七) 輸移出入品ニ對スル需要地ノ情況

其一 輸 移 入 品 ノ 部

明治四十一年同四二十年ノ平均算定ニ依レハ其數量價額共ニ織物類ヲ以テ第一位トス就中内地木綿及ヒ粗布(シーチング)ノ二種ノミニテモ他諸國產ノ金巾類洋反物類一切ヲ合シタルヨリ尙多數ナリ今都テノ織物類ノ價額ヲ合計スレハ約一百五十萬圓許ニシテ其内八十四萬圓ハ内地產ニ屬シ六十六萬圓ハ諸外國產ニ屬ス而シテ内地木綿及粗布ハ主トシテ元山以北沿岸各未開港地(比較的質素ナル地)及元山附近ノ諸郡ニ需要セラルルモノニシテ諸外國產ハ主トシテ元山附近及ヒ城津、清津(主トシテ間島其他清領行)等ノ開港地ニ轉送セラレ未開港地ノ需要トナルモノ甚タ少シ其内容ヲ表示セハ

- 一 内地產移入高 八十四萬圓
- 一 諸外國產輸入高 六十六萬圓

合計 一百五十萬圓

内

一 城津清津二港内地産需要高 十一萬圓

一 同上外國産同上 十六萬八千圓

小計 二十七萬八千圓

一 未開港地内地産需要高 三十三萬八千圓

一 同上外國品同上 十二萬圓

小計 四十五萬八千圓

一 元山附近諸郡及江原道一部内地産需要高 三十一萬二千圓

一 元山居留地其他附近内地人同上 八萬圓

一 元山附近諸郡及江原道一部外國産需要高 三十七萬二千圓

小計 七十六萬四千圓

合計 一百五十萬圓

要スルニ内地木綿粗布等ノ如キハ前途益々有望ナル商品ナリトス

打綿 本品ハ最モ朝鮮人ノ嗜好ニ適ヒ將來益々販路擴張ノ一方ナル好運命ヲ有ス無論全部内地産ニシテ其内容左ノ如シ

一 移入總價額 十萬四千圓

内

一 城津清津需要高 二千圓

- 二 未開港地同上 三萬四千圓
- 三 元山附近諸郡及江原道一部 六萬八千圓

合計 十萬四千圓

其大部ハ大阪産ニシテ廣嶋、富山、堺、京都ノ各地ヨリモ移入ス

農産物トシテハ柑橘類、麵粉、茶、穀類、蔬菜其他トス

其移入價額ノ統計ハ約六萬五千圓ニ上リ其内麵粉、柑橘類ハ主トシテ朝鮮人需要ナレハ此總額ノ一半ヲ内地人ノ需要トシ
他ノ一半ヲ附近朝鮮人ノ需要トセハ大ナル誤ナカルヘシ

衣類、綴糸、糸紐類、手巾、窓掛、卓子覆等

- 一 内地産移入高 十萬二千圓

- 二 清國産輸入高 三萬圓

合計 十三萬二千圓

内

- 一 未開港地需要高 二萬五千圓
 - 二 元山附近諸郡及江原道一部需要高 七萬七千圓
 - 三 元山居留地及附近内地人需要高 三萬圓
- 合計 十三萬二千圓

金屬製品 鍋釜類及刀物類、釘類、亞鉛板、鉄板等ニシテ悉皆内地ヨリ移入ス

- 一 移入總價額 六萬五千圓

内

- 一 城津清津需要高 七千圓
- 二 未開港地同上 二萬四千圓
- 三 元山附近諸郡同上 一萬六千圓
- 四 元山居留地及附近内地人同上 一萬八千圓
- 合計 六萬五千圓

諸器具(陶磁器ヲ含ム)全部内地産ニシテ

- 一 移入總價額 二十三萬圓

内

- 一 未開港地需要高 八千圓
- 二 元山附近諸郡及江原道一部同上 十三萬七千圓
- 三 元山居留地及附近内地人同上 八萬五千圓
- 合計 二十三萬圓

飲食品ノ主ナルモノハ酒ニシテ約五萬四千圓其他一萬圓以上ノモノハビール、醬油、砂糖等ニシテ三千圓以上ノモノハ味噌、黄砂糖、コンデンスミルク、素麵、蔬菜、罐詰等トス

- 一 内地産移入高 十萬圓
- 二 外國産輸入高 四千圓
- 合計 二十萬四千圓

内

一 城津清津需要高 四千圓

二 未開港地同上 六萬九千圓

三 元山居留地及附近内地人同上 三萬一千圓

右ハ十中ノ九内地人需要ニシテ朝鮮人ハ僅カニ十中ノ一ナルヘシ

消耗品并ニ一般諸雜貨 消耗品ニ於テハ一萬圓以上ノモノハ第一卷煙草、燐寸、蠟燭トシ一千圓以上ノモノハ種油、石鹼、豆

油、機械油、石炭、刻莖、化粧品、香油等トシ雜貨ニ於テハ一萬圓以上ノモノヲ藥品履物類アニリン顔料、木材、繩、紙

紙類トシ一千圓以上ノ者ヲ賣藥、ペンキ、石灰、セメント、窓硝子、瓦及煉瓦、竹材、繩索類、筵、内地紙類、古新聞紙、紙

製品、書籍、帽子、靴、脫脂綿等トス

一 内地ヨリノ移入高 四十一萬圓

二 外國ヨリノ輸入高 八萬圓

合計 四十九萬圓

内

一 城津、清津需要高 七萬六千五百圓

二 未開港地同上 十六萬圓

三 元山附近諸郡及江原道一部同上 八萬五千圓

四 元山居留地及附近内地人同上 十六萬八千五百圓

合計 四十九萬圓

石油ハ米國スタンダード會社ノ松印ト英國ライジングサン旗印錨印ノ三種ニシテ米油十中ノ七以上ニアリ

一 輸入總價額 九萬圓

内

一 城津、清津需要高 二千五百圓

一 未開港地同上 一萬五千五百圓

三 元山附近諸郡同上 四萬五千圓

四 元山居留地并ニ附近内地人同上 二萬七千圓

合計 九萬圓

其二 輸移出品ノ部

海産物ハ主トシテ海蔘、干蠣、鯨肉、魚肥等ニシテ海蔘、干蠣ノ二品中海蔘ハ主トシテ清國天津、牛莊、芝罘、上海等ニ需要セラレ其品位ハ他ノ朝鮮産ニ比スレハ需要地ニ於テ常ニ高價ヲ有シツ、アリ干蠣ハ臺灣、香港ニ需要セラレ亦品位優等ナリ鯨肉ハ九州ニ魚肥ハ兵庫、廣島、長崎、下關、東京トス右ノ内元山港ヨリ輸移出スル魚肥ハ元山商業會議所ニ於テ品質及荷造改良ノ爲メ嚴重ナル取締及検査ヲ執行シツ、アルカ故ニ近時大ニ品質精良ニ向ヒ需要ノ聲價ヲ高カラシメ既ニ他ノ朝鮮産ニ比シテ常ニ二割以上ノ高價格ヲ保チツツアリ海産物ノ輸出ハ

一 内地へ移出高 四十二萬三千圓

二 清國其他へ 三萬五千圓

合計 四十五萬八千圓

内

一 城津清津ヨリ移入高 七千五百圓

一 未開港地ヨリ同上 六萬七千圓

三 元山附近江原道沿岸同上 三十八萬三千五百圓

合計 四十五萬八千圓

農産物ハ大部分大豆ニシテ其他僅カニ荏子外二三種ニ過キス清國ヘハ松ノ實露國ヘ果物、蔬菜アルノミ而シテ元山ノ大豆ハ亦魚肥ト齊シク朝鮮大豆中ノ最上等ニ位シ他地方産ニ比シ常ニ五十錢乃至一圓ノ高値ヲ有シ專ラ醸造用又ハ食料品材料ニ供セラル特ニ安邊産上等大豆ノ如キハ近來布哇ヘ輸出セラレツツアリ未タ試験中ニ在ルカ故ニ確タル適否ヲ知ル能ハスト雖蓋シ將來益々有望ナルカ如ク唱道セララル

一 内地ヘ移出高 三十四萬圓

二 清國其他ヘ輸出高 一萬四千圓

合計 三十五萬四千圓

内

一、未開港地ヨリ移入高 二萬六千圓

一、元山附近諸郡同上 三十二萬八千圓

合計 三十五萬四千圓

砂金及金屬類 砂金外甲山銅ニシテ砂金ハ四十七萬圓甲山銅ハ九千圓トス共ニ内地ノミヘ移出セララル

一 内地ヘ移出高 四十七萬九千圓

内

一 城津ヨリ移入高 二萬五千四百圓

二 未開港地ヨリ同上 二萬七千圓

三 元山附近諸郡同上 四十二萬六千六百圓

合計 四十七萬九千圓

牛皮其他皮革等 大部分牛皮ニシテ皆内地へ移出セラレ其他ハ諸種ノ毛皮、牛骨等ノミ

一 輸移出總價額 五萬七千七百圓

内

一 内地へ移出高 五萬五千九百圓

二 清國其他へ輸出高 一千八百圓

合計 五萬七千七百圓

生牛ハ全部海路露領浦汐港へ輸出セララルモノニシテ彼ノ地ノ需要ハ多々益々辨スルノ情况ナリ

一 浦鹽へ輸出高 二十四萬圓

内

一 咸興永興地方ヨリ移入高 十七萬圓

二 元山附近江原道一部同上 七萬圓

合計 二十四萬圓

第三節

朝鮮内地商業取引

(一) 主要商業ノ種類

朝鮮人ノ商業組織ハ無論未夕頗ル幼稚ノ位置ニアルヲ以テ概ネ數種兼業ニシテ專業ハ飲食店ヲ除ク外殆ント絶無稀有ノコトニ屬ス故ニ明確ニ列記スルコトハ稍困難ナレトモ其中ノ顯著ナルモノヲ舉レハ

商業名	說	明	商業名	說	明
鹽魚商	殆ト專業		明太魚商	殆ト專業	
麻布商	同前		穀物商	同前	
干鰯商	專業		漁網商	專業	
和布商	同前		雜貨商		
昆布商	同前		生牛商	專業	
露店商	場軍ト稱スル市場商人				
客主(問屋)	單ニ顧客ノ爲メニ商品賣買ノ牙保ヲ爲ス者ト自ヲ取次又ハ委託賣買ヲ爲ス者トノ二種アリ				

(二) 商品取引ノ數量及價額(年額)

取引セラルヘキ商品ノ都テノ數量價額ヲ計上シ盡サンコトハ殆ト不可能事ニ屬スルヲ以テ多クノ場合有力ナル内外實業者ノ所見ト多方面ノ觀察トヲ綜合シ稍精確ニ近シト思惟セラル、モノヲ以テ推定セサル可カラス今其主要ナルモノヲ列舉セハ左ノ如シ

品名	數量	價額	品名	數量	價額
明太魚	八千駄	100,000 円	鹽魚	—	7,000 円

麻紵布	十五万疋	二四、〇〇〇	魚肥料	百三十五万斤	四〇、〇〇〇
白米	四千石	四、〇〇〇	生牛	四千五百頭	二〇〇、〇〇〇
雜穀	三十万石	二〇〇、〇〇〇	漁網	—	一〇、〇〇〇
和布	二十二万斤	一一、〇〇〇	雜貨	—	三〇〇、〇〇〇
昆布	二万斤	一、〇〇〇	笠	四万个	四、〇〇〇
冠及笠帽	二万五百個	七、〇〇〇	靴類	十三万三千足	三、四〇〇

(三) 商品集散ノ情况 (季節、方法、集散區域)

集散ノ季節

明太魚 ハ十一月末ヨリ翌年五月頃迄ニ漸次移入セラレ十二月初旬ヨリ翌年九頃迄ニ移出セララル

麻紵布 咸北産ノ麻布ハ五月ヨリ七月迄ニ移入セラレ同季間ニ移出セララル忠清道韓山産ナル白紵布モ概ネ此季間ニ釜山ヨリ移入シ元山里市場(朝鮮人部落)ニ於テ夏季中漸次散賣セララル

和布及昆布 ハ四月ヨリ八月迄ニ移入セラレ同季間ニ移出セララル

鹽魚 ハ主トシテ鯖、鯧、鯧、鱈ニシテ鱈ハ一年中殆ント多少宛間斷ナク出入シ鯖、鯧ハ四月ヨリ六月迄鯧ハニ四月ヨリ七月迄及九月ヨリ十月迄ノ二回ニ集リ同季間ニ分散ス

魚肥料 ハ鯧、鯧ノ二種ニ外ナラサルカ故ニ集合季ハ鹽魚ノ頃ト同一ニシテ内地相場ノ順境ナル限リハ元山ニ貯藏シ置カル、カ如キコトナク續々輸出セララル

生牛 ハ季節ナクシテ間斷ナク集散セララル

白米及雜穀　ハ十一月初旬ヨリ翌年三月頃迄ニ集散セラル其以外ノ時ニ於テ取引セラル、モノハ皆輸移入物ト知ルヘシ

集散ノ方法

明太魚　ノ移入ハ約十中ノ八ヲ汽船ニ依リ十中ノ二ヲ朝鮮船ニ依ルモノトシ而シテ他港ヘノ移出ハ全部汽船ニ依リ陸上ニ於テハ主トシテ元山里ノ市場(朝鮮人部落)ヨリ平安道及江原道ノ一部ニ牛馬ヲ以テ運搬セラレ其他ハ元山里開市ニ於テ散賣ス

麻紵布　ハ咸北産ノモノモ南朝鮮産ノ者モ全部汽船ニ依テ移入セラレ而シテ咸北産ハ全部汽船ニテ移出セラル南朝鮮産ハ概テ元山里市場ニ於テ附近ノ數郡ニ散賣セラル

魚肥料　ハ江原道沿岸ヨリスルモノモ元山附近ヨリスルモノモ殆ト全部朝鮮船ニ依リ稀ニ内地形帆船ニ依リテ移入シ移出ハ全部汽船便ニ依ル

生　牛　ハ主トシテ咸興、永興方面ヨリト其他ハ平安道江原道ノ一部ヨリ皆陸路元山里ノ開市ニ集リ來リ元山附近ノ需要ヲ充タシタル殘餘ハ全部汽船ニ依リテ浦鹽港ニ輸出セラル

白米及雜穀　ノ輸移入物ハ無論全部汽船ニ依ルモ元山附近ノ産物ハ皆人肩馬牛背ニ依テ運搬セラレ又移出物ハ其大部分汽船ニ依リ近接セル地方ノミ少數ノ朝鮮船ニ依ルモノアリ元山里開市ニ於テ散賣セラル、モノハ皆人肩馬牛背ニ依ルヤ論ナシ漁網、笠、靴類、冠及笠帽(笠ノ雨覆)雜貨ノ類ハ悉皆開市場ニ於ケル陸上ノ集散ナリ

要スルニ元山朝鮮人ノ手ヲ經テ荷物ノ集散セラル、區域ハ開市場ニ於テハ安邊、德源、文川、高原、永興ノ五郡トシ其他ニ於テハ平安、黄海兩道ノ一部江原道ノ強半部咸鏡南道屈指ノ各地トス

(四) 卸賣及小賣ノ情況

一般ニ卸商小賣商ト云ヘルカ如キ劃然タル種別アルコトナシ朝鮮産物ニ於テ卸賣小賣ノ關係ヲ生スレトモ其關係スル處眞

ニ一小部分ニ過キス主トシテ他道ヨリ移入セラル、處ノ麻紵布、朝鮮木綿、紙類、團扇、扇子、紋産、簾、紐絲類カ仕入元即チ卸商ト開市商人(場軍、又ハ負商、裸商)及常設店小賣商人等トノ間ニ取引セラル、ノミニシテ輸入外國産物ニ在テハ絶無ノコトナリトス

(五) 行商ノ情況及其利率

朝鮮人行商者カ各開市場及寒村僻地ニ行商シツ、アルハ今猶舊時ノ如シト雖モ近來海上ノ交通稍發展セルカ爲其惠ニ賴ルヲ得ルノ地ニ在テハ漸ク行商者ノ徘徊ヲ必要トセサルニ依リ隨テ彼等ノ商業地域ハ縮小セラル、ノ傾向アルト且清國人カ内地ノ著名ナル各村落ニ割據シテ卸賣小賣ヲ兼營スルカ故ニ小資本ナル朝鮮人行商ハ便宜上所在清國人ノ卸賣ヲ受クル者尠カラス即チ朝鮮人行商ハ清國人ノ爲ニハ其小賣ニ於テ既ニ自家ノ顧客ヲ奪却セラレツツアルト彼ノ卸賣ヲ受クルニ依リテ亦自家ノ利益ヲ減殺セラルルニ至ルハ當然ノ理勢ナルヲ以テ復昔日ノ如ク盛大ナルコト能ハス要スルニ彼等ハ漸次衰退ニ赴クヘキ運命ニアリト謂フヲ得ヘシ

内地人ニシテ附近ノ地方ヲ行商スル者六七人アリ皆石油、燐寸、卷煙草、石鹼等ノ小賣ヲ爲ス又附近ノ開市日ニ露店ヲ張り駄菓子、果物ノ類ヲ賣ル者八九人アリト雖皆僅ニ糊口ノ資ヲ得ルニ止マリ復謂フニ足ラス

清國人ハ内地人ヨリハ比較的遠距離ヲ行商ス然レトモ其數未十數人ニ過キスシテ亦甚振ハス

茲ニ特筆スヘキハ前述ノ清國人カ朝鮮各村落即チ近キハ元山里、鎮興場(永興郡内)永興、高原、定平、咸興ヨリ遠キハ前津、洪原、新浦、新昌等ノ各樞要地ニ割據シテ多キハ十數戸少ナキハ一二戸ノ店舖ヲ張り盛ニ小賣ヲ營ミ傍ラ朝鮮人行商ニ卸賣ヲ爲ス者ニシテ彼等ノ販賣スル商品カ悉皆内地製品ナルノミナラス其仕入元トナレル者モ皆内地人ナルノ一事ナリ世人ノ普知セル如ク彼等カ商取引上ニ於ケル信用ハ頗ル優良ニシテ内地人ハ彼等カ提供スル資金ヨリハ必ラス幾割カノ餘分ナル商品ヲ貸與スルノ慣習ナルカ故ニ常ニ彼等ハ内地人ヨリ其資金以上ノ融通ヲ受ケツツアリ彼等ハ此ノ如ニシテ拮据

勉勵未曾テ寸毫モ債主タル内地人ニ對シテ損耗ヲ被ラシメタルコトナシ故ニ彼等ノ商業ハ朝鮮人ノ行商ニ反シテ年ト共ニ隆盛ニ向ハントスル兆ヲ呈セリ

行商者ノ利率ヲ知ラントセハ種々複雑ナル調査ヲ要シ容易ノ業ニ非ス元價ノ廉ニシテ取引高ノ少ナキモノハ常ニ其率高ク之レニ反スルモノハ利率低キヤ無論ナレトモ通シテ賣却價額一割以下ノ利益ナリト斷シテ大ナル過誤アラサルヘキヲ信ス

(六) 商況浮沈ノ情况及其一般ノ原因

元山港貿易及元山里内國取引ノ著シク繁榮セシハ開港後十數年ノ間ニ在リ當時仁川ノ開港日猶淺ク平安、黄海、京畿諸道ノ商人元山ニ來往シ爲ニ輸入品ノ大宗タリシ英米金巾類、綾木綿、寒冷紗及甲斐絹、銅、錫等ノ類ハ汽船ヨリ埠頭ニ揚陸スルヤ否概ネ梱包ノ儘引取ラレ馬蹄銀、砂金、牛皮、藥種ノ類ハ頻リニ輸出セラレ商況常ニ活潑ナリシ但其間明治十五年大院君ノ變其波動遠ク當地方ニ及ヒ一時生命財産ノ安固ヲ保ツ能ハス居留民ノ強半歸朝シタルト其後仁川港ノ貿易漸ク發達シ黄海、平安、京畿ノ商人ハ既ニ當方面ノ顧客タラサリシト明治十七年咸鏡道ノ大凶歉ハ餓孳途ニ横ハルノ慘狀ヲ呈シ爲ニ貿易ノ發展ヲ挫折セシト明治二十一年咸鏡道觀察使趙秉式カ防穀ノ暴令ヲ布キタルニ依リ日鮮兩商人ニ直接莫大ナル損害ヲ與ヘタルカ如キ數回ノ打撃ヲ被リタリト雖要スルニ先ツ順潮ニシテ且有望ナリシナリ故ニ元山里ニ於ケル客主ハ皆繁榮ヲ極メ同業者ノ數ハ年々歲々増加シテ終ニ最盛時大小百三四十店ヲ數ヘシノミナラス各港客主中ニ於テ當方面ノ客主ハ其實力ニ富メルヲ誇ルニ至レリ日清日露ノ兩役ハ猝カニ朝鮮人ノ財囊ヲ温タメ爲ニ一時的盛況ヲ示シタリシモ既ニ第三項第一節總說ニ於テ略記セシカ如ク其後城津清津ノ開港トナリ尋テ沿岸航海ノ開始トナリ又急劇ナル新貨引換及於音(手形)ノ禁止ニ伴フ諸種ノ障害ニ依リ當方面ノ客主カ内地商人ヨリ融通ヲ受ケテ地方ノ顧客ニ貸附ケタリシ債權ノ容易ニ收拾スヘカヲサルニ至レルト内地商人ノ樞要ナル各地ニ支店又ハ出張所ヲ設ケテ直接地方朝鮮人ト取引ヲ開キタル等ニテ顧客ノ來往物資ノ集散共ニ其數ヲ減シテ今ヤ實ニ十數戸ヲ存スルノミ有力家ニシテ新タニ客主ヲ開業セシ者アリ或ハ是レ恢復ノ曙光ヲ

放テリトスル者アレトモ遺憾ナカラ未タ然ル傾向アリト認メ難シ

第四節 市場

(一) 名稱位置

昔年來元山府本邑ニ開市アリシモ四十五年以前郡衙ヲ元山居留地附近ナル元ノ監理事務所跡ニ移セシ以來叢崗タル小邑益寂寞ノ境トナリテ今ヤ終ニ開市絶ヘタリ故ニ本府中ニハ唯元山里ニ上下二箇處ノ開市場アルノミ而カモ本道無二ノ大市タルノミナラス實ニ咸興ノ開市ト共ニ亦國中有數ノ大市ナリトス名稱ハ元山上里(元山港稅關埠頭ヨリ南方約二十二三丁)ニ在ル者ヲ上場内地人ハ(「近市」)ト稱シ元山下里(元山港稅關埠頭ヨリ南方約一里)ニ在ル者下場(内地人ハ「遠市」)ト稱ス

(二) 開市日

上里ノ開市日ハ毎月陰曆五日、十五日、二十五日ノ三回下里ノ開市日ハ十日、二十日、三十日(小ノ月ハ二十九日)ノ三回ナリ

(三) 出市營業者ノ狀態及營業者タルノ要件

出市營業者ノ販賣品ハ各種皆専門的ナリ而シテ彼等ハ各商業ノ種別ニ依リ常ニ一定地域ニ同業相集團シ決シテ混乱セサルノミナラス各地モ亦每市一定ノ場所ニ割據シ人ヲシテ探知ニ便ナラシム

其販賣品中朝鮮産ノ各種工業品ハ各製造人ノ手ヨリ又明太魚、麻布、和布及昆布、鹽魚、朝鮮雜貨等ハ卸商ノ手ヨリ(信用取引「朝鮮語一與受」二與受」ト云フ與受ハ取引ノ義ニテ其與受日ハ開市ノ翌々日ヲ定日トス故ニ例ヘハ上場ノ與受日ハ月ノ七日、十七日、二十七日ニシテ下場ハ十二日、二十二日、翌月二日トス而シテ一與受トハ十日間ノ謂也)仕入生魚、蔬菜ハ受託販賣ト仲買トノ二種アリ外國輸入品ノミハ直接内地人ヨリ仕入レテ之レヲ出陳ス

開市營業者トナルニ就テハ別ニ込ミ入タル要件等ナシ只閉市後掃除料トシテ一店ニ付一回一錢宛ヲ徵收ス
 露店ノ場所ヲ定ムル方法ハ其起原ヲ詳カニセスト雖昔時ヨリ既ニ商業種別ニ依リ劃定セラレタル域アリ連續シテ出場スル
 者ハ其場所ニ定居スルヲ得若シ停業シテ出場セサル時ハ他人ヲシテ假リニ其缺所ニ設店スルコトヲ得セシム而シテ爾後三
 ヲ月以上故障ナク同所ニ設店ヲ繼續シタル時ハ其人ノ占居ヲ認諾スルノ例ナリシカ昨年市場ノ大修繕ヲ爲セシ以來其修繕
 費用ニ充ツル爲全市場ヲ五等ニ分チ各等級ニ依リテ收金ヲ爲シ場所ヲ定メシメ之レニ票證ヲ與ヘ若シ票證ナキ者ハ一定ノ
 場所ヲ得ルコト能ハサラシムルコト、ナレリ

(四) 出市ノ主要貨物ノ種類及價額 (四十二年五月末日市價)

品名	數量	價額	品名	數量	價額
白米	一石	一二、四〇〇 <small>厘</small>	和布	百斤	五、二〇〇 <small>厘</small>
稗	同	八、一〇〇	昆布	同	七、五〇〇
黍	同	五、五〇〇	笠	一	一、〇〇〇
粟	同	一一、五〇〇	網巾	同	六〇〇
明太魚	一駄	一八、〇〇〇	宕巾	同	八〇〇
麻布	一疋	二、〇〇〇	革靴	一	一、二〇〇
木綿	同	一、三五〇	黃銅鑄器	大小平均	一、七〇〇
土器	大小平均	一〇〇	鐵鑄器	同	一〇〇
生牛	一頭	四五〇〇〇	草靴	同	四〇〇
		三〇〇〇〇			
		四〇〇〇〇			

麻靴	朝鮮葉煙草	笠冠帽	儒冠	篩	穢 (簞笥)
一 足	連一 (二百五十 百八十 百三十 匆)	同 (笠蓋)	同	一 個	同 一 個
二〇〇	一七〇〇	三六〇	六〇〇	一、七〇〇	二、五〇〇
	朝鮮刻煙草				木靴
	一卷 (四十五 三十五 二十五 匆)				同
					三五〇

(五) 出市顧客ノ状態

顧客ノ内容ハ之レヲ三種ニ大別スルコトヲ得ヘシ

(第一)賣却ノミヲ目的トスル者(第二)物々交換的ナル者(第三)購買ヲ目的トスル者ニシテ(第一)ハ重ニ大豆、米、食鹽ノ類ヲ賣却シ現金ヲ得テ飯ヘル者(第二)ハ顧客中ノ大部分ヲ占ム即チ自家ノ所産品ヲ賣却シテ必需品ヲ買ヒ去ル者ニシテ人數ハ無論取引金高ニ於テモ最多數ナル者トス(第三)ハ主要品(季節ニ於ケル大豆、「輸出サルヘキ」朝鮮鹽「輸入鹽ヨリ格安ナルトキ」新白米「内地人中流以下ノ食料品」ヲ購買スヘク集マル者ニシテ多クハ内地人使役ノ朝鮮人又ハ少數ナル内地人トス

(六) 出市賣品ノ數量及價額(開市日ノ平均)

出市賣品ノ全數量ヲ知ラントスルハ殆ント絶望ノ事ニ属ス唯主要品ニシテ各季節ニ於ケルモノ左ノ如シ

白米 一開市 約五十石

大豆 同 約百二十石

但一開市日出荷全數ノ十分ノ二ニシテ其八ハ直チニ居留地ニ入ル

生牛 (年額ヲ平均セシモノ) 約三四十頭

以上ノ外ハ前節(二)號ノ數量價格ニ依テ推定スルノ外ナシ要スルニ元山財務監督局ノ調査ニ係ル市場税ノ徵收額ヨリ推ス時
ハ一開市ノ取引高ハ三四千圓ノ間ニ在ルカ如キモ實際ノ取引ハ確カニ五六千圓ノ間ニ在ルヘシ

(七) 市場取引ノ關係區域

元山府、安邊、文川、高原、永興ノ四郡ヲ主トシテ平安、黃海兩道ノ東界一部及江原道ノ一小部分ナリ

(八) 市場ニ於ケル沿革及慣習

遠キ市場ノ起原及開港以前ノ沿革ニ就テハ其詳細ヲ知ルコト能ハスト雖開港以後ハ市場ヲ移轉セシコトナク又新設セシコトナシ唯元山府本邑ニアリシモノヲ四五年前廢止セシコトアルノミ而シテ人智ノ開發常設店舗ノ増加交通ノ發展等ニ伴ヒ
年一年衰退シ今日ノ現状ハ之ヲ三十年前ノ昔ニ比スレハ其人數ニ於テ其取引額ニ於テ蓋シ頗ル減退セルカ如シ

初メ開港當時ニ在テハ輸出品ノ重ナル物即チ大豆、牛皮、藥種等ノ如キモ皆内地人ヨリ開市場ニ買集セサル可カラサリシ
ニ今ハ皆彼ヨリ居留地ニ搬入シ又近郡ノ顧客ハ開市ニ非サレハ其需要品ヲ購ヒ得サリシモ今ハ常設店ニ依テ隨時之レヲ辨
スルヲ得ル等要スルニ社會ノ進歩ニ連レ開市ノ必要漸ク薄ラキ行キツツアルヲ見ル

開市場ノ慣習トテ特記スヘキモノナシ唯其取引ハ大部分現金取引ナリ開市當日ニ搬入セシ荷物ノ賣餘品ヲ次ノ開市日迄ニ
委託販賣ニ附シ去ル者或ハ卸商ヨリ小商人ニ或ハ親密ナル相互間ニ次ノ開市日迄ノ掛取引ヲ爲スコトアレトモ畢竟小部分

第五節 客主、居間

客主即チ問屋業ハ何人カ何時開始セントスルモ隨意ニシテ些ノ拘束ナシ昔時都買ト稱シ或ル主要产品ニ限り獨占的營業ヲ許セシコトアリシモ今ハ其痕跡ヲモ留メス隨テ他ニ類似ノ者ナシ客主ハ開港以前ニ在リテハ既述ノ如ク魚、海草、布木綿等ノ集散ナリシカ故ニ其數十餘戸ニ過キサリシ開港以後ハ漸次百貨輻輳シ來リ最モ旺盛ヲ極メタリシ時代ニハ優ニ百餘戸ヲ算スルニ至レリ爾來他港ノ開放、釜山咸北ノ直取引内地人及清國商人ノ出店若クハ行商等ニ依リ元山ヘノ旅商自然稀薄トナリ取引漸ク減少シテ今ヤ三十戸ヲ出テサルニ至レリ

居間即チ仲買人ハ無論商業ノ盛衰ニ依テ人員ニ増減アリ常ニ一定ノ數ナシト雖目下主ナル者ヲ「都中」ト云ヘル一團トス其總員十七名アリ更ニ之レヲ舊都中十名新都中七名ノ二種ニ分ツ舊都中ハ其名ノ如ク繼續久シクシテ其勢力新都中ニ優リ新都中ハ兩三年前ニ起リタルモノナリ然レトモ兎ニ角今ハ純然タル一團トナリ日鮮人間及朝鮮人相互間ニ於テ明太魚、和布、昆布、鹽魚等ノ取引ヲ媒介ス又前ニ統一ナキ居間二十名許アリ主ニ他地方ヨリ來リタル朝鮮產雜貨取引ノ媒介ヲナスモノトス

(一) 利用ノ現況

居間ノ事務ハ前號所述ノ如シ而シテ其取引上彼等ノ媒介ヲ必要トスルハ内地ノ取引ニ於テ仲立人ヲ必要トスル場合ト毫モ擇フ處ナシ唯法律上ノ拘束ナキノミ彼等ニハ相當ノ信用モアリ其行爲モ比較的確實ニシテ且敏捷ナリ

(二) 將來ノ傾向

商界組織ノ整頓ニ伴ヒ早晚法律ノ拘束ヲモ必要トスルニ至ルヘシト雖モ要スルニ將來共必要ナル機關タルヤ論ナシ

第六節 商慣習

(一) 商品ノ注文出荷

朝鮮人側ニ於テ商品ノ注文ヲ爲ス場合ハ無論朝鮮産ニ限ルコトニシテ外國品ノ注文ノ如キハ絶無稀有ノコトニ屬ス而シテ朝鮮産ノ注文中粟、小麥ノ類ハ木浦、群山、鎮南浦若クハ平壤ヨリ木綿ハ釜山又ハ仁川ヨリ家具(主トシテ食膳)紙類ハ釜山ヨリ海草、麻布等ハ咸北諸港ヨリ移入ス

近來稍信用アル者ハ農工銀行ノ手ニ依リテ割引附荷爲替ヲ以テ貨物ヲ引取ルノ風ヲ生シタレトモ尙頗ル少數ニシテ全部ノ十分ノ三ニモ足ラサルヘシ多クハ我ヨリ商品ヲ送り交換的ニ彼ノ商品ヲ引取ルヲ例トシ其他咸北方面ヘハ商品注文ト同時ニ現金ヲ包裝シ金額ヲ記入シ荷物トシテ運賃ヲ支拂ヒ汽船便ニテ送附ス一見甚タ迂愚ナル行爲ニ似タリト雖開港地以外數多ノ未開港地ニ於テ金融ノ機關之レナキカ爲爾カセサルヘカラサルハ又已ムヲ得サルコトニ出ツ而シテ此金額ハ一ケ年ノ合計少ナクモ六萬圓以上ナルヘシ此ノ如キ事情ナルカ故ニ彼ヨリ注文ヲ受クル場合即チ移出ノ場合ニ於テモ亦同シ其出荷ハ陸送ノ者ハ殆トナク海送ハ多ク自身(稀ニハ税關ブローカーニ就テ)通關ノ手續ヲモ爲シ内地人回漕業者ニ託ス朝鮮船ニ依テ輸送セラル、モノモアレトモ是等ハ近距離間ノ少數ナル荷物ニ過キス

内地人カ商品ヲ母國又ハ清國其他ニ注文スル場合ハ皆普通荷爲替附ヲ以テ又委託販賣ノ時モ同シク荷爲替附ニシテ送品シ來リ無爲替ノモノハ殆ト稀ナリ又注文ヲ受ケテ出荷スル場合モ稀ニ之レアリト雖大部分居留商人自身ノ移輸出ニシテ亦荷爲替附タルヤ無論ナリ出荷ニ就テハ別ニ特記スヘキモノナシ

(二) 現金取引

朝鮮人相互間ノ取引ハ大部分現金ナリ内地人及朝鮮人間、朝鮮人清國人間モ年一年現金取引ニ移リ行ケリ内地人及清國人間ノ取引ハ敢テ謂フニ足ルモノナシト雖亦皆現金取引ナリ

是レ畢竟最初ヨリ朝鮮人トノ取引ハ現金ニテハ不可能事ナルカ如ク思惟シ且妄リニ取引ノ擴大ヲ貪リ内地人及清國人共多

年競争的掛賣ヲ爲シ朝鮮人ヲシテ其濫惠ニ狎レシメ延テ取引決濟ヲ慎マサルノ弊ヲ養ヒシト一ハ地方朝鮮人ノ元山朝鮮人ヨリ掛買ヲ爲セシ者カ交通發展ノ爲漸ク元山ニ往來スルコト減シタルニ伴ヒ容易ニ返濟ヲ爲ササリシトニ依リ其餘波ハ當然常ニ債權者ノ地位ニ立テル内地人及清國人ノ損害トナリ一時ハ殆ト收拾スヘカラサルニ至リ二三清國人ノ大商店ハ閉鎖ノ悲運ニ陥リタル程ナリシニ懲リテ漸次掛取引ヲ慎ムニ至リタル結果ナリトス内地人相互間ノ取引ハ大小悉皆掛取引ニシテ毎月末日ヲ以テ決濟ス只仲立人ノ媒介ニ依リテ成レル特殊ノ商品ニ限り現金取引ヲ爲スコト往々之レアリトス

因ニ記ス内地人居住地内ニ於テ内地商人相互間ノ取引ニ非サル一般ノ内地人間日用品販賣ハ亦皆掛賣ニシテ概ネ翌月五日拂トス而カモ漸ク七日拂十日拂十五日拂甚シキハ二十日拂抔ト云フモノアルニ至レリ曾テ商業會議所ハ其月ノ末日拂ヲ厲行セシメント企テ申合規約ヲ設ケシメタルコトアリシモ終ニ行ハレサリシ

(三) 信用取引

信用取引ハ朝鮮人相互間日鮮人間朝鮮人清國人間共ニ殆ト見ルニ足ルモノナシ朝鮮人相互間ノ取引ハ大概一與受(五日間)若クハ二、三與受ノ後ニ於テ決濟スルヲ通例トス其他ハ第四節(八)號ノ末段ニ略述セシ委託販賣又ハ卸小賣商間ノ關係ニ過キス是等モ亦手形ノ受授ナシ

日鮮人間ノ信用取引ハ(常ニ内地人側ヨリ朝鮮人ニ貸方ノミ)其稍進ミタル者ハ一期三十日間ノ約束手形ヲ以テス(元來商品ノ掛賣ハ概ネ十五日間ヲ通例ノ期限トスルカ故ニ其餘ノ十五日間ニ對シテ延滞日歩ヲ附スルヲ例トス)其他ハ短期ノモノヲ一、二若クハ三與受トシテ小額ノ取引ニ對シテハ別ニ手形ヲ徵セス少シク多額ナルモノニハ現金預リ證又ハ借用金證書ヲ徵スルコトアリ

内地人相互間ハ主トシテ約束手形ナリ但主要移出入品取引ノ場合ニシテ其他ハ皆月末決濟取引ナリ

(四) 支拂延滞ニ對スル處置

朝鮮人相互間ニハ却テ嚴重ニ延滞日歩ヲ徵スルノ慣例ナリ

日鮮人間ハ因襲ノ久シキ今ニ至リテ猶延滞日歩ヲ徵セス此點ニ於テハ依然トシテ内地人ハ不利ノ位置ニアルナリ

(五) 商人間ノ往來交際

朝鮮人相互間ニ於テハ特ニ商業ノ爲ニトテ往來交際セルカ如キ風習ヲ見ス唯元山ノ客主カ昔時年末年始ニ地方ノ重立チタル顧客へ曆書ヲ配付シ來リタル例ハアレトモ是將タ盛ンニ行ハルルニ非ス年末ノ贈答ハ可ナリニ行ハル、カ如キモ之レ亦閭里ノ間ニ於テナスコトニシテ遠ク他郡ニ亘リテノ贈答ニ非ス且純然タル商業上ノ關係ヨリ來リタルモノニ非スレテ我内地ニ於ケル贈答ト殆ト其性質ヲ同フセリ近來朝鮮人間ニ干縴商團組織セラレ時々集會ヲ催シ利弊ヲ討論シ又ハ置酒シテ温情的會合ヲ爲スコトアリ

内地人及朝鮮人間ニ於テハ昔時ハ桃李爛熳ノ且丹楓翻錦ノ夕郊外ノ風光人ニ可ナルノ時朝鮮人ノ客主連ハ山野ニ宴ヲ張リ内地商人又ハ清國商人ヲ招待シ饗應甚タ勉メ内地人側ニ在リテハ毎年五月二十三日ノ元山デー(即開港記念祭)及天長節等ニハ亦必ス彼ヲ請シテ歡待シ互ニ良慣習ヲ作り居タリシモ今ハ彼是此ノ如キ交際ヲ廢シ只歲暮ノ贈答行ハルノミ是トテ昔時ノ如ク盛ナラス歲月ノ移ルト共ニ却テ吳越ノ觀ヲ呈シ來タレリ今ヤ内地人及朝鮮人ノ温情的交際ハ實ニ必要中ノ必要急務中ノ急務ナル秋ニ方リテ疇昔ノ良慣習ニ如カサルニ至レルハ誠ニ遺憾ノコトト云フヘシ唯或取引ノ成立若クハ完濟セシ時内地人及朝鮮人ノ簡人間ニ於テ行ハル、小宴ノ如キ間々之レアルヲ見ルノミ清人及朝鮮人間内地人及清國人間ハ絶無ナリ

第七節 商 塵

(一) 塵 舗 ノ 設 備

市場ノ未タ殷盛ヲ極メシ時代ニ在リテハ朝鮮人ノ塵舗ハ實ニ見ルヘキモノナカリシト雖近時交通ノ頻繁ナルニ隨ヒ塵舗ノ常設漸ク増加シ市街本通りノ如キハ夜間尙開塵セルモノ往々ニシテ之レアリ其設備ハ皆居宅ノ前頭ニ店舗ヲ開展シ商品ヲ

陳列シテ一見顧客ノ認識ニ便ナラシムルノミナラス多少陳列ニ意匠ヲ加ヘタルカ如キ痕跡アリ要スルニ稍体ヲ爲セルニ至レリ無論是等ノ店舗ト雖開市日ニ在リテハ其陳列商品ヲ露店ニ移シテ又市場商人トナルコトアリ

内地人店舗ノ設備ハ敢テ記述スルノ必要ナカルヘシ依テ之ヲ畧ス

(二) 招牌、商標、廣告

朝鮮人ノ市街ニ於ケル招牌モ特筆スヘキモノナシ唯

銀 房 (銀細工) 圖書房 (印刷業)

笠 房 (笠商) 藥 局 (藥種及賣藥商)

慈 航 (醫師) 步行客主 (木賃宿ノ類ニシテ主トシテ飛脚ナトノ宿泊スル所)

等ノ數者ニシテ軒頭ニ麻布ノ暖簾ヲ垂レ又ハ竿頭ニ吹貫キ若クハ麻布ヲ懸ケテ其酒幕タルヲ示スノ類ハ他ノ地方ト異ナル所ナク近來別ニ理髮店新聞賣捌所等ノ招牌ヲ間々見ルノミ商標ハ皆無ナリ適マ朝鮮木綿麻布等ニ其品位ヲ識リ易カラシムル爲メ一種符號様ノモノヲ附シタルヲ見ルコトアルモ無論商標ト云フヘキ性質ニ非ス廣告ハ絶無ナリ時ニ或ハ手形ノ紛失等ヲ新聞紙上ニ見ルコトアルモ極メテ稀有ノコト、ス

(三) 商品ノ藏置場及藏置方法

有數ナル客主ハ各自其住宅内ニ庫間ト稱シテ納屋ノ如キモノヲ構ヘ之レヲ物品ノ藏置場ニ充テアリト雖元來今日ノ朝鮮人商估ハ猶未タ特ニ商品ノ藏置場ヲ必要トスル程一時ニ物貨ノ輻輳スルコトナシ故ニ隨テ藏置ノ方法倉敷料等ノ規定セラレタルモノナシ若シ適マ朝鮮木綿、麻布、海草等ノ如キ物輻輳スルコトアラン乎之レヲ銀行若クハ他ノ内地人ノ倉庫ニ藏置シテ倉敷料ヲ支拂フノミ

(四) 主人ト店員トノ關係及店員ノ待遇養成

朝鮮人ノ店員ハ使員ト稱ス適マ土地ノ者モアレトモ其多クハ他地方人ノ寄託ニ依リテ其幼童ヲ預リ之レヲ養成ス而シテ其父兄ハ一旦之レヲ託セシ上ハ殆ント店主ノ所爲ニ一任シテ疑ハサルノ良習ナルカ故ニ店主店員ノ間ハ猶親子叔姪兄弟ノ關係ノ如ク輯睦ナリ然レトモ固ヨリ之レヲ學校ニ通學セシムルカ如キコトナシ唯其本人ノ心掛ケニ依リ業務ノ餘暇ヲ以テ僅カニ商業上ニ必要ナル即チ極メテ卑近ナル筆算ヲ學習スルニ放任ス故ニ店員タル者ノ大部分ハ無學ニシテ自カラ其姓名ヲ満足ニ書シ得ル者モ甚タ尠シ又報酬ノ如キモ食ヲ給シ春秋ニ衣ヲ與フルノ外月給制度ノ如キモノナク概ネ年末ニ於テ其分際ト技倆トヲ按シ利益配當的給與ヲ爲スニ過キス如斯ニシテ拮据黽勉シ後年獨立シ能フヘキ期ニ到レハ或ハ資ヲ給シテ行商タラシメ又ハ一家ヲ分チテ坐賈ヲ開業セシムルヲ例トス

因ニ内地人側店主ト店員トノ關係ニ就テ二三ノ實例ヲ示サン

一 兩者ノ關係ハ原則上物質的關係ニ非スシテ精神的關係ヲ主トス他ノ會社銀行ノ社員官公衙ノ雇員等ニ比シテ給料ノ如キ甚薄シ是レ一ハ店員ハ給料目的ニ非スシテ商業見習ヲ主眼トスルト一ハ店主ニ於テモ其商業收益上優給ヲ爲スヲ許サ、ルニモ依ルヘシ

二 大阪以西就中山口縣、長崎縣等ノ如キ朝鮮ニ近キ地方人ハ店主店員多ク同郷者ナルカ故ニ隨テ其關係モ稍深厚ニシテ比較的長勤續者アリ遠隔ノ地ノ者ハ概ネ之レニ反セルカ如シ

三 店員ノ養成ハ先輩者ノ多年苦心セシ所ニシテ遠ク明治十九年ノ頃既ニ夜學校ヲ開設シ英語、漢學、簿記、數學、朝鮮語等ノ諸科ヲ置キ各篤志家カ義務ヲ以テ教授ノ任ニ當リタレトモ店員店主俱ニ意ヲ傾クルコト渥カラス興亡幾回其後明治四十年ニ至リ元山教育會ナルモノヲ創設シ新タニ疊舎ヲ建築シ今年更ニ本願寺別院地内ニ移築シ同院主任之レヲ監督シ以テ熱心ニ授業ヲ繼續シ來レリト雖目下店員ニシテ本校ノ生徒タル者猶約三十名ニ過キス

(一) 沿革

朝鮮人相互間ニ於テハ古來布帛類ニ於ケル度、米穀類ニ於ケル量ノ如キ布穀商賣ノ都度必ラス是レヲ使用セシヤ無論ナリト雖獨リ衡ニ至リテハ彼等カ先天的疏懶ナル性質ニ適ハサルノ故カ慣習上之レヲ使用スルノ機會甚タ稀ニシテ内地ニ在リテハ必ス衡ニ依テ取引セラルヘキ性質ヲ有スル物品例ヘハ煙草、和布、昆布、乾魚、鹽魚、乾貝、乾果ノ如キモ皆一駄若クハ一連、一束、一個等ヲ單位トシテ取引セラルルカ故ニ多クノ場合衡ノ使用ヲ必要トセス強テ之レヲ索メハ僅カニ貴金屬及貴重藥品賣買ノ際ニ於テ使用セラルルニ過キス故ニ開市日其他可ナリ般賑ナル商業地ヲ過クルノ時度量ノ二器ハ常ニ多ク其存在スルヲ見ルモ衡器ニ至リテハ頗ル稀ナリ適マ之レヲ見ルモ其多クハ取緒切レ釣落チ葉錢又ハ他ノ金屬屑片ヲ隨意ニ増減添附シテ權衡ヲ按排セル謂ハハ廢物ニ等シキモノニシテ朝鮮人間ニ非ルヨリハ到底使用スヘカラス隨テ殆ト衡器ノ名稱ヲ附スルニ値セサルモノトス

舊來使用ノ度量二器中度量器ハ各地方ニ依リ甚シキ差違ナキカ如シト雖量器ニ至リテハ其制ノ亂雜ナルコト殆ト名狀スヘカラサルモノアリ甲郡ノ一斗ハ乙郡ノ一斗ト同一ナラサルノミナラス甚シキハ折半額ニ内外スルモノサヘアリ故ニ量器ニ依ツテ數ヲ考フルハ熟鍊ノ人ニ非サルヨリハ容易ニ其標準ヲ得ルニ苦シム是レ畢竟年久シク網紀弛廢シ何等政府ノ制裁スル處ナク地方人民ノ隨意ニ量器ヲ造クルニ放任シタル結果支離滅裂終ニ寧ロ量器ト言ハンヨリハ物品賣買ノ時ニ當リ隨意ニ物ヲ量ルノ標準具ナリト稱スルノ當然ナルヲ思ハシムルニ至レリ

(二) 慣用度量衡ノ命、位、名稱及器具

度ノ命位ハ尺ヲ基本トシ其十分ノ一ヲ寸トシ百分ノ一ヲ分トシ千分ノ一ヲ釐トシ萬分ノ一ヲ毫トシ尺ノ十倍ヲ十尺トシ百倍ヲ百尺トス而シテ其名稱種類ハ左ノ如シ

- 一 木手尺 大工ノ専用スル木製丁字形尺ニシテ新度量器ノ約一尺〇二分ニ當ル

- 二 布尺 麻布賣買ニ専用スルモノニシテ新度器ニ換算セハ約二尺ニ當ル
 - 三 針尺 裁縫ニ専用スルモノニシテ新度器ノ約一尺七寸五分ニ當ル
 - 四 木尺 木綿類賣買ニ専用ス新度器ノ約一尺七寸二分ニ當ル
 - 五 通尺 繩索類ニ専用ス新度器ノ約一尺六寸五分ニ當ル
 - 六 錦尺 綢緞類賣買ニ専用ス新度器ノ約一尺六寸二分ニ當ル
 - 七 只長尺 古時笠纓ヲ製造スル時其材料ナル甲紗官綢等ヲ計ルニ用ヒシト云フ新度器ノ約一尺三寸ニ當ル
- 量ニ左ノ數種アリ

- 一 租斗 地主小作人間ニ用ユルモノニシテ新斗器ノ一斗七升ニ當ル
- 二 荏子斗 荏子賣買ノミニ用ユルモノニシテ新斗器ノ三斗二升ニ當ル
- 三 市斗 開市場ニノミ用ユルモノニシテ新斗器ノ一斗四升ニ當ル

量ノ命位ハ石、斗、升、合トスト雖石トハ斗ノ十倍ノ謂ニ非スシテ普通ハ穀物ニ俵ノ謂ナリ然レトモ其俵ノ容量モ各地皆量器ノ異ナルカ故ニ隨テ右ナル數モ一定セサルヤ謂フヲ俟タス只合、升、斗ノ三倍ハ十進法ナレトモ是レ將タ實際ニ於テハ適法ノ量器アルコトナク全ク有名無實ナリ今試ニ元山附近數郡ノ例ヲ示サン

- 一 安邊郡 一石―ハ十六斗ニシテ其一斗新量器ノ約六升八合五勺ニ當ル
- 二 元山府 一石―ハ十六斗ニシテ其一斗ハ新量器ノ約六升七合九勺強ニ當ル
- 三 永興郡 一石―ハ十六斗ニシテ其一斗ハ同上約七升ニ當ル
- 四 高原郡 一石―ハ十六斗ニシテ其一斗ハ同上約六升八合七勺強ニ當ル
- 五 定平郡 一石―ハ十六斗ニシテ其一斗ハ同上約六升五合六勺強ニ當ル

右ハ固ヨリ精確ヲ保シ難シト雖從來ノ實業家カ取引セル所ニ徴シテ大ナル過誤ナキ處タルヲ信ス

衡ノ命位ハ兩ヲ基本トシ其十分ノ一ヲ錢トシ其百分ノ一ヲ分トシ千分ノ一ヲ釐トシ兩ノ十倍ヲ十兩百倍ヲ百兩トシ又十六兩ヲ斤トシ百斤ヲ一稱ト唱フ然レトモ百斤以上ノ重量ナルモノヲ衡ルニ當リテハ之レニ適セル衡器ナキニ依リ往々長方形ナル石又ハ木片ノ上ニ厚ク長キ板ヲ横架シ其一方ニ錘ノ代用物トシテ豫メ秤量ノ確定シタル物体(多クハ括リタル葉錢)ヲ置キ他ノ一方ニ其衡ルヘキ商品ヲ乗セテ斤量ヲ知ルノ方法ヲ取ルナリ舊衡器名稱種類ハ左ノ如シ

- 一 大稱 内地ノ捍秤ト同形ニシテ百斤量ノモノ多キカ如シ
 - 二 木花稱 捍秤ニシテ綿衡ノ謂ナリ二十斤及十斤ノモノ多シ
 - 三 金稱、銀稱、藥稱 共ニ皿秤ニシテ内地ノ小秤ト同形ナリ
- 都テ度器ハ主トシテ木製ニシテ間々竹製ノモノアリ
量衡ノ二器ハ皆木製ナリトス

(三) 新度量衡ニ關スル一般ノ感想及使用ノ實況

前號ニ縷述セシ處ノ如ク朝鮮人ハ元來度量衡使用ニハ頗ル無頓着ナレトモ唯三器ノ中比較的使用ノ機會多キ量器ハ元山部落(上下開市及常設店舖共)ニ於テハ兎ニ角概ネ新器ヲ使用スルニ至レリ而シテ其種類ハ五升器ヲ最モ多シトス是レ舊器ノ一斗(約六升七合餘ノモノ)ト稍近似セルカ爲幾分カ使用ニ使ナル爲ナルヘク之レニアク者ヲ一升器トス其他ノ小器モ間々見ルコトアレトモ大器ト共ニ未タ普ネク行ハルルニ至ラス

度器 元山部落ノ商人ハ概ネ新器ヲ所持スルカ如シ

衡器 元至リテハ謂フニ足ルモノナシ畢竟因襲ノ久シク容易ニ改善ノ連ニ向ヒ難シト雖就中度器ニ在リテハ元山部落以外ノ者及部落内外ノ婦女子等主ナル顧客ハ遞減セラルヘキコトニハ留意セス只彼ノ朝三暮四的慾念ニ驅ラレテ新器ヲ欲セ

サルカ如ク又清國人カ皆依然舊器ヲ使用セルカ爲メ顧客ハ却テ是レニ離レテ彼レニ即クノ傾向アリ己ムヲ得ス朝鮮商人モ間々潜カニ舊器ヲ使用シテ顧客ノ嗜好ニ投セントスルノ弊ヲ生シ時ニ警官ノ叱責ヲ受クルコトアルハ此過度時代ニ於テ是非ナキ事ナルヘシ量器ニ至リテハ度器ニ比シテ其成績遙カニ良好ニシテ最初コソ多少不便ヲ感セシカ如キ觀アリタレ爾來日一日新器ノ使用ニ移リ特ニ斗量軍(開市場ニ於テ榷取ヲ專業トスル一種ノ團體)カ舊器驅逐ニ努ムルコト亦與ツテ力アリトス無論目下新器使用實施區域外ナル安邊、文川、高原、永興等ノ附近諸郡ニ於テハ巡查駐在所又ハ面長、村長等ヨリ各人ニ注意シ可成豫メ新器使用ニ慣習セシムヘク盡力中ニシテ中ニハ舊器見當リ次第直チニ之レヲ破棄セシメツ、アル處モアリト云フ要スルニ元山ハ本道中ニ於テ新器使用實施區域中ノ最良成績地ト云フヲ得ヘク隨テ目的ノ彼岸ニ達スルモ近キ將來ナルヘキヲ信ス

因ニ記ス朝鮮人カ新器價格ノ不廉ナルヲ喋々スル者多シトハ委託販賣者ノ云フ處ノモノ亦研究スヘキ一事項ナルヘシ

第九節 金融

(一) 金融ノ沿革

開港當時ノ居住内地人ハ其數約二百名ニ過キス而シテ其多クハ勞働者ニシテ商人ハ僅カニ七八名ニ過キス當時東京第一國立銀行ハ御用金取扱トシテ出張所ヲ開設セリ其翌年ヨリ一般商人ノ爲荷爲替ノ取扱ヲ開始シ尋テ貸出し及預金ヲ取扱フニ至レリ其後明治二十年對馬百二國立銀行モ元山ニ其支店ヲ開キ專ラ商業資本ノ投下ニ努メタリシカ二十七年六月ニ至リ其營業ヲ長崎十八銀行ニ引繼キタリ其前第一銀行出張所ハ互ニ閉鎖セラレ爾來十二年間十八銀行一店ノミトナリ一般商人頗ル不便ヲ感セシモ明治三十八年四月第一銀行ハ再ヒ開店シ韓國支金庫ヲ兼ネ商業取引ヲ開始シ十八銀行ト兩立シテ金融ノ機關頓ニ發展セリ後又四十年四月咸興農工銀行元山支店モ開カレ尋テ四十一年八月更ニ鏡城農工銀行ト合併シテ咸鏡農工銀行トナリ終ニ其本店ヲ朝鮮人部落元山上里ニ設置セラレ商業銀行ヲモ兼營スルニ至リ金融機關益具備ス是レ開港以來今

日迄ニ於ケル沿革ノ梗概ナリ

(二) 金融機關

(イ) 銀行

一 韓國銀行元山支店

(居留地内)

二十八銀行元山支店

(同上)

三 咸鏡農工銀行本店

(元山上里)

(ロ) 地方金融組合

一 元山地方金融組合

(元山財務監督局内)

(ハ) 金貨業

一 合資會社七星會

(ニ) 典當舖

内地人經營十一店ニシテ朝鮮人經營ノモノ二店アルノミ

(三) 金利

其一 銀行ノ部

種別	高		低		韓國銀行	十八銀行	農工銀行
	最	最	最	最			
貸出日歩	最	最	最	最	三	三	六
割引日歩	最	最	最	最	二	二	三
	低	高	低	高	錢	錢	錢
	二	三	二	三	八	八	二
	厘	厘	厘	厘	厘	厘	厘
	三	三	二	三	錢	錢	錢
	錢	錢	厘	厘	厘	厘	厘
	三	五	三	六	錢	錢	錢
	錢	錢	厘	厘	厘	厘	厘

荷為替日步	最	高	四錢五厘	四錢五厘
	最	低	三錢八厘	三錢七厘
				四錢五
				錢

其二 金融組合其他ノ部

種別	高	低	金融組合	金貸業	典當	舖
日步及月步	最	高	日步	日步	月步	月步
	最	低	四錢	十錢	一	一
	最	低	三錢五厘	同	同	同
				八錢	六	步
						割

(四) 預金及貯金ノ部

其一 預金ノ部

科目	種別	韓國銀行	十八銀行	農工銀行	合計
公金預金	前年度殘高	一七、二〇〇	一八一、八七四		三七九、〇八四
	本年度受入高	一五、二三〇	七七、五五六、六九五		七七、五七一、八二五
	本年度拂戻高	二二、三四〇	七、三八二、〇三九		七、五九四、三七九
	現在預金	—	三五六、五三〇		三五六、五三〇
	前年度殘高	八、四六〇、一六〇	二、五〇八、一八〇		二〇、九六八、三四〇
	本年度受入高	三三、九三二、〇四〇	一七、三四、三九〇	一〇、九八〇、七三〇	六三、二五七、一六〇
	本年度拂戻高	二〇、五九六、二五〇	二、五〇八、一八〇	四、〇七五、〇〇〇	三七、一七九、四三〇
	現在預金	二二、七八五、九五〇	一七、三五四、三九〇	六、九八五、七三〇	四六、〇四六、〇七〇
定期預金					

常座預金		特別當座預金		預金手形		別段預金	
前年度殘高	四六、四八五、九七〇	前年度殘高	一、八九二、四二〇	前年度殘高	七、六二八、一六〇	前年度殘高	六〇、三六一、六一〇
本年度受入高	三、八九四、九〇一、四八〇	本年度受入高	五二、八五五、九八〇	本年度受入高	四〇、一六一、四二〇	本年度受入高	五八、八三七、六七〇
本年度拂戻高	三、八二二、〇八三、二六〇	本年度拂戻高	二〇九、二〇九、九六〇	本年度拂戻高	三一、九二六、三九〇	本年度拂戻高	九、一四二、一〇〇
現在預金	一二九、三四四、一九〇	現在預金	五二、九四一、三七〇	現在預金	一〇、二二七、四四〇	現在預金	一一一、三四六、〇五〇
前年度殘高	四六、六九二、一四〇	前年度殘高	九、二八八、〇二〇	前年度殘高	八九〇、七七三	前年度殘高	一一一、三四六、〇五〇
本年度受入高	二二四、四三三、八〇〇	本年度受入高	五二、九八九、三六〇	本年度受入高	四一、八四九、一三〇	本年度受入高	四、二四三、七五、四八〇
本年度拂戻高	二〇九、二〇九、九六〇	本年度拂戻高	九、二八八、〇二〇	本年度拂戻高	四〇、四九四、三六八	本年度拂戻高	三、四三三、八九六、五二七
現在預金	五二、九四一、三七〇	現在預金	四、九五六、一六〇	現在預金	二、二四五、五三五	現在預金	四、二四三、七五、四八〇
前年度殘高	五二、九四一、三七〇	前年度殘高	—	前年度殘高	—	前年度殘高	—
本年度受入高	五二、九四一、三七〇	本年度受入高	—	本年度受入高	—	本年度受入高	—
本年度拂戻高	五二、九四一、三七〇	本年度拂戻高	—	本年度拂戻高	—	本年度拂戻高	—
現在預金	五二、九四一、三七〇	現在預金	—	現在預金	—	現在預金	—
前年度殘高	—	前年度殘高	—	前年度殘高	—	前年度殘高	—
本年度受入高	—	本年度受入高	—	本年度受入高	—	本年度受入高	—
本年度拂戻高	—	本年度拂戻高	—	本年度拂戻高	—	本年度拂戻高	—
現在預金	—	現在預金	—	現在預金	—	現在預金	—

合 計	本年度拂戻高	四、三三、八六五、八七〇	三、三六、五二〇、八六五	一、三三〇、三三九、四八五	八、六四九、七〇六、二〇〇
	現在預金	三三、二五五、六六〇	一四七、七九六、二八九	八七、九六二、一五六	四五八、〇一四、一〇二

其二 貯金ノ部

種 別	受 入		拂 渡	
	口 數	金 額	口 數	金 額
郵 便 貯 金	五二四	三三、〇八九、三一九	一、四七〇	二五、四四七、五六四
振 替 貯 金	一、五一八	八〇、六四三、一九五	四八	一、九四二、四〇〇
合 計	二、〇四二	一一三、七三二、五一四	一、五一八	二七、三八九、九六四

(五) 資金融通ノ狀況

其一 銀行ノ部

元來輸入超過地ナルカ故ニ銀行ハ常ニ現金ヲ内地へ逆送セサルヘカラス就中夏季ノ如キ輸出品頗ル稀少ニシテ殆ト片爲替ノミノ情態ニアリ而シテ銀行カ商人ニ對スル資金融通ノ内容ヲ窺フニ其貸出額(姑ク韓銀十八ノ兩行ニ據ル)一ヶ月約四十萬圓ニシテ其内

- 一 定期貸附 五萬圓
- 二 預金貸越 十七萬圓
- 三 割引手形 十三萬圓
- 四 荷爲替 五萬圓

ノ比例ナリ定期貸附ノ期限ハ六ヶ月以上一ヶ年以内ニシテ以前出荷主、受荷主ノ間ハ皆荷爲替取引ナリシカ近時漸ク荷爲替ハ減シテ割引手形取引ニ移レリ

農工銀行ハ二十萬圓ノ資金ヲ以テ一部商業銀行業ヲモ兼營スルモノナルモ朝鮮人側ニ對スル貸出ハ殆ト少數ニシテ取引ノ大部分ハ内地人ナリトス

其二 銀行以外ノ部

一ノ合名會社七星會アルノミ多クハ商品擔保及不動產擔保ニシテ又手形ニ依ル定期貸出アリ雜貨商カ一時的融通並ニ農業者小漁業者ノ資金融通ヲ爲セリ此外三四殆ト専門的ニ貸金ヲ業トスル者アルモ所謂高利貸ノ徒輩ニシテ謂フニ足ラス

因ニ元山地方金融組合ノ現狀ニ就テ當局者ニ就キ調査シタル所ヲ附記スヘシ

一 明治四十二年ノ貸出總額(年額)ハ

金一萬二千五百二十圓ナリ

二 回收金成績ノ良否

期限ニ返濟スル者僅カニ十中ノ三ナリシモ其後更ニ六ヶ月ヲ延期スルコトトセシニ殆ト無滯回收シ得ルト云フ

三 組合ノ効果如何

明治四十一年ノ設立ニシテ初メハ安邊、德源(元山府)永興ノ三郡ヲ區域トセシカ翌三年ニ至リ安邊、永興ノ二郡モ別ニ組合ヲ組織スルコトナリテ今ハ全ク元山府ヲ區域トセリ而シテ設立日尙淺キカ故ニ其効果ハ未タ詳知スヘカラサルモ爾來相當ノ成績ヲ擧ケツ、アリト云フ

四 組合員ノ數及増減並ニ其事由

目下既ニ三百名以上ニ達シ猶漸次入會者増加ノ傾向ナリ今春諸種子約二十石及果樹苗等ヲ無償分與セシモノ大ニ彼等ヲ刺戟シタルカ如シ

五 農具肥料ノ買入其他都テ本來ノ趣旨ヲ遂行シツ、アリヤ如何

未タ資金ノ餘裕ナキカ爲實行ノ運ニ至ラス

六 貸附金最低額五十圓ハ少額ニハ失セサル乎

然リ五十圓ハ稍少額ニ失スルノ感アリト雖モ五十圓以上ハ農工銀行ノ在ルアリ以テ其缺ヲ補フヲ得ヘシ

七 貸附期限一ヶ月ハ短縮ニハ失セサル乎

組合ニ於テモ既ニ此感アリ屢次評議ニ上リシト雖遺憾ナキラ未タ實行ニ至ラス要スルニ近キ將來ニ於テ改善ヲ要ス

八 組合費納附ノ成績如何

初メ會費ハ毎年何圓宛ヲ六月十二月ノ二回ニ納附スルノ規定ナリシモ成績頗ル不良ナルヨリ後入會金トシテ元山ニ於テハ當初ニ金二圓ヲ納入セシムルコトニ改メシヲ以テ無論不納者ヲ生セス

第十節 通貨及流通證券

(一) 貨幣ニ關スル沿革ノ大要

日鮮貿易開始當時ノ韓國貨幣ハ無論方孔錢常平通寶ノ一種ナリシノミ明治十六、七年ノ交混淆流通シ其錢質亦頗ル劣惡ナリシカ故ニ幾許ナラスシテ普通葉錢目格ヲ以テ受授セラル、ニ至レリ後又白銅貨ノ濫發セラル、アリ弊害百出經濟界ヲ毒セシコト甚シカリシト雖我元山商業會議所ハ夙ニ見ル處アリ其際貿易取引上白銅貨受授ノ禁ヲ斷行セシヲ以テ幸ニ此厄ヲ免ル、ヲ得タリ

元來貿易市場ノ媒介トシテ殆ト貨幣タルノ性質ヲ有セサル葉錢ヲ使用シタルカ如キハ開港當初ニ於テ内地人カ第一着ノ失策ナリシナリ然レトモ當時ノ日本勢力ヲ以テシテハ蓋シ或ハ奈何トモスヘカラサリシモノナラン乎故ニ我商人ハ立算ニ記簿ニ二重ノ手數ヲ要シ隨テ商駆引上亦頗ル不利益ヲ被リツ、アリシナリ何トナレハ此貿易市場唯一ノ貨幣タル葉錢ハ無論一定セル價ヲ有セス謂ハ、一種ノ商品ノミ需給ノ消長ニ依テ其價格即チ市價ハ一進一退シツ、アレハ假令高價ニ賣リ廉値

ニ買ヒタリト思惟スルモ是レ殆ト一時的豫想ニ過キス其受授セシ葉錢ノ仕末如何ニ依テハ高價必スシモ高價ナラス廉價亦必スシモ廉價ナラサレハナリ故ニ時ニ奇利ヲ得ル者アレハ又殊損ヲ招ク者アリ勢如斯ナレハ葉錢ハ終ニ一種ノ投機的弊竇ヲ誘致スルニ至レリ今ヤ幸ニ貨幣ノ革新ニ依テ此弊ヲ芟鋤シ去リ内地ノ商取引ト相擇フナキニ至レリ已往ヲ回顧セハ實ニ隔世ノ感無シハアラス

參考ノ爲開港以來明治三十九年迄ノ葉錢市價ヲ略記スヘシ

第一 自明治十三年(即開港當年)至同十八年六ケ年間ハ最低十三割ヨリ最高十五割ノ間ヲ上下セリ(十三割トハ葉錢一貫文「即チ一千枚」ニ付我通貨ノ一圓三十錢ニ交換シ十五割ハ一圓五十錢ニ交換スルノ意ナリ以下倣之)

第二 明治十九年以降二十五六年迄ハ最低十四割最高十七割ノ間ヲ上下シ

第三 同二十七年日清戰役ノ起ルヤ朝鮮ニ於テ我軍需品購入ノ結果頓ニ葉錢ノ大必要起リ一躍二十七八割ニ上レリ依テ軍事當局ハ二十三割以上ニ騰貴セシメサルコトヲ強制シタレトモ實際商人相互間ニ於テハ終ニ三十五六割ヲ以テ取引セラ
ル、ニ至リ古今未曾有ノ高格ヲ現ハセリ

第四 平和克復後ハ忽チ降下シテ二十割臺トナリ三十年ヨリ三十九年迄十ケ年間ノ毎年平均市價ハ左ノ如シ

年次	最高	最低	一年中平均
三十一年	二二、〇〇	二〇、〇〇	二〇、九八
三十二年	一九、〇〇	一七、五〇	一九、八九
三十三年	一九、〇〇	一六、〇〇	一六、九八
三十四年	一九、〇〇	一五、五〇	一七、一九

三十 十 四 年	一七、〇〇	一四、八五	一六、二七
三十 十 五 年	一四、九〇	一三、九〇	一四、三八
三十 十 六 年	一四、六五	一二、五〇	一三、八七
三十 十 七 年	二〇、四五	一四、一五	一六、四九
三十 十 八 年	二〇、三〇	一七、五五	一八、四五
三十 十 九 年	一九、七〇	一五、五〇	一七、二三

(二) 通貨流通ノ情况

韓國銀行元山支店ノ調査ニ由ルニ由來元山カ輸移入根據地トナリ北朝鮮各地ニ移出シタル關係ヨリシテ北朝鮮各地ニ於テ散布スル貨幣ハ忽チ當地ヘ循環回來スルヲ常トシ年々當地ハ少ナクモ五十萬圓多キハ七八十萬圓ノ回收超過トナリ又更ニ北朝鮮ニ回送シテ其缺ヲ補フヲ例トセリ然ルニ昨年以來城津及清津ニ於ケル直輸移入ノ開始ト各地農工銀行ノ開設ハ漸次貨幣ノ循環ヲ一地方ニ止ムルニ至リ即チ當地ニ回來スルモノ漸ク其額ヲ減スルニ至レリ試ニ左記各項ニ就キ當地ニ於ケル出入金額ニ徴スルニ其回收超過額ハ數年前ノ情况ニ比シ著シク減シタルヲ証スヘク又以テ貨幣流通上ノ好現象ト見ル可キナリ

一 銀行券

銀行券ノ流通ハ近來其受授益圓滑ニシテ漸次中央部ニ於ケル總發行額ヲ増加スルノ傾向アリ蓋シ一般貿易ノ發展ト貨幣整理ノ進捗ニ基因スルモノタルヤ論ヲ俟タスト雖一般人民ノ好感漸次僻陬ノ地方ニ普及シタルハ又一因タラスンハアラス北朝鮮ノ地從來銀行券ノ受授未タ圓滑ナラス彼ノ大豆、明太魚、資金ノ如キモ常ニ葉錢ニ限ラレタルカ如ク最モ不便ヲ感シタリシカ昨年以來是等ノ取引ニモ全然銀行券及新補助貨ヲ以テ受授セラル、ニ至リ其他別項

銀行券ニ對スル感想說ニ於ケル情態ヲ以テ逐次僻陬ノ地方へ侵入シツ、アリ故ニ是等ノ地方へ流通スル銀行券ノ額ハ著シク増加シタルモノト見ルヲ得ヘシト雖唯當地ニ於テハ昨年以來貿易ノ情態益沈靜ニ陥リ金融又緩漫ニシテ銀行券ノ流通從テ比較的多カラス且前說ノ如キ循環回來ニ依リ韓銀支店ニ於ケル出入ハ却テ左ノ回收超過ヲ示セリ

年 別	市 場 へ 出 金 額	市 場 ヨリ 受 入 額
四 十 二 年 中	四、一九九、〇〇〇 _円	四、二九〇、〇〇〇 _円
四 十 三 年 上 半 期	四、七四五、〇〇〇	一、八四四、〇〇〇

銀行券ノ感想ニ就テハ各種類共別段ノ好惡ヲ聞カスト雖永興黑鉛鑛勞銀仕拂其他特ニ小券ヲ必要トスルモノ、外ハ常ニ十圓券ヲ希望スル者多シ大市場附近ニ於テハ其取引ノ單位大ニシテ從テ大券ヲ希望スルハ當然ナレトモ地方朝鮮人ニシテ尙且十圓券ヲ希望スルハ即チ運搬ニ便ナルカ故ニシテ貨幣トシテノ流通ヨリモ寧ロ爲替手形代用トシテ嗜好セルモノノ如シ從來補助貨幣ト共ニ屢一圓券ノ散布ヲ試ミタルニ其地方取引ノ單位小ナルニモ拘ハラズ尙一圓券ニ對シ最好ノ感想ヲ得ルニ至ラサリシヲ以テモ之レヲ推測スルニ難カラス然リト雖今後漸次其發展ニ伴ヒ一圓券ノ需要ヲ喚起スルニ至ルヘキハ勿論既ニ北青ノ如キ貨幣整理ノ稍好調ナル地方ニ於テハ近來著シキ好感想ヲ生スルニ至レリ而シテ五圓券ハ前記ノ中間ニ在リ且朝鮮人ハ稍計算ニ不便ナルノ点ヲ以テ其希望亦隨テ甚々尠シ

二 新 補 助 貨

新補助貨モ亦貨幣整理ノ進捗ト共ニ漸次其流通ヲ増加シ殊ニ昨年來永興定平ノ黑鉛鑛、安邊ノ金鑛等ニ於ケル勞銀及大豆、明太魚、干鰯等ノ資金ニ使用セラレタルモノ尠カラス且各銀行並ニ地方金融組合等ニ於テ專ラ散布ニ努メタル結果トシテ漸次地方ニ普及シ最好成績ヲ告ケツ、アリ今最近韓國銀行元山支店カ市場ニ對シ出入シタル額ヲ示

セハ左ノ如シ

年 別	市場へ出金額	市場ヨリ入金額
四十一年中	二〇三、〇〇〇 <small>円</small>	一六三、〇〇〇 <small>円</small>
四十三年上半期	八〇、〇〇〇	九九、〇〇〇

一般ノ感想ニ就テハ十錢銀貨及二十錢銀貨ヲ最好トシ一錢銅貨之レニ次ク五十錢銀貨及半錢銅貨ハ感想悪シキニ非ルモ共ニ計算稍不便(葉錢ニ對シテ)ニテ一般ニ多ク希望セサルカ如シ而シテ五錢白銅貨ハ從來二錢五分トノ關係其他偽造ノ發見等ヨリ其感想善ナラス目下可成流通ヲ減少スルノ方針ヲ取り居レルニモ拘ハラス未タ其不足ヲ訴フルノ聲ヲ聞カス

三 兌換券

兌換券ハ各旅行者漁業者勞働者并ニ惠山鎮人夫等ノ各季ニ至リテ内地ニ歸還スル者或ハ海軍資金或ハ清國人カ本國へ回金スル者等ノ爲常ニ交換希望多ク平均一ヶ月ノ仕拂超過額六七千圓ヲ下ルコトナシ但本年ハ軍隊ノ交迭其他一般ノ渡航者多ク比較的多數ノ流入ヲナセリ

年 別	市場へ出金額	市場ヨリ入金額
四十一年中	二六六、〇〇〇 <small>円</small>	一七七、〇〇〇 <small>円</small>
四十三年上半期	一〇一、〇〇〇	八〇、〇〇〇

四 内地補助貨

内地補助貨ハ兌換券ト同シク渡航者ノ所持金トシテ流入スルモノナルカ近來稍其數ヲ減シタルカ如シ朝鮮補助貨ト混合シテ支障ナク流通セリ昨年及本年上半季ニ於ケル出入額ハ左ノ如シ

年 別	市 場 へ 出 金 額	市 場 ヨ リ 入 金 額
四 十 二 年 中	五、〇〇〇 <small>円</small>	二三、〇〇〇 <small>円</small>
四 十 三 年 上 半 期	二、〇〇〇	七、〇〇〇

右入金超過ノ補助貨ハ追テ内地へ還送ノ筈ナリト云フ

五 舊 貨

葉錢ハ古來當地方ニ於ケル唯一ノ通貨ニシテ其存在モ亦尠カラサリシカ去ル四十年貨幣整理着手ニ先チ銅貨騰貴ノ爲盛ニ内地ニ移出セラレ漸次其時價ノ低落ト共ニ着々整理ノ功ヲ奏シ目下當地附近ハ著シク其減少ヲ証セリ蓋シ前記内地移出ハ當地ニ於ケル葉錢整理ニ多大ノ利便ヲ與ヘタルヲ覺ユ近來尙地方ヨリ回來スルモノ尠カラスト雖回來スルモノ隨テ買上ケトナリ平均一日二百圓ノ回收ヲ爲セリ當初ヨリ四十三年六月迄ノ總回收高ハ十九萬圓トス
舊銀貨ハ由來多クノ流通ヲ見ヌ適々數枚ノ買上ヲ爲スノミ赤銅貨(五分)ハ銀貨ノ比ニ非サレトモ是亦流通多カラス
當初ヨリノ買上ケ高約五百圓ニ過キス

(三) 於音ノ沿革、禁止及其後ノ情況

於音ハ畢竟運搬ニ不便ナルト交通ノ機關備ハラサルトニ依リテ自然ニ發達シ其缺ヲ補ヒタルモノナレトモ手形法ノ發令ト同時ニ之レヲ禁止セラル、ニ至レリ然レトモ今猶鮮人相互間ニ於テハ無論約束手形ヨリモ受授多ク又近來ハ信用アル者ノ發シタルモノニ非サレハ受授セサルカ故ニ隨テ不渡リ等ノ弊最モ尠シ

第十一節 保 險

(一) 保險業者ノ種類、名稱、員數
元山ニ代理店ヲ有スルモノハ生命、海上、火災ノ三種ニシテ其内譯左ノ如シ

名	稱	本店所在地	名	稱	本店所在地
太平洋生命保險株式會社		東 京	大同生命保險株式會社		大 坂
東洋生命保險株式會社		同	東京海上保險株式會社		東 京
帝國生命保險株式會社		同	帝國海上運送火災保險株式會社		京 都
明治生命保險株式會社		同	日本海上運送火災保險株式會社		東 京
眞宗信徒生命保險株式會社		京 都	明治火災保險株式會社		同

(二) 被 保 險 物 ノ 種 類

海上保險ハ内地人朝鮮人共ニ之レヲナス其被保險種類ハ主トシテ左ノ如シ

干鰯 明太魚 干鰯 海蔘 大豆 牛皮 粟 小豆 黑鉛 麻布 金巾 内地木綿 絹布 荏子 金塊 醃魚 煙草
葉錢 露國紙幣

火災保險ハ無論内地人ノミニシテ其種類ハ左ノ如シ

住宅 店舖 倉庫 其他ノ建物及貨物

生命保險ノ被保險者ハ朝鮮人數名アルノ外皆内地人ニシテ其種類ハ左ノ如シ

終身 養老 定期 子女給費 利益配當付尋常終身 利益無配當尋常終身 有限終身

等ニシテ其總人員ハ本年六月末ニテ三百六十一人ナリ

(三) 保險價額及保險金額

火災保險ノ保險價額及保險金額并ニ保險料ハ左ノ如シ

(自明治四十三年一月至同年六月)

種別	月別	
	新	契
一月	二七、五〇〇、〇〇〇 ^円	一四一、二〇〇 ^円
二月	八、七五〇、〇〇〇	一三八、七五〇
三月	二一、九〇〇、〇〇〇	一〇四、六五〇
四月	一八、三〇〇、〇〇〇	一〇二、七五〇
五月	二二、九五〇、〇〇〇	五二五、四〇〇
六月	一〇〇、八〇〇、〇〇〇	一、〇〇二、七五〇
合計		
	一三、四〇〇、〇〇〇 ^円	二〇、〇〇〇、〇〇〇
	二四七、八〇〇 ^円	三二、〇〇〇
	九、〇〇〇	一六、〇〇〇
	九四、七五〇	三九九、六三〇
	七、二〇〇、〇〇〇	
	二七、五〇〇、〇〇〇	
	一〇、〇〇〇、〇〇〇	
	一〇二、七五〇	
	五二五、四〇〇	
	一、〇〇二、七五〇	

又保險價額ハ詳記シ難シト雖要スルニ保險價額ノ十分ノ八ヲ標準トセハ殆ト過誤ナカルヘシ

明治四十三年六月現在ニ於ケル生命保險ノ保險金額ハ總計二十三萬九千三百九十圓ニシテ保險料ハ一萬二千五百七十二圓七十七錢ナリ

海上保險ノ保險額及其保險料額ハ左ノ如シ(三箇代理店分合計額)

(自明治四十三年一月至同年六月)

月別	保	險	金	保	險	料	月別	保	險	金	保	險	料
一月	二一九、四六五	〇〇〇	三三〇、八七〇	五月	二〇八、四三九	〇〇〇	二三〇、八五〇						
二月	二〇〇、四〇三	〇〇〇	三三三、六八〇	六月	二四五、九九〇	〇〇〇	三〇〇、三一〇						
三月	一九四、三九二	〇〇〇	二八九、三九〇	合計	一、二五九、七六六	〇〇〇	一、八一二、〇〇〇						
四月	一九一、〇七七	〇〇〇	三二六、九〇〇										

(四) 保險率及保險ノ増減并ニ其事由

生命保險ハ追々代理店ノ増加セル丈ケ全体ニ於テハ多少増進セルカ如キモ要スルニ拂々敷増進ニ非ルナリ其然ル所以ハ

- 一 代理店開始ノ當時コソ相當勸誘ニ努ムルカ如キモ少シク年處ヲ經ル時ハ之レカ連續勸誘ニ努メサルコト
- 二 連年商況不振ノ爲一般人氣ノ銷沈セルコト
- 三 保險思想ノ猶幼稚ナルト被保險者ノ意思薄弱ナルコト
- 四 其他轉住等

ナルカ如シ

火災保險ハ近來日本火災保險協會ニ於テ漸次料率ヲ昇騰セシメタル結果トシテ其被保險者漸ク減少シ特ニ多少危險ノ伴フ建物又ハ公共及法人ノ建物及担保ニ供セラル、貨物ニ限ラレタルノ傾向アリ爲メニ從來日本火災日宗火災其他一二ノ代理店ヲ有セシニ拘ハラズ大體廢店シテ今ハ僅ニ明治火災ノ一代理店ヲ存スルノミ素ト元山ノ地タルヤ火災甚僅少ニシテ殊ニ近來防火ノ旅設稍備ハリタツト雖火災保險ノ減少ハ決シテ其他ノ繁榮ヲ意味スルモノニ非ス乃チ保險料率ノ昇騰ハ蓋シ其

最大原因ヲ爲セルヤ無論ナレトモ亦以テ市況ノ不振ニ因セスンハ非ス試ニ明治四十三年一月ヨリ六月迄ノ上半期間ト明治四十二年ノ同期間ト比較スルニ四十二年ハ一萬三千七百圓餘ノ減額トナレリ以テ其一斑ヲ窺知スヘキ乎

海上保險ハ謂フ迄モナク直接一般貿易ノ盛衰ト相消長スルモノナリト雖要スルニ其利用益多ク殊ニ北朝鮮沿岸ニ出入スル貨物ニ對シテ其利用著シク増加スルニ至レリ蓋シ當地近海ハ從來屢汽船ノ遭難アリ爲メニ保險會社カ支拂ヒタル金額ノ尠少ナラサルニ徴スルモ一般ニ其効果ヲ知悉セラレタルニ依ルヘク猶漸次商業ノ發達ニ伴ヒ其利用ヲ増進シタルハ遠ク火災保險ノ類ニ非ラス唯本春ノ如キ輸移出貨物僅少ノ場合ニ在テハ其保險金額ノ減少セルハ當然ノ理勢ナリトス今試ニ東京海上保險株式會社元山代理店ノミノ取扱ニ係ル明治四十二、四十三兩年上半期間ノ消長ヲ摘示セハ

月別	明治四十二年		明治四十三年	
	保險金	保險料	保險金	保險料
一月	一七一、七二八、〇〇〇	三六〇、九六〇	一三〇、九五九、〇〇〇	二〇七、一六〇
二月	一三〇、五一八、〇〇〇	二一四、二五〇	一二〇、三七〇、〇〇〇	二一八、三四〇
三月	一一八、七四一、〇〇〇	二〇八、〇一〇	一一六、七〇四、〇〇〇	一八五、四一〇
四月	一九八、二九二、〇〇〇	二七一、二三〇	一二五、〇九九、〇〇〇	二五一、七四〇
五月	一六七、九七二、〇〇〇	二七九、〇四〇	一二二、七二三、〇〇〇	一三七、八〇〇
六月	一九〇、七九一、〇〇〇	三五〇、八〇〇	一二五、六七〇、〇〇〇	二五〇、四二〇
合計	九七八、〇四二、〇〇〇	一、六八四、二九〇	八三一、五二五、〇〇〇	一、二五〇、八七〇

火災保險率ハ左ノ如シ

木造又ハ木骨	木骨塗土造	煉瓦又ハ石造
亞鉛張住宅店舖 倉庫其他建物	住宅、店舖 其他建物	住宅、店舖 其他建物
三、〇	一、八	二、〇
倉	倉	倉
庫	庫	庫
一、八	二、〇	一、二
三、〇	一、八	一、八

海上保險モ其保險金額ハ原則ヨリセハ保險價格ヨリ少額ナルヘキモノナレトモ元山商人ハ一般ニ正確ニシテ價額ヲ不當ニ多額ニ見積ル等ノ弊ナク多クハ保險價格ヲ其儘保險金額トシテ契約セラレアルカ如シ而シテ其保險率ノ梗概左ノ如シ(保險金額百圓ニ付)

地名	種別	普通貨物	金塊貨幣	甲板積貨物	備考
釜山		一八	六	一七	分損兩解附
下關		二〇	七	一九	同
長崎		二〇	七	一一	同
神戸		二五	七	一一	同
大阪		二五	七	一一	同
東京		五〇	二五	四二	同
西湖津		一二	四	一五	同
前津城津		二〇	七	一一	同
間各港		二〇	七	一一	同
清津迄各港		二五	七	一一	同

浦	大	仁	鎮	群	木	江	清	城	雄
汐	連	川	南	山	浦	陵	津	津	基
二	五	二	三	二	二	二	二	二	三
五	〇	五	〇	五	五	五	五	〇	五
	二	一	一			一			二
七	五	〇	八	七	七	〇	七	五	〇
二	四	二	二	二	二			一	二
一	二	一	五	一	一			七	八
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

右ハ汽船積貨物ニ對スル平時ノ保險料率ニシテ時ニ危險多キ貨物及危險多キ時期ニ於テハ其都度適宜増率ヲ爲スモノトシ又帆船積貨物ハ汽船積貨物保險料率ノ五六倍ヲ最低額トシ時期航路等ニ依リ其都度其率ヲ定ム又特約者ニ對シテハ二割乃至三割ノ特約戻シ金ヲ爲スヲ例トス

(五) 保險金支拂ノ實績

火災生命兩保險金ノ支拂ハ甚タ稀有ノコトナレトモ海上保險ニ於テモ極メテ迅速ニ且無碍ニ辨償セラレ來リタリ要スルニ各種ヲ通シテ支拂ノ實績良好ナリ

(六) 保險利用ノ情況

生命保險ハ五箇年以上繼續シタル者ニハ其拂込金額ノ七割乃至八割ヲ標準トシ證券擔保ニ依リテ會社ヨリ貸金ヲ爲スコト
 其他各會社ニ依リ多樣ノ利用方法アレトモ要スルニ被保險者ハ未タ之レヲ利用セントスル者ナキカ如シ
 海上保險ハ清商甚タ其思想發達セルカ如ク北朝鮮各地行ノ保險物ハ清商其大部分ヲ占ム内地人及朝鮮人ハ專ラ銀行爲替取
 組ノ必要ニ依リテ保險ヲ利用スルモノノ如シ

第十二節 倉庫業

(一) 員數

元山港ノ商業家ハ概テ各自ノ倉庫ヲ有ス銀行及商業會議所等ノ所有倉庫モ亦少カラステ其供給ハ潤澤ナリ故ニ未タ專業
 ノ倉庫業者ナシ猶左ニ現在倉庫ノ棟數其坪數所有者ヲ列記スレハ左ノ如シ

棟數	坪數	所有者	棟數	坪數	所有者
七棟	三三〇坪	十八銀行元山支店	四棟	一一八坪	横山喜太郎
三	一三〇	元山商業會議所	三	一〇七	松本莊太郎
二	五六	韓國銀行元山支店	五	一〇〇	龜谷潔之
五	二四〇	吉田秀次郎	四	七〇	夏目十郎兵衛
四	一五二	田口吉次郎	二	五二	市川政高
八	二四八	大田儀三	五	五二	三倉正寬
三	一五七	佐藤直太郎	三	四五	西島留藏
四	一一一	龜谷愛介	一	四〇	中村フク

銀行以外ノ倉庫料ハ隨意契約ニ依リ一定不動ニアラスト雖概ネ一坪一ヶ月ニ付六十錢内外ヲ通例トス而シテ銀行ノ倉庫料ハ左ノ如シ

(二) 倉庫料

品名	單位	料金	品名	單位	料金
洋金巾	一個	三錢	麵粉	一個	五毛
和金巾	同	一錢	荒銅	百斤	二厘
日木綿	同	七厘	干鱒	一個	二厘
綿糸	同	六厘五毛	朝鮮麻布	同	六厘
米穀	同	一厘	打綿大	同	四厘五毛
雜穀	同	八毛	同小	同	三厘
砂糖	同	一厘	煙草	同	五厘五毛
牛皮	百斤	五厘五毛	繩	同	二厘五毛

一	一	二	二	二
二一	二三	二七	三六	四一
渡邊半藏	木本芳輔	宮原嘉七	高瀬豐次郎	中村國太郎
計	七四	一	一	一
二、二一八	二六	一五	二一	二一
	佐治繁治	小林儀三郎	岩田統一郎	

備考 前表ハ一日分ノ料率ニシテ貨物保險料ヲモ含ム

(三) 倉庫ノ設備構造

銀行所有ノ倉庫ハ煉瓦造又ハ木造ニシテ俱ニ比較的完全ナリ個人所有ノモノニ至リテハ其構造前者ニ比シテ稍劣等ナルノミナラス甚シキハ倉庫ト云ハンヨリ寧ロ納屋ト云フヘキ程度ノモノモ少カラス

(四) 倉庫業者ト商工業業者

普通倉庫ノ貸借ハ概シテ一ケ年契約ノモノ多キカ如シ又六ケ月、一ケ月契約ノモノモ少カラス而シテ一ケ年契約ノモノハ其料金ノ納期ヲ二回ニ定メ第一回ハ契約後六ケ月第二回ハ契約滿了ノ日ニ納付ス其他ノモノハ都テ一ケ月毎ニ納付スルノ習慣ニシテ其契約期間ハ固ヨリ自己所有ノ倉庫ハ同シク隨時隨意ニ荷物ノ出入ヲ爲スハ無論其他何等ノ拘束ヲ受クル事ナシ唯銀行ノ倉庫ハ其全部カ担保品ナルニ依リ一定ノ時間内ニ於テ倉入レ若クハ倉出シヲ爲サシムル規定ニシテ日曜休日ハ全然出入セシメス但天災其他不可抗力ノ災害ニ罹リタル時ハ當事者各自(倉庫ハ其持主貨物ハ其債借人)ノ分担トス銀行倉庫ハ鼠切リヲ除ク外ノ被害ニ付テハ銀行全部之レヲ負担ス

第十三節 運送業

(一) 員數

陸上ノ運送業者ハ稱スヘキ者皆無ナリ而シテ海上運送業者ノ數ハ左ノ如シ

一 海運業 吉田秀次郎

一 廻漕業 同人

一同 合資會社田口廻漕店

一同 商船會社代理店大田儀三

備考 海運業者トハ自ラ船舶ヲ所有シテ海運ノ業ヲ營ム者ヲ云ヒ廻漕業者ハ單ニ荷客取扱問屋ヲ云フ

(二) 資力及信用

前號三者ノ間自カラ資力ノ優劣アルヘシト雖之レヲ詳細ニ記載スルコトハ難シ唯信用ノ点ニ於テハ三者共殆ト軒輊アルコトナシ

(三) 仲仕ノ情態

内地人仲仕ニ沖仲仕、陸仲仕ノ二種アリ沖仲仕ハ其數約六十人ナレトモ彼等亦陸仲仕ヲ兼業ス故ニ陸仲仕專業者ヲ合シテ約百三十名ニ過キス是等ハ主トシテ諸船舶ノ荷物陸揚ケ積込ミ及陸上運搬及輸移出品ノ荷造リ等ニ従事スルモ固ヨリ其人員ノ不足ナルト尙ホ努力ノ足ラサルカ爲メ常ニ多數ノ朝鮮人ヲ雇役スルニ非スンハ其用ヲ辨スルヲ得ス率直ニ云ヘハ船積ミ陸揚ケ輸移出物荷造其他主要ナル仕事ハ其多クヲ朝鮮人仲仕ノ手ニ於テ辨セラル、處ニシテ内地人仲仕ハ或意味ニ於テ朝鮮人仲仕ノ監督者ナルカ如キ觀アルモ其營業ノ實際ニ於テハ主從ノ位置ハ顛倒セルカ如キ觀アリ隨テ其勞働ヨリ得タル賃錢ノ大部分ハ常ニ朝鮮人仲仕ニ吸收セラレツ、アリ

朝鮮人仲仕ハ既ニ内地人仲仕ノ勢力範圍ヲ蹂躪シタルカ上ニ朝鮮帆船ニ對スル荷物ノ積卸シハ全然彼等ノ獨占事業ニシテ内地人仲仕ハ實ニ之レニ對シテ一指ヲ染ムルヲ許サ、ルナリ故ニ朝鮮人仲仕カ常ニ多少ノ餘裕アルニ似ス彼内地人仲仕ハ常ニ生活難ヲ訴ヘ動モスレハ賃錢ノ割増ヲ請求スルニ至ル内地人仲仕ノ組合名稱及所屬人員左ノ如シ

名	稱	所屬人員	名	稱	所屬人員
三光組		三十五人	福島組		十三人
商船組		三十二人	朝日組		十人
元山組		四十人	合計		百三十人

朝鮮人ノ仲仕ハ九團體ニシテ其人員ハ五百名ヲ算ス而シテ其名稱種類營業等左ノ如シ

名稱	營業ノ範圍	名稱	營業ノ範圍
埠頭都中	普通汽船荷物全体ノ三分ノ二ノ揚卸ヲ爲スヲ引受ト定ム	閑産都中	明太ノミノ揚卸ヲ引受トス
船襖都中	前者ノ三分ノ一及ヒ朝鮮帆船一切ノ荷物揚卸ヲ爲スヲ引受ト定ム	昌設都中	居留地ヨリ元山里ニ至ル貨物運搬ノ片道ノミヲ引受トス
船頭都中	元山府龍城社ヨリ朝鮮船ニテ入ル大豆ノ揚卸ヲ爲スヲ引受ト定ム	近設都中	朝鮮形帆船(單橋)及ヒ江原道ヨリ入ル干鰯二分ノ一ヲ引受トス
斗量都中	御用船ノ貨物揚卸ヲ引受トス	新設都中	元山府高岩、雲城、兩浦及ヒ元山里ヨリ居留地ニ運搬スル五十個以上ノ貨物並ニ朝鮮婦人ノ居留地ニテ買入レタル米穀ノ運搬等ヲ引受トス
登負都中	江原道ヨリ入ル干鰯全体ノ二分ノ一揚卸ヲ引受トス		

右ノ九團體ハ如斯複雑ナル勢力範圍ヲ固持ス是レ素ヨリ彼等カ内部ノ申合規約タルニ過キスシテ局外者ノ何等拘束ヲ受クル理ナシト雖實際ハ他地方ヨリ朝鮮船ニテ荷物ヲ回漕シ來リタル際ノ如キ其船中如何ニ強健ナル舟子アリト雖此舟子ノ手ヲ以シテハ一物タモ陸揚スルヲ許サス必ス元山朝鮮仲仕ノ手ニ依テ陸揚シ以テ不要ノ賃錢ヲ支拂ハサルヘカラス事情ヲ詳知セサル船主カ適マ強テ我舟子ヲシテ陸揚セシメン乎彼等朝鮮仲仕ハ冷笑ヲ以テ傍觀シ事終ツテ後賃錢ヲ要求ス仮令此時彼船主等カ得意先トスル有力ナル元山ノ客主カ現場ニ居合セタランモ亦如何トモスル能ハス彼客主ハ後難ヲ恐レ却テ船主ヲ誨諭シテ速カニ朝鮮仲仕ノ要求ニ應セシメント努ムル情況ニシテ弊害顯著ナルモノアリ相當ノ制度ヲ守ラシムルノ方法ヲ講スル必要アルヘキカ日鮮仲仕ノ賃銀ヲ列舉スレハ左ノ如シ

其一 内地人ノ部

綾	紡	牛	牛	麻	木	石	小	小	石	燐	干	干	竹	疊	明	打	穀	品
金	績						箱	樽				罽	(一束)	(三枚)				名
巾	系	皮	骨	布	綿	灰	物	物	油	寸	罽	沙			太	綿	類	單
同	同	同	同	同	同	同	同	一	一	一	同	同	同	同	同	同	一	位
							個	函	箱								個	
																		貨
							三	二	三	三	四	三			五	一	五	銀
							錢	錢	錢	錢	錢	一			錢		錢	
							厘	四	四	四	六	八			八		八	
							四	厘	厘	厘	錢	厘	厘		錢	厘	錢	厘
箱	醬	鐵	箱	草	海	和	清	綿	寒	金	陶	鍋	建	索	蕤	食	品	
入	油		入		產	洋			冷						繩		名	
雜	漬	類	陶	子	物	酒	酒	糸	紗	巾	器	釜	具	麵	叭	鹽		
貨	物		器														單	
一	一	一	一	百	一	四	同	同	同	同	同	同	同	一	一	一	位	
個	樽	括	個	斤	個	打								個	箱	個	俵	
																	貨	
							十	六						七	二	三	一	
							錢	錢						錢	錢	錢	錢	
							三	六						取	五	六	六	
							錢	厘						厘	厘	厘	厘	銀

備考 運搬區域ハ十區ニ區別ス前表内ノ賃銀ハ其最近ト最遠トノ例ヲ示シタルモノニシテ夜業ヲ爲ス時ハ都テ二割増トス

其二 朝鮮人ノ部 (居留地ヨリ濱出賃)

品名	單位	賃銀	品名	單位	賃銀
明太	一個	三錢二厘	鐵具小	一個	五錢二厘
白米	同	四錢二厘	柑橘	同	五錢二厘
碎米	同	六錢二厘	燐寸大	同	七錢二厘
和金巾	同	八錢二厘	同小	同	三錢二厘
栗	同	六錢二厘	洋蠟	同	五錢二厘
打綿	同	五錢二厘	砂糖	同	五錢二厘
食鹽	同	三錢二厘	雜物	同	五錢二厘
木綿	同	五錢二厘	陶器	同	四錢二厘
石油	同	三錢二厘	竹把	一把	三錢二厘
麵粉	同	三錢二厘	鍋釜	一個	五錢二厘
鐵具大	同	六錢二厘	米麵粉	同	三錢二厘

其三 朝鮮人ノ部 (各組合ノ揚陸賃)

登負都中 (仲仕組合ノ名稱)

品名	單位	賃銀	品名	單位	賃銀
白米	一石	八錢二厘	黍	一叭	五錢二厘
大豆	同	八錢二厘	木炭	同	五錢二厘
材木 五寸角 三寸	一本	一錢四厘	牛皮	一枚	一錢
梁木 三尺 五尺	同	七錢十厘	炭積	一舟	二圓八十錢
片木	同	四錢	同	同	三圓六十錢

近設都中

品名	單位	賃銀	品名	單位	賃銀
大豆	一叭	二錢八厘	食鹽	一俵	二錢六厘
大豆	同	三錢四厘	同	同	二錢

船襖都中

品名	單位	賃銀	品名	單位	賃銀
雜貨	一個	二錢四厘	生明太	十五連	二錢四厘
明太鱈	一壺	二錢四厘	食鹽	一石	五錢二厘
鯧魚	一個	五錢二厘	藥種	一個	八錢二厘
和布	同	五錢二厘			

斗量都中

各品一個ニ付大小平均五錢八厘

埠頭都中

各品一個ニ付大小平均(遠)十錢二厘(近)五錢二厘

其四內地人ノ部(荷造賃其他)

○大豆

本造リ

一個ニ付

四錢四厘

廻シ受渡

同 百俵以上
同 百俵以下

四厘 二厘

中詰造

同

二錢六厘

○干鰯

船中本造

一個ニ付

二十錢八厘

陸上同

同

十五錢六厘

同上沙篩ナシ

口取造

同

八錢四厘

○牛皮

本造

一個ニ付

二十錢

掛調

同

二錢四厘

○食鹽

造替 一個ニ付 二錢六厘

○海產物 一個ニ付 十九錢六厘

箱詰本造 一個ニ付 十一錢八厘

袋入同上 同 二錢

掛調 同 十二錢四厘

○金巾及木綿 一個ニ付 十一錢八厘

本造 一個ニ付 十二錢四厘

○打綿 一個ニ付 十一錢八厘

本造 一個ニ付 十一錢八厘

備考 內地人側ノ船積及陸揚解賃ハ都テ才取ニシテ一才ニ付一錢ノ割ナリ

(五) 運送業者ト商工業者

特異ナル關係ナシ各港普通ノ状態ナリ而シテ運賃仕出地ニ於テ其額ヲ定メ仕向地ニ於テ受荷主之レヲ支拂フ即チ所謂向拂運賃ナルヲ通例トス若シ運送途中ニ於テ荷物ノ紛失損傷脫漏等ヲ生シタル場合ハ到着地ノ廻漕店ニ於テ之レヲ處理ス又荷物ノミ到着シテ船貨證ノ未着ナルコト往々ニシテ之レアリ此場合ニ於テハ受荷主ヲシテ(無論信用ノ如何ニモ依ルコトナレトモ)其貨物ノ實價ニ相當スル現金ヲ担保トシテ豫納セシメ仮證券ヲ作製シテ荷物ヲ引取ラシム

第十四節 契

(一) 契ノ沿革

契ノ性質タル猶内地ノ賴母子講ノ如シ後年ニ至リ間々一種ノ社團又ハ同業組合ニ似タルモノニテ出資ナキモノモアレトモ

未タ其沿革ヲ詳カニセス想フニ其本來ノ目的ハ冠婚葬祭ノ資、學校資、定期會宴ノ資若クハ交通機關、農商業助成基金等ニシテ稍健全ニシテ且有益ナルモノ、如クナリシナリ然レトモ百般制度ノ弛廢社會ノ腐敗ト共ニ不知不識ノ間ニ一種ノ射倖機關トナリ姦譎ノ徒輩各處ニ千人契万人契ノ如キ者ヲ興行シ宛然富閭ト化シ去リ之カ爲ニ産ヲ蕩スル者命ヲ落ス者其他弊端百出終ニ開國五百三年(明治二十七年)舊韓國政府ヨリ禁止令ヲ發セラル、ニ至レリ然リト雖モ本來ノ目的ニ溯源シテ之レヲ善用セハ蓋シ産業ニ補益スル處尠小ナラサルヘキカ

(二) 各種産業ノ契(名稱、目的、位置、資金、組織、役員)

都テノ契ノ名稱目的其他左ノ如シ

其一 名稱、目的、位置

名稱	目的	位置	名稱	目的	位置
學契	學校設立及維持ノ資	現存セス	納朴契	全然賴母子講ナリ	現存セス
婚喪契	慶中同人間慶吊ノ資	元山里各村	宗契	親族同姓同貯蓄金	同
同年契	交友遊宴ノ資	現存セス	老契	一種ノ社團ニシテ出資ナシ	元山里各村
筒契	全然賴母子講ナリ	同	万人契	全然富籤ナリ	現在セス

備考 前列記ノ外猶農契ノ稱モアレトモ其實ナク嚴正ノ意味ニ於テ産業上ノ契ナルモノ殆トナシ而シテ各契ノ内

容ハ

- 一 學契ハ各有志家ヨリ金額ヲ定メス醸出セシメ之レヲ殖利シテ其目的ノ用途ニ支出スルモノナリ
- 二 婚喪契ハ各村内ノ人民カ一定ノ金額ヲ(二十錢ヨリ一圓位迄ト云フ)醸出殖利シテ同契員中ニ生シタル婚姻葬祭ノ費ヲ

補助スルモノナリ

- 三 同年契ハ遠近ヲ論セス同年ノ人一定ノ金額ヲ醸出シ毎年一二次宴會ヲ開催シ或ハ歲末ノ儀禮ヲ修ムルニ供ス
- 四 筒契ハ百人以上ノ人員毎月一回宛一定(一圓ト仮定シ)ノ金額ヲ醸出シ別ニ木製ノ筒中ニ各加入者ノ姓名ヲ書シタル牌子ヲ容レ更ニ之レヲ搖出スルコト普通抽籤ノ如クシテ一牌子ヲ探出シ其牌子ノ姓名者ヲ當籤者トシ其回ノ集金ヲ交附ス而シテ其當籤者ハ無論次回ヨリ既定ノ(一圓)金額ヲ毎月返却スルコト内地頼母子講ノ如シ但一牌子ヲ仮ニ一圓トスレハ總額ハ即チ百圓ナリ然レトモ其當籤者ニ百圓全部ヲ交附スルニ非ス概ネ七十圓乃至七十五圓ヲ交附シ其殘餘ノ内一部ヲ會費ニ充テ他ノ一部ハ未當籤者ノ利分的共同貯金トス
- 五 納朴契ハ又百人以上ノ者毎月一回若クハ二回醸出スルコト筒契ノ例ノ如シ但本契ハ内地ニテ所謂取逃ケ講ナリ故ニ當籤者ハ次回ヨリ返掛ヲ爲スノ義務ナク既ニ契中ノ人ニアラサルナリ而シテ亦其醸集金ノ全額ヲ當籤者ニ交附セサルコトモ筒契ノ例ノ如シ
- 七 宗契ハ親族同姓間ノ有志者ニ於テ組織ス其醸集金ハ之レヲ殖利シ契中不時ノ用途ニ供ス
- 八 萬人契(或ハ千人契トモ云フ共ニ其實數ノ稱呼ニアラス只大小區別ノ謂ナリ)全然富籤ニシテ其當籤數百本各金額ニ等差アリ而シテ契費ト稱シ或ハ當籤祝ト稱シテ當籤者ヨリ其金額ノ幾部ヲ殺奪スル等興行者カ鷗慾ヲ逞フスルコト甚シク弊竇百出到底現存ヲ許スヘカラサルモノニ屬ス

右各契ニ於ケル役員モ千人契萬人契ノ如キモノハ多數ヲ要スレトモ普通ハ契首一人ヲ置クヲ例トス

(三) 産業ニ關スル契ノ種類及情況

要スルニ前號列記ノ中同年契以下ノモノハ俱ニ一定ノ目的ニ依テ組織セラレタルモノニ非ス故ニ從ヒ間接ニハ或ハ産業上ノ資ニ供セラレツ、アルモノアリトセンモ瑣々云フニ足ラス唯近時元山里ニ於テ或契ヲ組織シ其資ヲ以テ棧橋ヲ三ヶ所ニ

架設シ料金ヲ收メテ他ノ使用ニ供スルモノアリ船舶ノ爲メニモ多少ノ便益トナリ居レルカ如シ

(四) 契ノ利弊政府監督ノ要否及方法

彼ノ千人契萬人契ノ如キ射倖機關ヲ除クノ外ハ之レニ相當ノ取締ヲ以テセハ皆有利無弊ノモノタルヘク寧ロ大ニ獎勵スヘキモノタルヘシ聞ナラク昔時農契ナルモノアリ農事百般ノ利用ニ供セラレ就中著シキハ灌溉用潑水池設備ノ如キハ當初契ノ集金ヲ以テ工事ヲ起シ爾後集金毎ニ工事ヲ進捗セシム而シテ竣功ノ曉池水ノ供給ヲ仰カントスル者ハ收穫ノ後ニ於テ水田一斗落ニ付糶幾升ノ割ヲ以テ其契ニ對シテ給水ノ報償ヲ爲スノ例ナリシト云フ不幸早魃ニ逢着スル毎ニ空シク天ヲ仰ヒテ降雨ヲ祈ルカ如キ愚ヲ爲サンヨリハ潑水池ノ如キ大ニ獎勵スヘキコトニシテ特ニ咸鏡江原二道ノ如キ其最モ必要アリトス更ニ潑水池ヨリモ行ヒ易クシテ且先ツ着手スヘキモノヲ種子撰擇ノ實行ナリトス既ニ一戸當リ耕作面積ノ比較的過大ナル今日ノ朝鮮人ニ向ヒ此上更ニ耕地反別ヲ擴張シテ收穫ヲ增加セシメントスルハ不可ナリ宜敷ク良穀ヲ產出セシメ以テ其價格ヲ高カラシムルヲ策ノ得タルモノトスヘシ既ニ詳述セシカ如ク元山輸出大豆ハ朝鮮產中ノ自眉ナリ而モ種子ノ撰擇行ハレサルカ爲メ一掬ノ中猶數種ヲ混交シ外見甚タ美ナラス慥カニ實價相當ノ市價ヲ持スルコト能ハス宜シク之レヲ撰擇シ良品ヲ收メシムルヲ要ス其種子ノ買入レノ如キ契ニ依ルヲ最モ適當ナルヘシト思惟ス其他道路橋梁ノ修築公共衛生及消防機關ノ設備等多々ナルヘシ而シテ大体ノ監督ハ之レヲ警察署ニ付シ其契中ニ於ケル利害得失ノ考究及事務ノ幫助ノ如キハ郡守又ハ内地人郡書記ヲシテ之レニ當ラシムルヲ最モ適當ノコトトスヘキコト

第十五節 組合、會社其他ノ關係

名稱、目的、位置、資金、組織、役員

一 元山鐵工合資會社

位置 元山港本町四丁目七番地

資本金 一萬圓

目的 農具其他一切ノ鉄具製造販賣

代表者 古賀庄太郎

一合名會社元山七星會

位置 元山港東町一丁目三十四番地

資本金 五萬圓

目的 動產不動產及有價證券ノ賣買并ニ金錢ノ貸借

業務執行社員 山崎豊治

一金光酒造合資會社

位置 元山港新町二丁目百五十三番地

資本金 七千圓

目的 酒類製造販賣

業務執行社員 金光芳松

一合資會社田口回漕店

位置 元山港春日町十五番地

資本金 五千圓

目的 船舶荷客取扱業

業務擔當社員 田口吉次郎

一 客船組

位置 元山港春日町番外一番地

資本金 五千圓

目的 船營業

組織 內地人及朝鮮人

代表者 小川芳輔

以上ヲ元山ニ本店ヲ有スルモノトス其他支店トシテハ

一 株式會社韓國銀行元山支店

位置 元山港本町一丁目一番地

支店長 龜島豐治

一 株式會社十八銀行元山支店

位置 元山港春日町七番地

支店長 北川元助

一 株式會社農工銀行元山支店

位置 元山里銘石院

支配人 今井武人

一 東亞煙草株式會社元山販賣所

位置 元山港本町二丁目二百二十八番地

主任 杉原惣太郎

此他輸入商組合、貿易商組合、雜貨商組合等ノ團體アレトモ法律上ノ組合組織ヲ爲セルモノニ非ス又朝鮮人側ニハ一ノ會社組合等ノモノナシ

第十六節 商工業助長ノ施設

(一) 商業會議所其他ノ團體、會合

元山商業會議所ハ遠ク開港ノ當時有志家ノ主唱ニ依リ明治十四年一月十四日港會議所ヲ創設シ居留地ノ行政及商業上ノ事務ヲ扱ヒシカ同年十月二十三日分レテ總代役所商法會議所トナリ行政商業ノ機關全ク兩立スルニ至レリ其後明治二十九年内地商業會議所條例ニ準據シテ定款ヲ改正シ在朝鮮國元山港日本人商業會議所ト稱シ明治三十六年二月再ヒ定款ヲ改正シ明治四十一年八月十三日三度定款ヲ改正シテ元山商業會議所ト稱シ以テ今日ニ及ヘリ現今ノ制議員二十名アリ其中ニ於テ正副會頭各一人常議員五名ヲ互選シ以テ役員會ヲ組織ス時ニ多少ノ隆替アリシト雖要スルニ相當ノ基本財産ヲ有シ其基礎鞏固ナリ輸移出荷物ノ荷造及品質ノ改良並ニ輸移入打綿及繩ひ筵等ノ品質検査ヲ始メトシ干鯛篩器量器ノ取締リ若クハ共同荷造場船舶給水井戸ノ管理等公益ニ關スル施設皆好成績ヲ現ハセリ

(二) 商品陳列館

元山港ニハ開港ノ劈頭ニ於テ既ニ他港ニ其例ヲ見サルノ設備アリタリ日本物産展覽館是ナリ建築物ハ外務省ヨリ寄與セラレ猶若干ノ資金ヲモ下附シ領事館監督ノ下ニ商品ヲ陳列シテ朝鮮人ノ縦覽ニ供シタリ然レトモ民度今日ヨリモ遙カニ低ク貿易モ猶甚タ發達セサリシ時ノコトトテ唯朝鮮人ハ其陳列品ノ珍ニシテ且美ナルニ驚愕セルノミ殆ト抄々シキ購客ナク陳列品漸ク陳腐ニ屬スルモ賣レサルカ故ニ新陳代謝ノ資ヲ得ルニ途ナク全然無用ノ長物ト化シ去リ明治十八年ヲ以テ終リ閉

鎖ノ止ムナキニ至レリ其後我農商務省ノ獎勵ニ依リ内地ノ營業者ヨリ商品ヲ蒐集シ領事館ノ一隅ニ小陳列場ヲ開始セラレタルコトアリシト雖モ亦唯朝鮮人ノ縱覽ニ供スルノミ前轍ヲ追フテ失敗ニ終ハリ復タ此種ノ企劃ヲ見ス無論商品陳列館ノ如キ將來必要ナリト雖現在ノ程度ニテハ大規模ノモノハ尙早ト云ハサルヘカラス唯輸移出入要主品及水産物鑛物等ノ標本陳列場ヲ設クルハ大ニ必要ニシテ且利益ナルヘク既ニ目下計畫中ニアリ

(三) 商事通信

商人相互取引上ニ必要ナル通信ハ書翰ニ電信ニ新聞ニ交通機關ノ許ス限り盛ニ通信セラレツ、アルヤ無論ニシテ特ニ近來内地人ノ朝鮮ニ注意スル者頗ル多キヲ致シ就中工業品ノ販路並ニ水産業鑛業ノ計畫ニ就キ共ニ其營業者ヨリ商業會議所又ハ府廳へ照會若クハ問合せ又ハ調査ヲ依頼シ來ル者頻々トシテ之レアリ而シテ其府廳ニ來ル者モ多クハ會議所ヨリ回答ヲ與フルコトナルカ故ニ一人ノ事務員ハ殆ト專任ニ之レカ取扱ニ從事セルノ有様ナリ又内地全國中九州、四國、本土、北海道ノ有力ナル各會議所トハ常ニ氣脈ヲ通シ統計及ヒ諸報告並ニ商事ノ照會應答ヲ交換シツ、アリテ要スルニ通信ハ能ク疏通シ居レリ

(四) 商業講習

遺憾ナカラ目下何等ノ機關アルコトナシ而シテ頃日商業會議所ノ一議員ヨリ商集會所ナルモノヲ設置シ以テ傍ラ店員及ヒ子弟ノ商業講習ヲモ爲サシメントスルノ建議アリ目下宿題トシテ考究中ナリ此議果シテ成立スルニ至ラハ以テ商業講習ノ端緒ヲ開クニ至ルヘシ

第四項 各種産業ノ情況

(一) 農業

明治四十二年ニ於ケル元山府下ノミノ一般農産ノ種類數量其他大略左ノ如シ

品名	産地	數量	單價	總額	品名	産地	數量	單價	總額
米	元山府	二、六八六 ^石	二五、八五六 ^円		胡椒	元山府下	少許		
麥	同	四四八	六、一一二		蕎麥	同	同		
大豆	同	一、〇八九	七、〇七二		青麻	同	同		
粟	同	三五八	八、一三〇		桑	同	未詳		
稗	同	一、九二〇	四、八〇〇						
煙草	元山府下	二、三七〇	二、〇〇〇						
荏子	同	四〇〇	一、六〇〇						

備考 胡麻以下皆其産額少數ニシテ元山財務監督局ノ統計ニモ上ホラス殆ト有名無實ノ情況ナリ

桑ハ先年内地人ヨリ大ニ朝鮮人ニ奨励シ長野縣下ヨリ多數ノ苗木ヲ移植セシメ其成績モ頗ル良好ナルカ如

シト雖猶養蚕ヲ盛ナラシムルニ至ラス隨テ桑ノ産數モ未詳ナリ

青麻ハ草靴及繩等要スルニ自家ノ使用料ノミヲ作レリ

本來農産物稀少ナル地方ノコトトテ大豆、荏子等一二ノ輸移出物アルノミニシテ他ノ農産物ハ云フニ足ルモノナシト雖唯
 タ煙草ハ有名ナル産地黄海道谷山地方ノ産ト大同小異ノ物ヲ産シ現在ニ於テモ既ニ多大ノ需要アリ而シテ其栽培ハ逐年増
 加シ今年ノ如キ儘カニ昨年ニ比シテ一割五歩以上ノ増作ナルヘシト云フ想フニ昔日ハ絶對的ニ喫煙シ能ハサリシ少年輩カ
 漸ク社會制裁ノ弛廢ニ連レ忌憚ナク喫煙スルニ至リ而シテ此輩及比較的富裕ノ者若クハ學生ノ徒ハ悉ク卷煙草ヲ嗜好スル

モ猶大多數ノ人ハ舊慣ト其價值ノ頗ル廉ナルカ爲依然葉煙草ヲ喫用スルカ故ナルヘシ煙草ノ改良及其產出額ノ増加ハ卷煙草製造業ヲ當地方ニ開始スルコトニ依テ大ヒニ發展スヘシ特ニ黃海、江原、平安、咸鏡四道ノ接觸點ハ煙草栽培ニ於テ土質上最モ好適ノ地トシテ其品質モ他地方ニ比スレハ稍優良ナリトス故ニ今後大ニ需要ノ途開ケ少シク栽培乾燥等ニ改善ヲ加フルアラハ將來有數ノ產物タルヘク而シテ其供給益増加スルニ至ルヘシ

(二) 漁業

明治四十二年ニ於ケル重要水產物ノ種類其他ハ概略左ノ如シ(元山水產組合支部調査)

品名	産地	數量	價額
明太魚	新浦、陸垵、前津、新昌、遮湖	十萬駄 (一駄トハ二十尾也)	百三十萬圓
鯧	永興灣	五千駄	十萬圓
鯧(干鰯)	永興灣、江原道沿海	九萬俵 (一俵正味百五十斤)	四十萬圓
鯖	永興灣、西湖津	百五十萬尾	一萬五千圓
鯛	永興灣、西湖津	十五萬尾	二萬二千五百圓
鱒	永興灣外、江原道沿海	十萬尾	六萬圓
鱒	永興灣、江原道沿海	二十萬尾	四萬圓
鱒	永興灣及永興江	四萬尾	八千圓
海參	咸鏡南北道沿岸、江原道沿岸	十萬斤	三萬圓
牡蠣	永興灣	三十萬斤	六萬圓
鮑	咸鏡南北道沿岸、江原道沿岸	三萬斤	一萬五千圓
石花菜	江原道致弓沿海、永興灣	六萬斤	四萬二千圓
合計			二百十二萬八千五百圓

備考 一 本表ノ産額ハ極メテ確實ナル計數ヲ知り得ヘキ根據ナシ故ニ一般漁況并ニ輸移出ノ情況等ヲ參酌シテ

調製シタル者ナルカ故ニ多少ノ相違ヲ免レサルヘシ

一 明太魚ハ云フ迄モナク朝鮮人ノ專業ニ屬シ海參、鮑、石花菜ノ三種ハ内地人ノ專業ニ係レリ

一 鯧ハ例年ニ比シ漁獲高三割ヲ減少シ鯖ハ豐漁ニシテ殊ニ鯧ハ近來稀有ノ大漁ナリシナリ

一 鱒ハ例年ヨリ漁獲多カリシモ鮭ハ極メテ不漁ナリシ

一 本調査ニ於テハ元山附近ヲ本位トスルモノナルカ故ニ前表中ノ明太魚全部海參ノ大部分鮑ノ大部其外他郡領海ニ於ケル漁獲物ハ之レヲ表中ヨリ扣除スルニ非レハ異日他方面ノ調査ヲ爲スニ當リ重複ヲ來スヤ無論ナレトモ本表ハ元山水産組合支部ノ調査ヲ根據トセルカ故ニ姑ク前表ノ儘ヲ掲ク

單ニ元山附近ノミヲ本位トスレハ大約左表ノ如キ統計トナルヘシ

品名	産地	數量	價額	品名	産地	數量	價額
鯧	永興灣	五千駄	十萬圓	鮭	永興灣	四萬尾	八千圓
鯧	同	二萬俵	十萬九千圓	海參	同	未詳	未詳
鯖	同	百二十萬尾	一萬二千圓	牡蠣	同	三十萬斤	六萬圓
鯛	同	十二萬尾	一萬八千圓	石花菜	同	一萬斤	七百圓
鱒	永興灣外	二萬尾	一萬二千圓	合計			三十一萬九千七百圓

水産物ノ加工ニ關シテハ殆ト見ルヘキモノナシ強テ之レヲ索ムレハ僅カニ石花菜、牡蠣殻ノ二者アルノミ魚油ヲ搾取スヘキ鯧アリ先年來數回搾油ハ試ミラレタリト雖得ル處失フ處ヲ償ハスシテ肥料干鰯ヲ製スルニ如カス何トナレハ第一燃料ノ

廉ナル上ニ煮汁ハ廢物トナルニヨル内地ニテハ煮汁ハ皆古樽ニ容レ上等肥料トシテ販路ヲ有シ燃料ノ價ヲ代償シ得トモ朝鮮ニ於テハ未タ其利用ノ途開ケス鯨モ亦搾油スヘキモノナレトモ其漁獲高多カラサルカ故ニ之レヲ生魚ノ儘販賣シ又ハ醃造シテ輸移出スルノ優レルニ如カス

石花菜ハ寒天ノ原料トシテ需要セラレ當地ニ於テハ暴晒ヲ施サス原草ヲ天日ニ乾燥セシ儘ニテ輸送ス品質ハ最上等ト云フニアラサルモ概シテ良好ナリ然レトモ産額ハ年額一萬斤價格七百圓ニ過キスシテ未タ微々トシテ振ハス

牡蠣灰ハ専ラ土木工事ニ供用セラル而シテ當地産ノ灰ハ多年ノ經驗ニヨリ品質大ニ改良セラレ内地産上等灰ニ比シテ遜色ナシ其原料ノ豊富ナルコト殆ト無盡藏ナレハ多々益辨センノミ方今ニ於テモ獨リ當地附近ニ需要セラル、ノミナラス北方各地ニ於ケル土木工事ニハ皆元山産ヲ供給シツ、アリ製造方法ハ石ト粘土トニ依テ築造シタル大竈中ノ底部ニ薪柴ト石炭トヲ混合セル燃料ヲ敷キテ殻ヲ積ミ又燃料ヲ敷キ殻ヲ積ミ斯クノ如クスルコト數層ニシテ止ミ下部ヨリ点火シ一竈約五日間ニシテ燒盡ス之ヲ篩ニ掛ケ初メテ牡蠣灰ヲ得ルナリ五斗入一俵六十五錢乃至七十錢一年ノ産額三千俵價格二千百圓ナリ

以上ノ如ク水産物ノ加工ニ關シテハ今日特ニ列舉スヘキモノナシ唯左ニ舉クルモノハ將來交通機關發展シ隨テ内地人ノ來往頻繁ナルニ至ラハ囑望ニ足ルモノト思惟セラル

一 鮑其他貝殼ノ細工

二 鯨、鰻、鯨等ノ魚油搾取

三 鯖節及鰻鱧鱈ノ精製

四 罐詰、デンプ、粕漬、麴漬、味附等

(三) 鑛業

由來咸鏡道ノ地鑛物ヲ以テ著ル、ト雖モ元山府ノ面積ハ僅カニ三十方里ニ過キサカ故ニ隨テ其鑛區ノ廣大ナラサルハ固ヨリ其處タリ而シテ今日迄ニ發見セラレタルモノハ

種類	產出數量	價額	產出地	種類	產出數量	價額	產出地
石金	未詳	未詳	赤田社及北面社	方鉛鑛	未詳	未詳	北面社
砂金	同	同	赤田社北面社及縣社	鐵鑛	同	同	北面社
金銀鑛	同	同	縣社、赤田社、北面社	黑鉛	同	同	赤田社及北面社
銀	同	同	北面社				

前記七種トス俱ニ發見日尙淺ク現今試掘的作業ニ止マリ未タ一ケ年ノ產出數量及其價額ハ未知數ニ屬セリト雖黑鉛ヲ除クノ外都テ鑛量豊富ナルカ如シ

今日迄ニ許可濟トナリタル鑛物產地探掘權者氏名等ハ左ノ如シ

種類	產出數量	價額	產地		氏名
			社名	村名	
金銀鑛	未詳	未詳	赤田社	新豐里	小西陸太郎
同	同	同	北面社	新上里、關上里、於雲洞、陽日里	山崎豐治

咸鏡道ノ地ハ實ニ諸鑛無盡藏ナリト雖獨リ元山府ハ古來鑛物ヲ以テ聞エス既ニ二十年前内地ノ某有方家ヨリ永興金鑛探檢ノ爲ニ回技師ヲ派遣セシコトアリ而シテ其際二人共ニ元山村ニハ石金沙金共ニ存在ヲ否定セシコトアリ故ニ兩隣郡ナル安邊文川等ノ鑛山ニ對シテハ年來多少ノ注意ヲ拂ヒツ、アリシカ如キモ元山府ノ鑛山ハ殆ト久シク遺却セラレ居タリシモノ

動機ニ依リ一兩年來諸鑛頻々發見セラレ以テ今日ニ至レリ故ニ今後専門的ニ普ネク探檢スルニ非レハ那邊ニ有望ナル鑛山ノ存在スルヤ無論未知ノコトニ屬ス

因ニ記ス北面、赤田ノ兩社中ニハ大理石、花崗石、石版岩多量ニ存在シ各種工事用石材供給ニ堪ユ可キモ現今ノ經營者カ收支不償ノ嘆聲ヲ漏スハ想フニ専門的頭腦ナキト隨テ設備ノ不完全ナルカ爲ナルヘク今後研究ヲ要スヘキ事項ナルヲ信ス

明治四十四年三月三十日

朝鮮總督府農商工部

京城本町六丁目二十五番戶

印刷所 大和商會印刷部